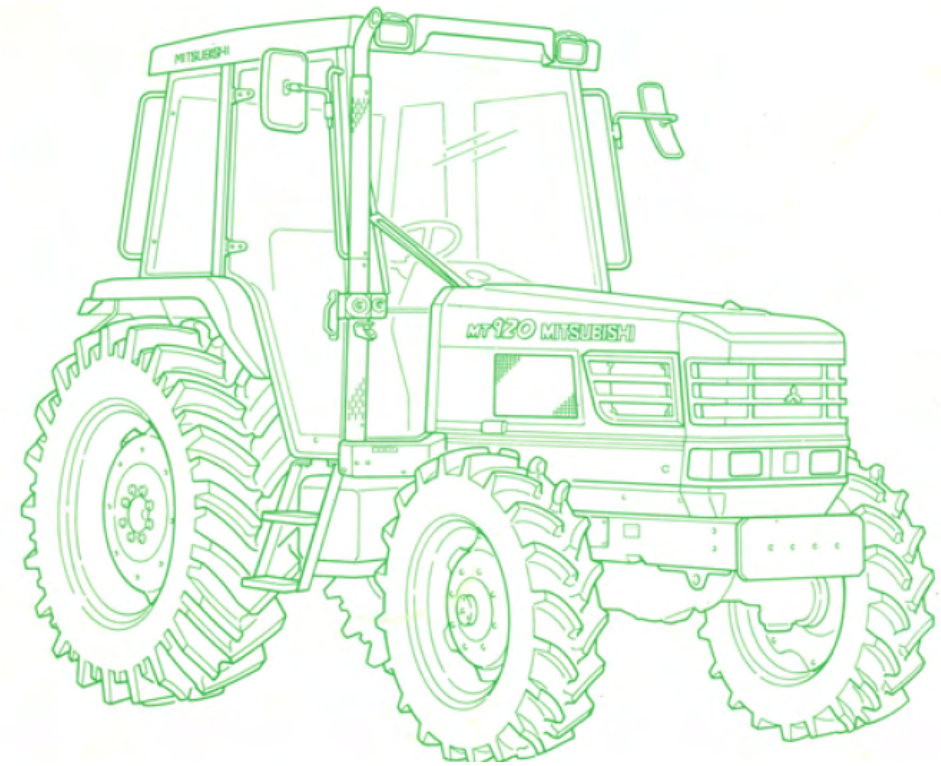
トラクタ

取扱説明書

MT820・920



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

もくじ

安全に作業をするために 4

サービスと保証について 24

公道走行とナンバープレートについて 25

仕様について 26

1 各部のなまえ 27

安全銘板の貼り付け位置 29

各部のはたらき 31

2 運転と作業のしかた 46

1. 作業前の点検 …… 46
2. ならし運転(最初の50時間)について …… 49
3. エンジンの始動・停止のしかた 49
4. 作業機を上下させるには …… 51
5. 作業機の降下速度の調節のしかた …… 52
6. 発進・停止・駐車のしかた …… 53
7. 道路走行のしかた …… 54
8. 坂道での運転のしかた …… 55
9. ほ場への出入りのしかた …… 56
10. 作業に適した速度の選びかた …… 56
11. ほ場での旋回のしかた …… 57
12. 一般の作業機を使う場合の作業位置設定のしかた …… 58
13. ドラフトコントロールの操作のしかた … 59
14. ロータリ耕うんのしかた …… 60
15. デフロックの使いかた …… 61
16. トラックへの積込み積降のしかた …… 61
17. 前輪輪距(トレッド)の調節 …… 62
〈前車軸スライドタイプ(Z仕様)〉
18. 後輪輪距(トレッド)の調節 …… 65
〈ズームトレッドタイプ(Z仕様)〉
19. 油圧外部の取り出しかた …… 68
20. 外部電源取出端子について …… 70
21. 3点リンクについて …… 70
22. スイングドローバについて …… 73
23. 作業機の取り扱いについての注意事項 …… 73
24. パワーステアリングについて …… 74

3 キャビンの取扱いについて 75

1. 各スイッチと操作 …… 75
2. キャビンインナルーフのスイッチ …… 76
3. エアコンの取扱い(コントロールパネル) …… 77
4. ドア・ウインドー …… 80
5. キャビンの簡単な保守・点検・調整 …… 81
6. 冷媒量チェック表 …… 84

4 JAC仕様について(J仕様のみ) 85

1. 各部のなまえとはたらき …… 85
2. 基本的な使いかた …… 87
3. センサ異常時の表示について …… 88
4. 使用後の手入れ …… 88

5 作業後の手入れについて 89
1. 作業後の手入れ …… 89
2. ボンネット・サイドカバーの開閉のしかた …… 89
3. 燃料の点検・給油のしかた …… 90
4. 長期間使用しない場合の手入れ …… 90

6 定期の点検・調整について 92
1. 定期点検一覧表 …… 93
2. オイル・グリース・不凍液一覧表 …… 94
3. 給油・給水一覧表 …… 94
4. 各部オイルの点検・交換のしかた …… 95
5. 各部エレメントの交換のしかた …… 99
6. 冷却水の点検・交換のしかた …… 101
7. 燃料の空気(エア)抜きのしかた …… 103
8. ラジエータスクリーンとエアクリーナエレメントの掃除・交換のしかた …… 104
9. バッテリの点検のしかた …… 106
10. パイプ類の点検について …… 107
11. 電気配線の点検について …… 107
12. グリースアップ(注入)について …… 108
13. ブレーキの点検・調整について …… 109
14. クラッチの点検・調整について …… 109
15. ハンドルの点検・調整について …… 110
16. ファンベルトの点検・調整について …… 110
17. トーインの点検・調整について …… 111
18. ヒューズ・ヒュージブルリンクの点検・交換について …… 112
19. タイヤの点検について …… 113
20. 排気ガスの色について …… 113

7 不調診断 114
1. エンジン関係 …… 114
2. クラッチ・ブレーキ関係 …… 116
3. 油圧関係 …… 116
4. 電装関係 …… 117

用語解説 118

仕様 120

標準付属品 123

オプション 124

配線図 125

安全に作業をするために

ここに記載されている注意項目を守らないと、
死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

● 一般的な注意項目

⚠警告 排気ガスには十分に注意する

締め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。
エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

【守らないと】
排気ガスによる中毒を起し、死亡事故にいたるおそれがあります。



2010901

⚠警告 こんなときは運転しない

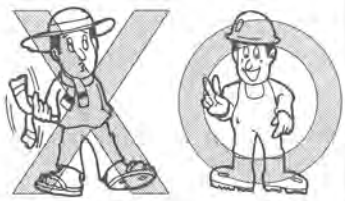
- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- 酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 18才未満の人。


2010902

⚠警告 作業に適した服装をする

はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した防護具などを付け、だぶつきの無い服装をしてください。

【守らないと】
機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。


2010903

⚠警告 シートベルトを必ず装着する

トラクタを運転するときは必ずシートベルトを締めてください。

【守らないと】
転落・転倒事故をおこした場合に、死亡または重傷を負うおそれがあります。


2010904

⚠警告 操作時ハンドルはチルトハンドルを固定する。

ハンドルの調節時以外には必らず、チルトハンドル操作レバーは「ロック」位置に固定し、テレスコハンドル操作ノブは「LOOK」方向に廻してハンドルを固定してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



2010926

⚠警告 機械を他人に貸すときは取扱方法を説明する

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



2010905

⚠警告 運転者以外に人を乗せない

このトラクターの乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。

【守らないと】

思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。



2010906

⚠警告 エンジン始動時は必ず運転席にすわり周囲の安全確認をする

エンジン始動時は必ず運転席にすわり、シートの位置と周囲の安全を確認してください。

【守らないと】

思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。



2010966

⚠注意　マフラの高温に注意

運転中およびエンジン停止直後の、マフラは高温ですので、触れないでください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2010970

⚠注意　機械の改造禁止

純正以外の部品や指定以外のアタッチメントを取り付けないでください。

改造をしないでください。

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。



2010907

⚠注意　点検・整備を行なう

機械を使う前と後には必ず点検・整備をしてください。特に、クラッチ・ブレーキ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備してください。

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。



2010908

⚠注意　定期点検整備を受ける

1年毎に定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。特に、パワーステアリングのホース、ブレーキのホースは2年毎に交換してください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。



2010908

● 作業前後の確認時の注意項目

⚠ 危険　注油・給油はエンジンが冷めてから行なう

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれあります。



2010910

⚠ 危険　燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明は、絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料に引火し、火災をおこすおそれがあります。



2010911

⚠ 危険　バッテリ点検時は火気厳禁

バッテリの点検・充電時は火気厳禁です。

【守らないと】

バッテリに引火、爆発してヤケドなどを引きおこすおそれがあります。



2010913

⚠ 危険　バッテリ液は体につけないようにする

バッテリ液を身体や服につけないようにしてください。
万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

【守らないと】

ヤケドをしたり、服が破れるおそれがあります。



2010914

⚠危険　燃料もれに注意

燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



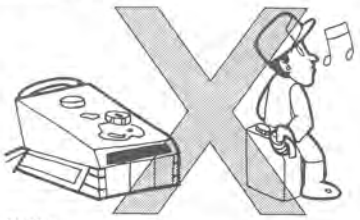
2010915

⚠危険　燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010916

⚠警告　点検整備は平坦で安定した場所で行なう

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、トラクターの前輪には車止めをして点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



2010922

⚠警告　マフラ・エンジン囲りのゴミは取り除く

マフラやエンジン周辺部にワラクズ・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010924

⚠警告 電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災事故をおこすおそれがあります。



2010925

⚠警告 ブレーキ・ハンドルの点検を必ず行なう

ブレーキのききが悪かったり、片ぎきがないように、またハンドルに著しいガタや遊びがないように、点検をしてください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



2010926

⚠警告 高圧オイルに注意

油圧の継手やホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、継手やホースをはずす前には、作業機を下げて油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010967

⚠注意 バッテリの取り付け取外しは正しい手順で行なう

バッテリを取り付けるときは＋側をさきに取り付け、取り外すときは－側から取外します。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010917

⚠注意　点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。



2010919

⚠注意　カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010920

⚠注意　点検整備は過熱部分が十分冷めてから行なう

マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2010921

⚠注意　使用していないPTO軸にはカバーをつける

PTO軸を使用しないときは、グリスを塗りカバーを付けておいてください。

【守らないと】

巻き込まれたりして傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010944

⚠注意　目的に合った工具を正しく使用する

点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。また点検調整に必要な工具はトラクターに常備しておいてください。

【守らないと】

整備不良で事故を引きおこすおそれがあります。



2010927

●作業機に関する注意項目

⚠警告　作業機の着脱は平坦な場所で行なう

作業機の着脱は、平坦で安定した場所でおこなってください。夜間は、適切な照明をしてください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。

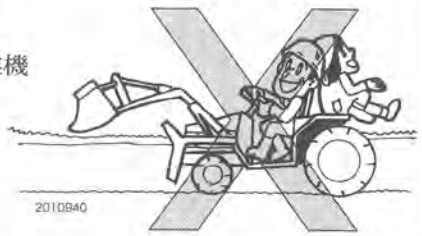

2010939

⚠警告　人や物をウエイト代りにしない

バランスウエイト代りに人や物を乗せないでください。作業機に合った純正のバランスウエイトを使用してください。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。


2010940

⚠警告　トラクターと作業機の周辺に人を近づけない

トラクターを移動して作業機と着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。


2010941

⚠警告 重い作業機を付けるときはウエイトでバランスを取る

重い作業機を装着したときは、フロントにバランスウエイトを付けて、バランスを保ってください。

【守らないと】

バランスを崩し事故を引きおこすおそれがあります。



2010942

⚠警告 トラクターに作業機を装着するときは、作業機の取扱説明書を必ず読む

トラクターに作業機を装着するときは、事前に必ず作業機の取扱説明書をよく読んでください。

【守らないと】

傷害事故や機械の破損をひきおこします。



2010973

⚠警告 傾斜地やけん引作業・ローダ作業をするときは、輪距を標準トレッドにする

【守らないと】

転倒事故を引きおこすおそれがあります。



2010943

⚠警告 作業機を付けたときは旋回に注意

作業機によってはかなりの長さになるものがありますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。

【注意しないと】

作業機が衝突したりして、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010988

⚠警告 トレーラをけん引するときの注意

トレーラ側のブレーキとトラクターのブレーキを連動（大型特殊自動車）してください。また、坂道での変速はしないでください。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



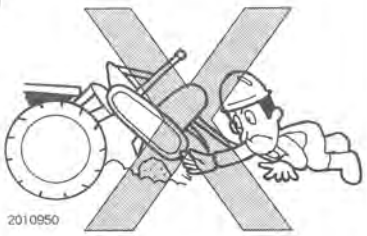
2010947

⚠警告 作業機の下にもぐったり、足を入れない

作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

作業機が下がったときに、傷害事故負うおそれがあります。


2010950

⚠警告 ローダー作業時は前後バランスに注意

ローダー作業時は、前後の一方向にバランスがかたよらないように、ウエイトまたは作業機を装着して標準トレッドにしてください。

【守らないと】

バランスを崩し転倒事故を引きおこすおそれがあります。


2010951

⚠警告 作業機指定の PTO 回転を守る

低速回転用の作業機を高速回転で使用しないでください。作業機指定の PTO 回転速度を厳守してください。

【守らないと】

作業機が異常作動し、事故や機械の破損を引きおこします。


2010956

●運搬時の注意項目

⚠危険　積込み、積降しするときは左右のブレーキペダルを連結す

積込み、積降しするときは、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

【守らないと】

緊急時ブレーキ操作を行なった際、ブレーキが片ぎきして転落などの事故を引きおこします。



2010971

⚠警告　あゆみ板の上では、だ性運転はしない

あゆみ板の上での走行は十分注意しておこなってください。
クラッチを踏んだり、主変速、副変速・リバーサを「中立」位置にしてのだ性運転はしないでください。シャトル

【守らないと】

機械の重みで坂を下がり、転落などの事故をまねくおそれがあります。



2010935

⚠警告　強度・長さ・幅の十分あるあゆみ板を使用する

積込み、積降しをするときは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け車止めをしてください。使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップのしないものを選んでください。

【守らないと】

転落などの事故を引きおこすおそれがあります。



2010961

⚠警告　登るときは後退、降りるときは前進で行なう

トラックに積込むときは後退で、降りるときは前進で行なってください。

【守らないと】

バランスを崩し、転落などの事故を引きおこすおそれがあります。



⚠警告 ロープでトラックに確実に固定する

トラックにのせて移動するときは、駐車ブレーキを掛け、ギヤを入れて強度の十分あるロープでトラックにトラクターを固定してください。

【守らないと】

荷台からトラクターが転落したりして、事故を引きおこすおそれがあります。



2010963

●移動・ほ場出し入れ時の注意項目

⚠警告 関係法規を守り安全運転を行なう

道路を走行するときは、関係法規を厳守し、ヘルメットをかぶってください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。


2010928

⚠警告 周囲の安全を確認して、ゆっくりと発進する

周囲の安全を確認してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

【守らないと】

傷害事故をおこすおそれがあります。



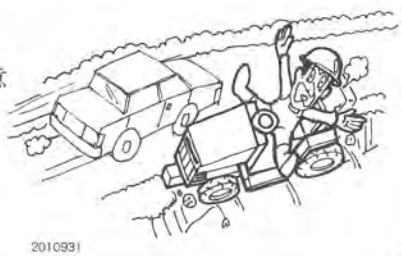
2010929

⚠警告 移動時は路肩に注意

溝のある農道や両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意してください。

【注意しないと】

転落事故をおこすおそれがあります。


2010931

⚠警告 移動走行時は左右のブレーキペダルを連結する

移動走行時には、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

【守らないと】

ブレーキ操作の際、ブレーキが片ぎきし、急旋回や転倒するおそれがあります。



2010932

⚠警告 急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ 禁止

発進・停止はゆっくりと行なってください。旋回をするときは、充分スピードを落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では、十分速度を落としてください。

【守らないと】

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。


2010933

⚠警告 坂道・あゆみ板の上では変速禁止

あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道やあゆみ板の上では、変速をしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、事故をおこすおそれがあります。


2010934

⚠警告 坂道やあゆみ板の上では、だ性運転はしない

坂道やあゆみ板の上での走行は十分注意しておこなってください。クラッチを踏んだり、主変速、副変速・シャトルを「中立」位置にしてのだ性運転はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下がり、転落などの事故をまねくおそれがあります。



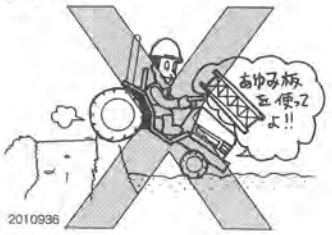
2010935

⚠警告 溝・あぜを渡るときはあゆみ板を使用する

ほ場に入るとき、溝・あぜを渡るとき、軟弱な場所を通るとき、必ずあゆみ板を使用してください。あゆみ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

スリップや転倒による事故をおこすおそれがあります。



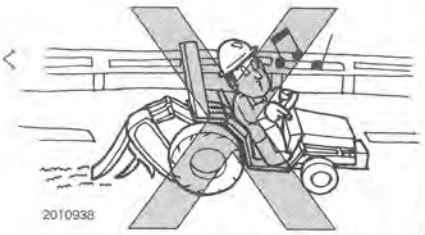
2010936

⚠警告 公道走行時は作業機の装着禁止

公道走行をするときは、ロータリなどの作業機を取り外してください。

【守らないと】

道路交通法違反です。事故を引きおこすおそれがあります。


2010938

⚠警告 公道走行をするときは道路交通法規を厳守してください

【守らないと】

事故をおこすおそれがあります。


2010987

⚠注意 暖気運転中は駐車ブレーキを掛ける

【守らないと】

トラクターが自然に動きだし、事故をひきおこすおそれがあります。



2010937

● 作業時の注意項目

⚠ 警告　ハウス内での作業では換気を十分にする

排気ガスが充満しないように、十分に換気を行なってください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒を起し、死亡事故にいたるおそれがあります。



2010948

⚠ 警告　爪に巻き付いた草などを取るときはエンジン停止

【守らないと】

機械に巻き込まれて、重傷を負うおそれがあります。



2010949

⚠ 警告　子供を近づけない

子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010952

⚠ 警告　ロータリ作業ではダッシュに注意

地面が硬かったり、石の多いところでは、ロータリをゆっくりと地面に降ろしてください。回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛出す（ダッシュ）ことがあります。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



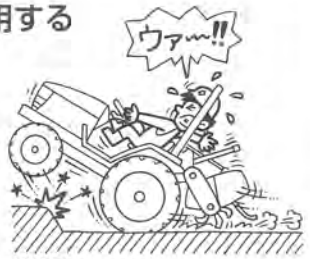
2010953

⚠警告 あぜ越え、段差越えのときはあゆみ板を使用する

田・畑への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときはあゆみ板を使用し、地面に接地しない程度に作業機を下げ重心を低くしてください。

【守らないと】

バランスを崩して転倒するおそれがあります。



2010954

⚠警告 わき見、手放し運転はしない

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010955

⚠警告 エンジン始動時は、作業機が下がっているか確認

エンジン始動時は、ポジションレバー「最下」、にして、作業機が下がっていることを確認してください。

【守らないと】

作業機が不意に下り、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010968

⚠警告 機械から離れるときは平坦地に置きエンジンを止める

機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めて、必ず駐車ブレーキを掛け車止めをしてください。また、作業機は地面に接地してください。

【守らないと】

トラクターが動きだし、事故をおこすおそれがあります。

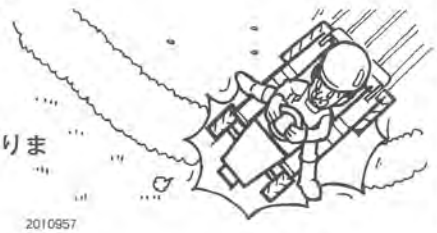

2010958

⚠ 警告　旋回時はデフロックを解除する

必ずデフロックを解除して旋回してください。

【守らないと】

思うように旋回ができずに、事故を引きおこすおそれがあります。



⚠ 警告　けん引作業はドローバを使用

けん引作業は必ずドローバを使用してください。トップリンクやロアリンクなどでのけん引は絶対しないでください。

【守らないと】

転倒のおそれがあります。



●作業終了後・格納時の注意項目

⚠ 危険　注油・給油はエンジンが冷めてから行なう

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれあります。



⚠ 危険　ラジエタが熱いときはキャップを開けない

ラジエタが過熱しているときには、絶対にラジエタキャップを開けないでください。

【守らないと】

熱湯が吹き出し、ヤケドするおそれがあります。

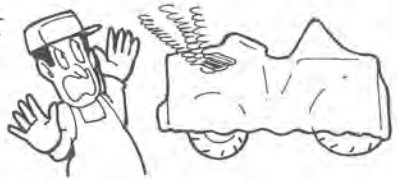


⚠危険　シートは機械が十分冷めてからかける

機械にシートをかける場合は、マフラやエンジンが十分冷えてからかけてください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010965

⚠警告　点検整備は平坦で安定した場所で行なう

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、トラクターの前輪には車止めをして点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



2010922

⚠警告　マフラ・エンジン囲りのゴミは取り除く

マフラやエンジン周辺部にワラクズ・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010924

⚠警告　電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災事故をおこすおそれがあります。



2010925

⚠警告 長期格納時はバッテリとキーを外す

長期間使用しないで格納する場合はバッテリを取り外し、キーを抜き取り保管してください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



2010964

⚠注意 長期格納時はクラッチを切っておく

長期間格納する際には、必ずクラッチペダルをロック「切」状態にしてください。

【守らないと】

クラッチが切れなくなり、事故を引き起こすおそれがあります。



2010969

⚠注意 高圧オイルに注意

油圧の継手やホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、継手やホースをはずす前には、作業機を下げて油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010967

⚠注意 バッテリの取り付け取外しは正しい手順で行なう

バッテリの取り付けるときは＋側をさきに取り付け、取り外すときは－側から取外します。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010917

⚠注意　点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。



2010919

⚠注意　カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010920

⚠注意　点検整備は過熱部分が十分冷めてから行なう

マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2010921

サービスと保証について

保証書について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

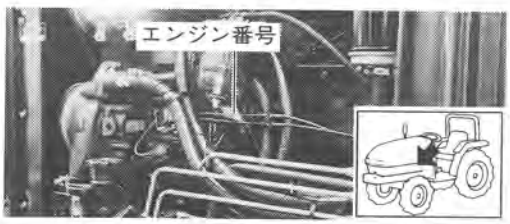
アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに、114ページの「不調診断」に従って点検、処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、お近くの弊社支店までご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は？
  （何速で、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか？
  （約□□アールまたは約□□時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えください。







補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

トラクターの保証

※エンジンおよび本機で封印されている所はさわらないでください。性能を大きく悪くするばかりか、封印が外れたと認められる場合は、一切の保証を受けられなくなります。

なお、詳しくは保証書をご覧いただくようお願いいたします。

公道走行とナンバープレートについて

公道走行をするためには

このトラクターは、道路運送車両法の大型特殊自動車です。

- 公道を走行する場合は、大型特殊自動車の運転免許証が必要です。必ず免許証と自動車検査証を所持してください。
- 勝手に構造や仕様を変更した場合は、公道を走行することができなくなることがありますのでご注意ください。
- 作業機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。必ず作業機を取り外して走行してください。
- 作業により変更した輪距などは、必ず標準状態に戻してから走行してください。(62～68ページ参照)

⚠警告

- **公道走行するときは、道路交通法等の関係法規を厳守してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**

登録

トラクタを購入したときは「大型特殊自動車」として運輸局（旧陸運局に登録申請し、ナンバープレートの交付および封印の取付を受けなければなりません。

詳しくは、お買上げいただきました特販店または農協へお問い合わせください。

車検

自動車検査証の有効期間は、2年間です。有効期限の切れるまでに車検を受けなければなりません。

整備

このトラクタを運転する場合、1日1回は運転の前に点検を行ってください。なお、くわしくは93ページの手入れと点検・調整の頁を参照してください。

自動車保険

大型特殊自動車の運転には、自動車損害賠償任意保険が必要です。

また万一の交通事故補償の場合に備え、任意保険への加入をお勧めします。

仕様について

仕様について

本機には下記の仕様があり、取扱説明書の内容で、仕様によっては該当しない項目もありますので、ご了承ください。

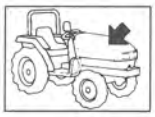
本書では形式仕様の異なる製品を次のように表示しています。

JAC仕様……J	キャビン仕様 ……X
ダイヤクイックターン仕様……標準	※ロータリーにつきましては、ロータリーの取扱説明書をご覧ください。
ハイロー仕様 ……S	
ズームトレッド仕様 ……Z	

本製品の使用目的について

本製品は、ほ場においてのロータリー耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業及び路上でのトレーラけん引作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは決して行なわないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。(詳細は保証書をご覧ください。)

方向・位置マークについて



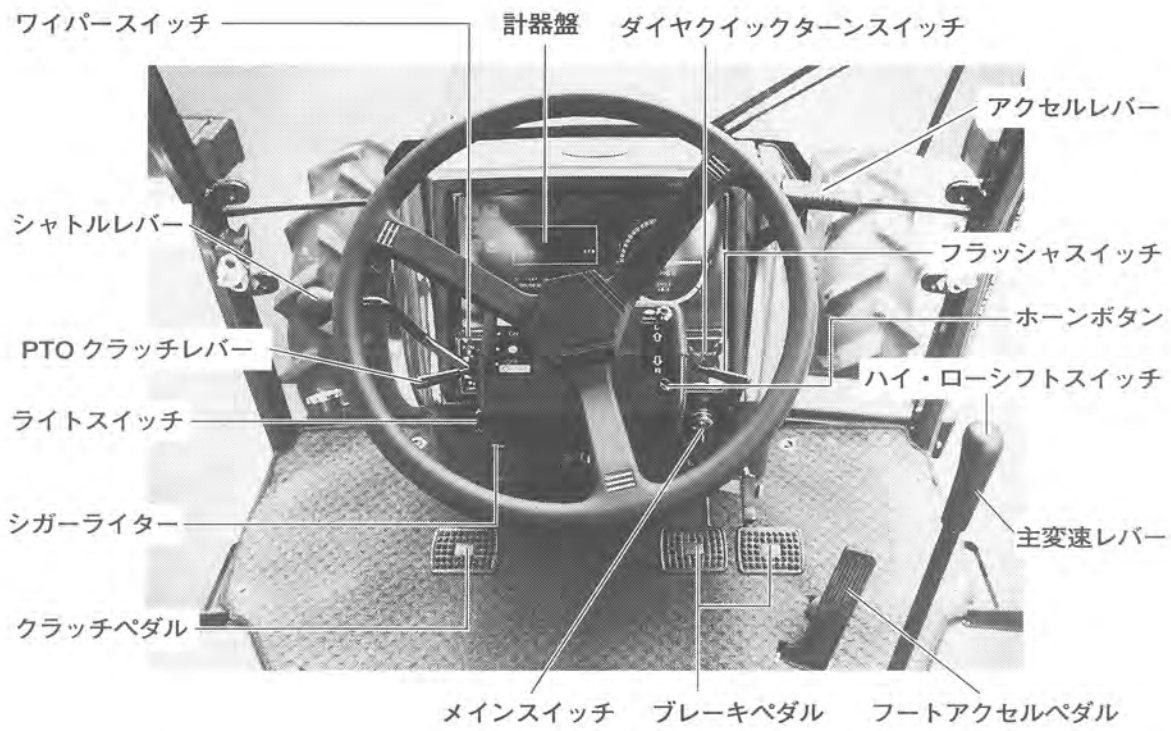
本機のどの位置にあるか、「見ている方向（⬅印)」と「位置（●印)」をあらわしています。

各部のなまえ

※この取扱説明書の説明図は、本機MT920を基準にしています。



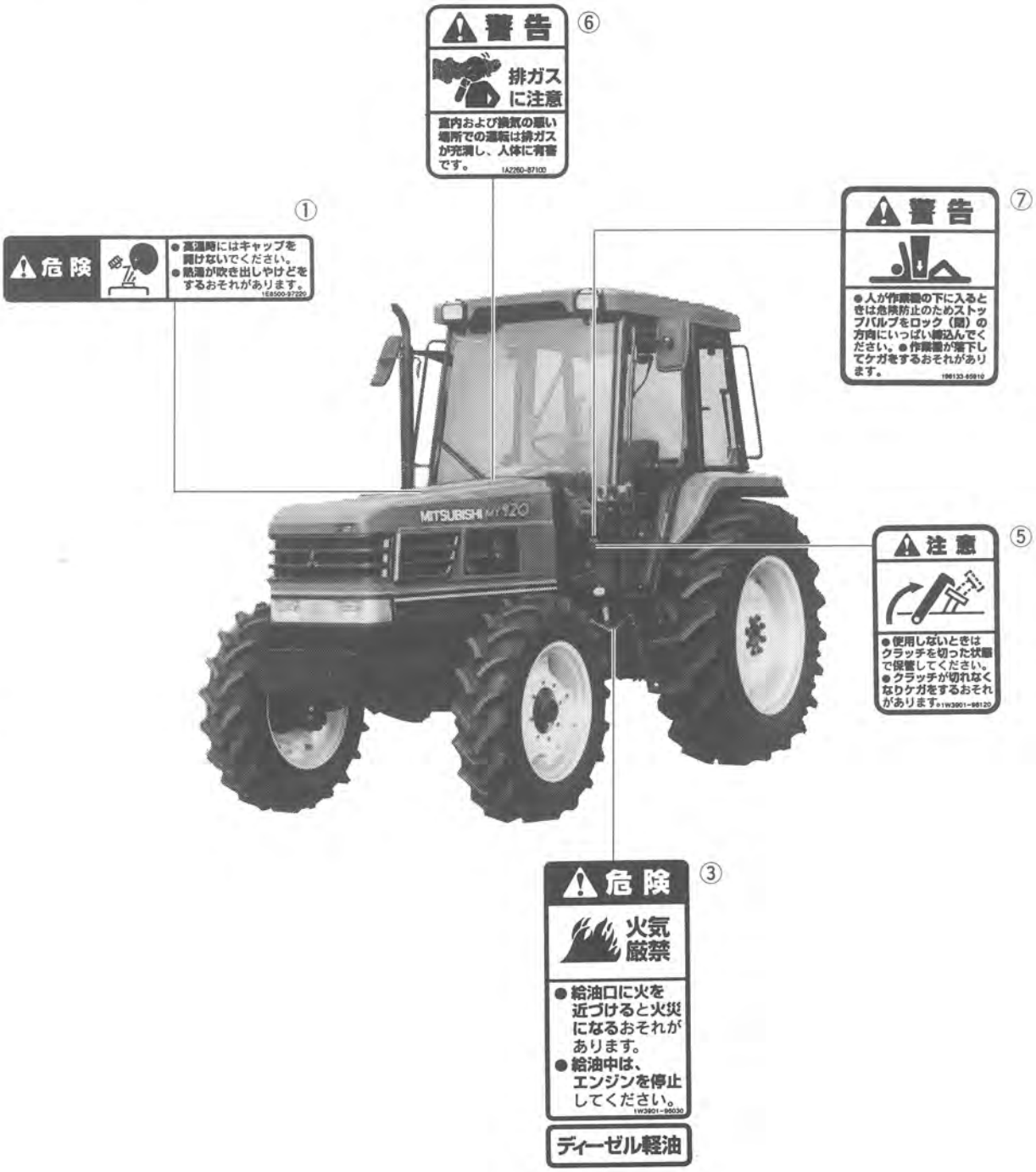


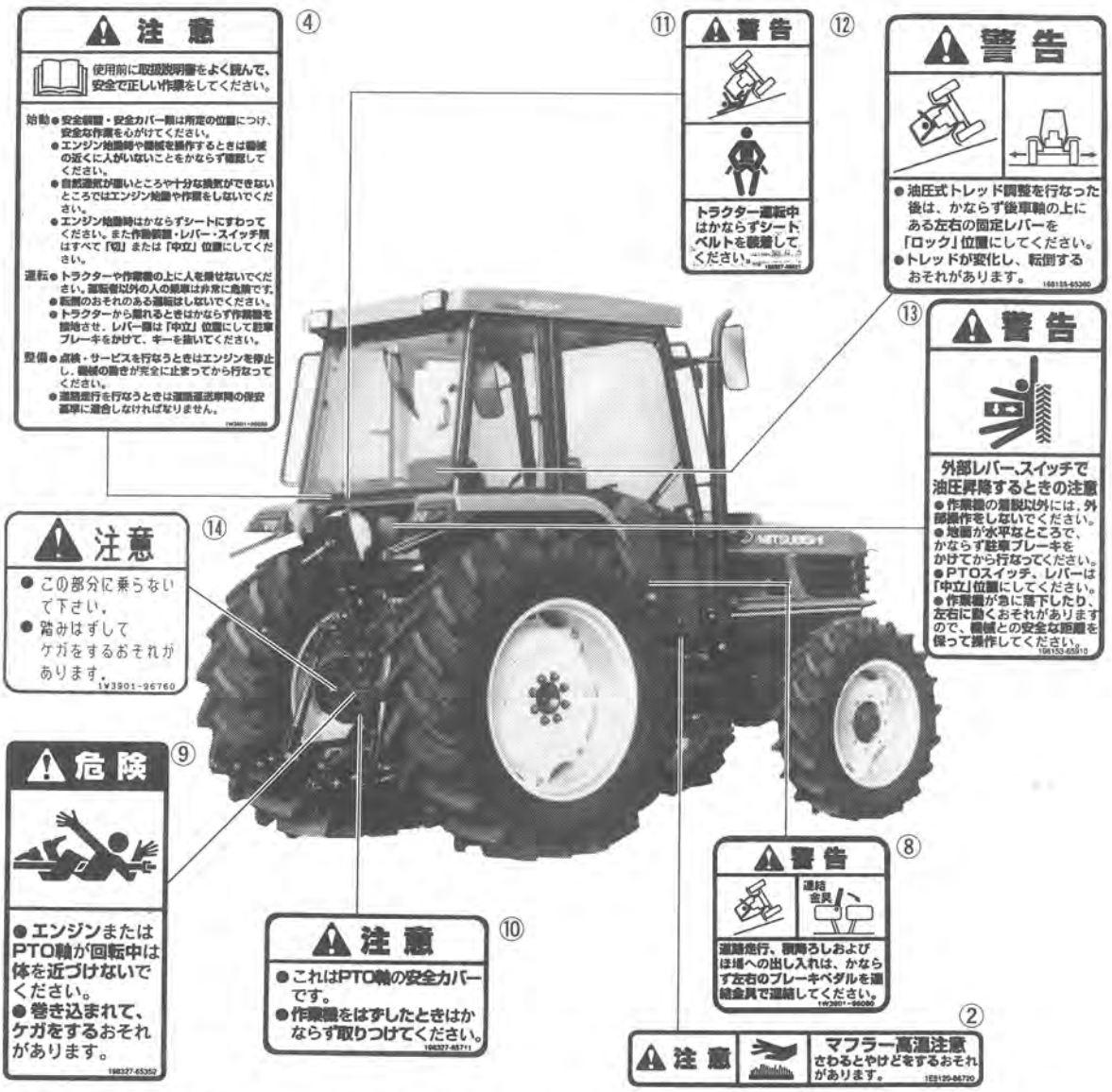

ワイパースイッチ
計器盤
ダイヤクイックターンスイッチ
アクセルレバー
シャトルレバー
フラッシャスイッチ
ホーンボタン
PTO クラッチレバー
ハイ・ローシフトスイッチ
ライトスイッチ
主変速レバー
シガーライター
クラッチペダル
メインスイッチ
ブレーキペダル
フートアクセルペダル


グランドPTO切換レバー
PTO 変速レバー
駐車ブレーキレバー
副変速レバー
PTO 変速レバー
外部油圧
切替レバー
(ズームトレッド)
ポジションコントロールレバー
ドラフトコントロールレバー
油圧ストップ・
フローコントロールバルブ

安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために安全銘板の貼り位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合には、新しいものに貼り直してください。

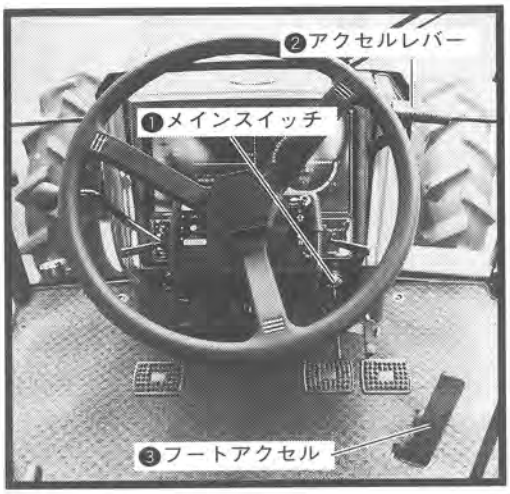




紛失または破損された場合には、最寄りの販売店または農協に下記の表を参考にご注文ください。

No.	部品番号	備考	No.	部品番号	備考
①	9030 0029 400	ラジエタ貼付	⑧	9035 0000 050	ブレーキ
②	9030 0029 390	マフラ高温	⑨	9030 0029 320	PTO 軸巻込
③	9035 0000 010	燃料、火気厳禁	⑩	9030 0029 310	PTO 軸カバー
④	9035 0000 020	始動、運転、整備	⑪	9030 0029 420	シートベルト
⑤	9035 0000 030	クラッチペダル	⑫	9035 0000 060	トレッド調整
⑥	9354 0000 090	排気ガス	⑬	9030 0000 070	外部油圧レバー
⑦	9030 0029 380	落下防止	⑭	9035 0000 080	PTO 軸カバー

エンジンコントロール関係



❶メインスイッチ



⚠注意

- **トラクターを使用しないときは必ずキーを抜いて、安全な保管場所にキーを保管してください。守らないと、児童などが操作し、事故を起こすおそれがあります。**

エンジンの始動に使用します。

「OFF」　エンジンが停止し、電流が流れません。(キーを抜き取れます)

「ON」　各電装品スイッチに電流が流れます。
エンジンが停止している場合、エンジン油圧パイロットランプとチャージパイロットランプが点灯します。

「START」　セルモータが回転し、エンジンが始動します。エンジンが始動したらキーから手を離してください。キーは自動的に「ON」の位置に戻り、連続運転に入ります。

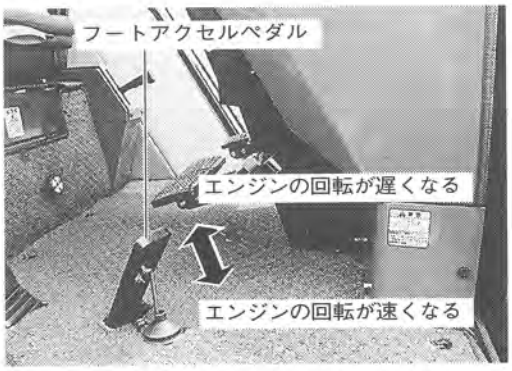
「HEAT」　吸気を加熱し、寒気時（-5°以下）に使用します。

❷アクセルレバー



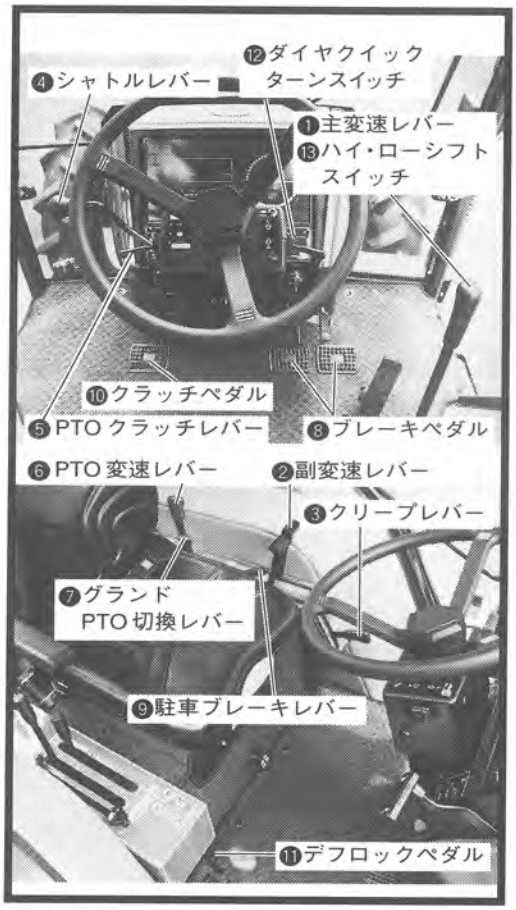
エンジン回転を速くしたり、遅くしたりするのに使用します。一定回転で作業する場合に使用します。

❸フートアクセルペダル



エンジン回転を速くしたり、遅くしたりするのに使用します。主に路上走行時に使用します。

走行・PTO関係

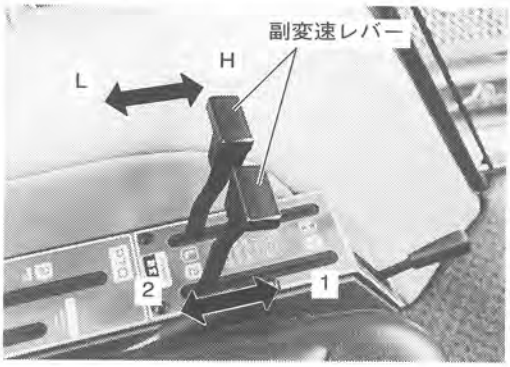


❶主変速レバー



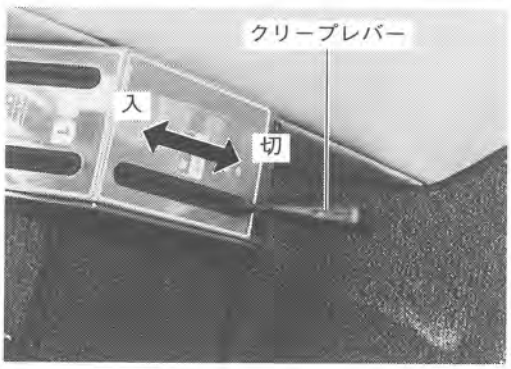
主変速レバーは、走行中でも4段階の変速ができます。クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで変速してください。

❷副変速レバー



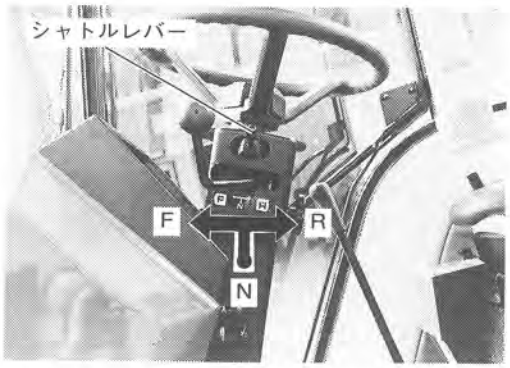
副変速レバーは4段階に変速でき、主変速との組合わせで、16段の変速ができます。クラッチペダルをいっぱいに踏み込み、機体が停止してから変速してください。

❸クリープレバー



クリープレバーを「**入**」にすると超低速になり、「**切**」にすると標準速度になります。

❹シャトルレバー



「前進」と「後進」の切り替えに使用します。クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで操作してください。

※「中立」位置ではレバーが自動的にロックされます。レバーを持ち上げてから操作してください。

【取扱いの注意】

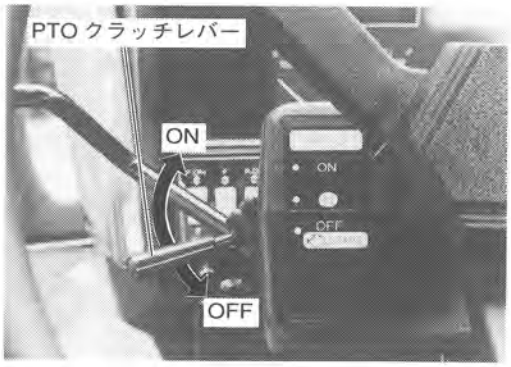
- 「前進」「後進」のシフト操作は、いったん「中立」位置にして、機体が停止してから操作してください。

❺PTO クラッチレバー

走行とは無関係に独立（インデペンデント）してPTO 軸の回転が得られます。

「ON」;PTO を使用するときの位置で、パネルのモニタランプが点灯します。

「N」または「OFF」;PTO を切る位置、作業をしないときは必ずこの位置にしておいてください。



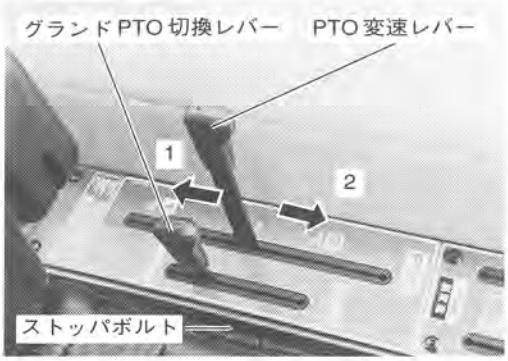
【取扱いの注意】

- 安全のため、PTO レバーが「OFF」の位置にないと、エンジンが始動しない構造になっています。

⑥ PTO 変速レバー

⚠注意

- **作業機指定の PTO 回転速度を厳守してください。守らないと、作業機が壊れ事故をおこすおそれがあります。**



PTO 軸（動力取出軸）の回転数を 2 段階に変速できます。

PTO クラッチレバーを必ず「N」にしてから変速してください。ギヤが入りにくいときはクラッチレバーを再度「ON」から「N」にして変速します。

エンジン回転数 2200rpm のときは、各変速段での PTO 回転数は付表にありますので、120 ページを参照してください。

PTO 回転数を 540rpm にしたいときは、エンジン回転数は次のようにしてください。

PTO 変速	エンジン回転数
1　速	1836rpm
2　速	1451rpm

【取扱いの注意】

- **エンジン回転が高いまま変速したり、無理に変速しようとすると破損する原因になります。**

⑦ グランド PTO（切替）レバー

【取扱いの注意】

- **通常このレバーは、インデペンデント PTO の側にセットされ、ボルトで固定してあります。グランド PTO を使用しないときは必ずインデペンデント PTO にしてレバーをボルトで固定しておいてください。**
- **グランド PTO は軽作業に限定使用してください。**
- **PTO 変速は必ず 1 速で使用してください。**
- **ロータリー等の重作業には使用しないでください。**
- **副変速 1・2 速において、ハーベスタ等の負荷の大きなものをグランド PTO「入」で駆動する場合は、エンジン回転 1000rpm 以下で使用してください。クラッチもゆっくりつないでください。**
- **グランド PTO のときは、PTO クラッチレバーは「ON」にしないでください。**

以上を守らないと、故障及び重大事故の原因となります。

グランド PTO の使用方法

ストッパボルトを緩めてから内側の切替レバーをグランド PTO にしてください。PTO 軸の回転数は車速に比例して回転します。

外側の PTO 変速レバーで、PTO 軸と車軸との回転比が 2 段得られますが必ず「1」速で使用してください。

後車軸 1 回転時の PTO 軸回転数は次のようになります。

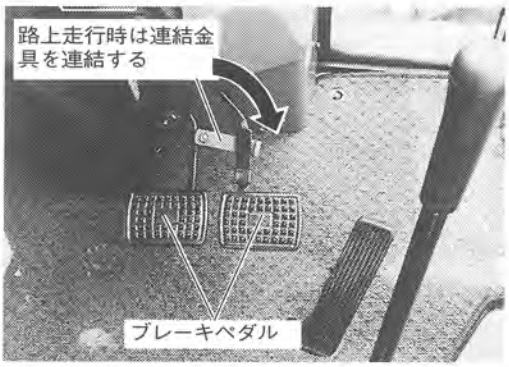
PTO 変速	PTO 軸回転数
1　速	19 回転

車軸との連動ですので、後輪が回転しないと、PTO 軸も回転しません。バック走行のときはPTO 軸も逆回転となりますので注意してください。

⑧ブレーキペダル

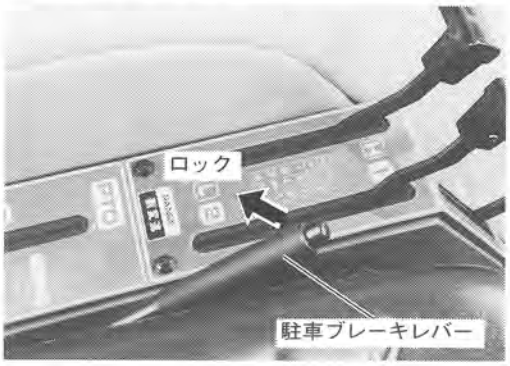
⚠警告

- **移動走行時には、かならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。さもないと、ブレーキが片ぎきし、急旋回や転倒するおそれがあります。**



ブレーキペダルは左右独立しており、ほ場内で小回りする場合に旋回したい側のブレーキペダルを踏み込むと、踏み込んだ側の後輪の動力がたたれ、ブレーキがかかり、小回りができます。

⑨駐車ブレーキレバー

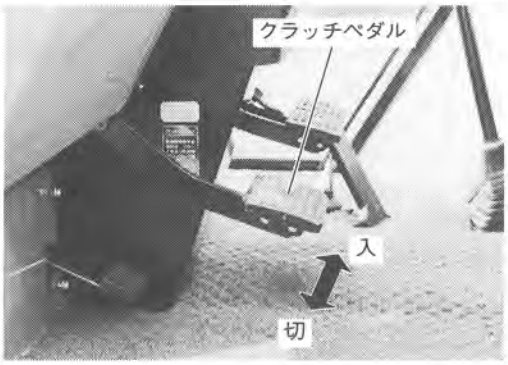


ブレーキペダルとは完全に独立した駐車ブレーキです。駐車ブレーキレバーを引き上げるとブレーキがかかります。駐車ブレーキレバーを引き上げると、キースイッチ「ON」でモニタランプが点滅します。

【取扱いの注意】

- **発進するときは、駐車ブレーキレバーとモニタランプの消灯を確認してください。ブレーキをかけたまま走行しますと、破損の原因となります。**

⑩クラッチペダル

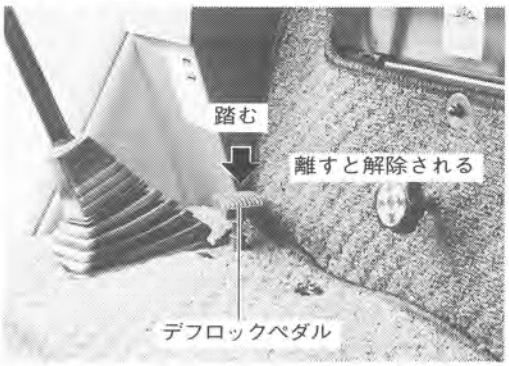


エンジンの動力を断続するのに使用します。

⑪デフロックペダル

⚠警告

- **旋回時は必ずデフロックを解除してから旋回してください。守らないと、事故を起こすおそれがあります。**



軟弱地で後輪の片輪が空転した場合、両車輪を一体に駆動させる装置です。スリップして走行しにくいときに役立ちます。

⑫ダイヤクイックターン，2WD,4WD 切替えスイッチ

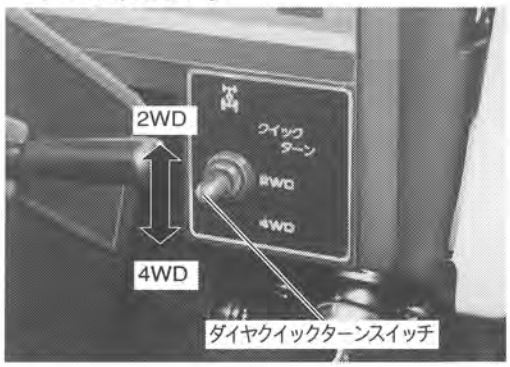
「2WD」「4WD」「ダイヤクイックターン」の切替えができます。停止時・走行時にかかわらず、クラッチペダルを踏まずにスイッチを切替えてください。(**「4WD」「ダイヤクイックターン」**のときモニタランプが点灯します)

⚠警告

- **スイッチをダイヤクイックターンの状態で路上走行や傾斜地を走行しないでください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。**
- **ほ場から出る前に必ず、スイッチを 2WD または 4WD にしてください。**

【取扱いの注意】

- **フロントローダや前輪に重荷重がかかる作業には使用しないでください。**
- **ダイヤクイックターンの「入」・「切」または、副変速レバーを高速側にするときは、前輪タイヤを直進状態にしてから行なってください。**

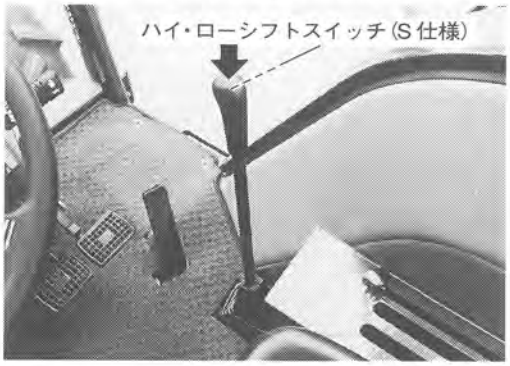


ダイヤクイックターンを使うとスムーズに小回りができ、**「旋回跡が荒れない」「旋回径が小さい」「旋回時間が短い」**などの特長を生かせます。

副変速レバーが「**L-1,L-2,H-1 速**」位置のときに、スイッチを「**ダイヤクイックターン**」位置にすると、ダイヤクイックターンが働きます。スイッチを「**2WD**」または「**4WD**」位置にすると、働かない状態になります。

⑬ハイ・ローシフトスイッチ（S仕様）

エンジン回転が低下したとき、スイッチで低速側に切替えて負荷を乗り切ります。低速側でモニタランプが点灯します。通常はランプが消えている高速側で作業します。



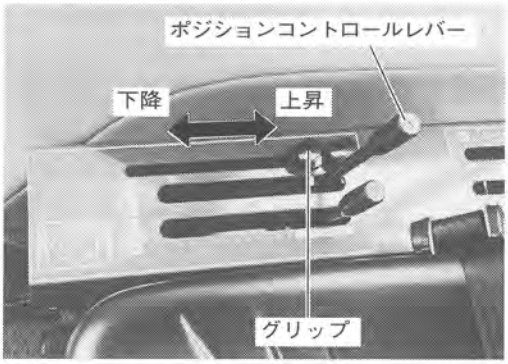


油圧関係

JAC仕様は、85ページの「**JAC仕様について**」を参照してください。



❶ポジションコントロールレバー



作業機を任意の位置に設定し、一定に保ちます。

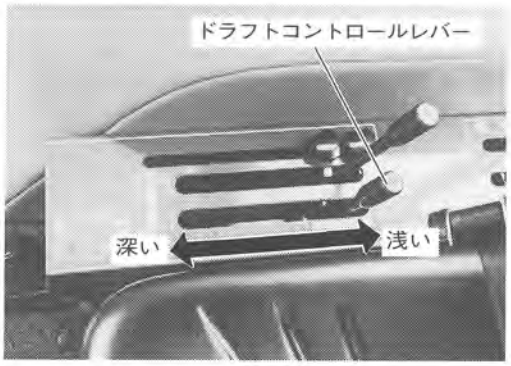
グリップは路上走行時など、ポジションコントロールレバーを「**上昇**」位置で固定するときに使用します。

②外部ポジションコントロールレバー



外部ポジションコントロールレバーは、内部のポジションコントロールレバーに連動されています。作業機の着脱に便利です。作業機にはさまれないよう十分注意してください。

③ドラフトコントロールレバー



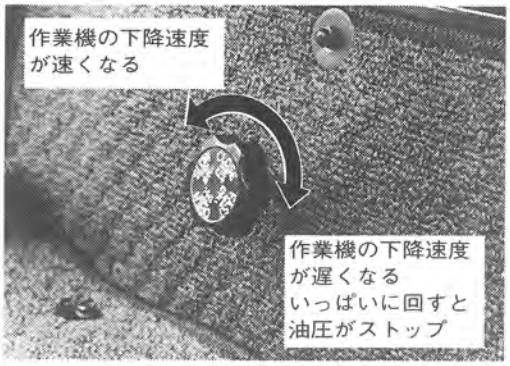
ドラフトコントロールレバーはプラウ、カルチベータなど3点リンクに装した作業機でけん引作業をする場合に使用します。作業機の抵抗が大きくなると、油圧で自動的に作業機が持ち上げられ、抵抗が小さくなると元に戻ります。

ドラフトコントロールレバーは

(1) 耕深を深くまたはけん引力を大きくするときは前方へ動かし、

(2) 耕深を浅くまたはけん引力を小さくするときは後方へ動かします。

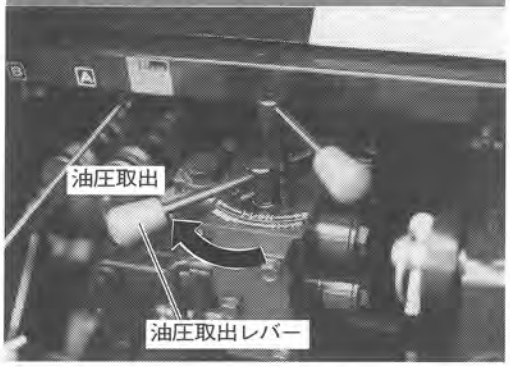
④油圧ストップ・フローコントロールバルブ

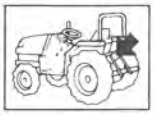


作業機の下降速度を調節するのに使用します（フローコントロール機能）。

また、「右」方向へいっぱい回すと作業機昇降装置への油圧がストップします。

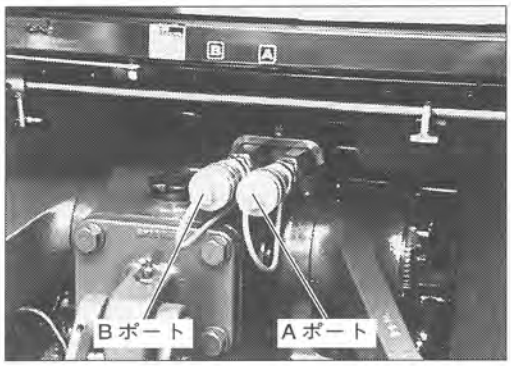
⑤外部油圧取出レバー（Z仕様）ズームトレッドのみ





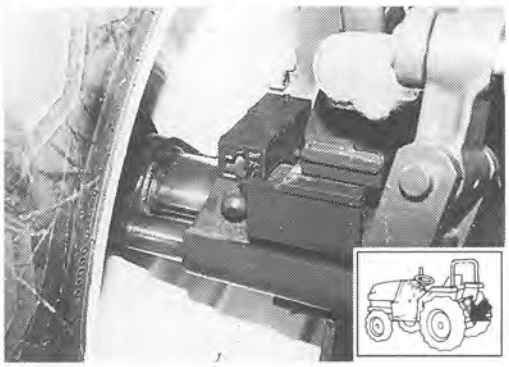


油圧取出口A、Bポートに作業機側から配管します。
油圧取出レバーを「**油圧取出**」にします。操作はサブバルブのコントロールレバーで行ないます。
(詳細は68ページ参照)



ズームトレッド関係(Z仕様のみ)

後輪トレッド（輪距）を油圧で広くするまたは狭くするのに使用します。



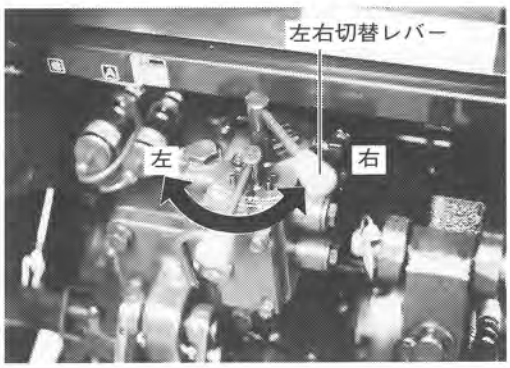
❶油圧取出レバー

油圧取出レバーを「**トレッド**」にします。



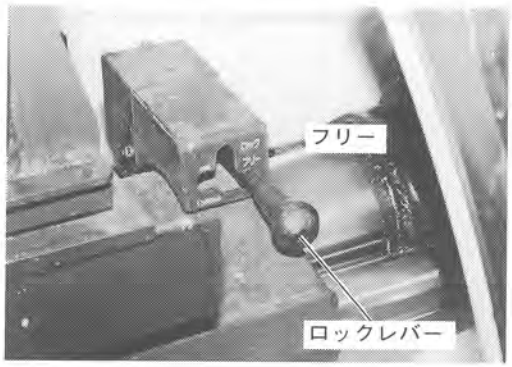
❷左右切替レバー

輪距の変更は左右別々に行ないます。このレバーを右（または左側）にします。

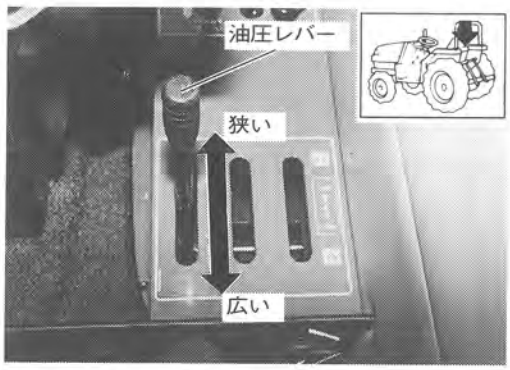


❸ロックレバー

ロックレバーを「フリー」の位置にします。

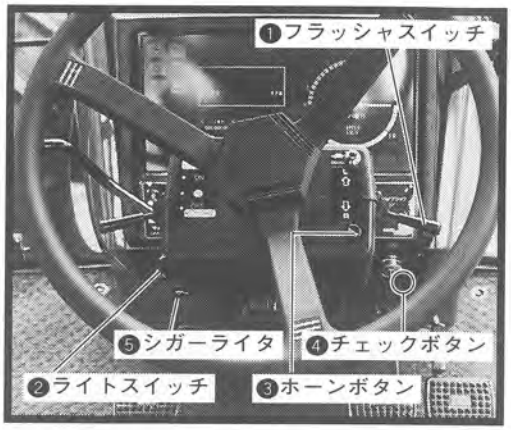


❹油圧レバー



油圧操作レバーを広い（または狭い）側に動かして輪距を変更します。（詳細67ページ参照）

電装関係

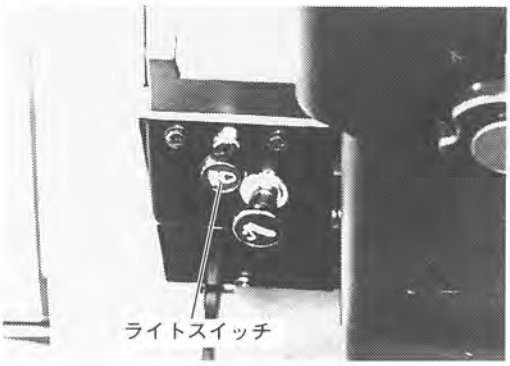


❶フラッシャスイッチ



メインスイッチを「ON」位置にしてフラッシャスイッチを下へ押すと右側、上に押すと左側のフラッシャランプが点灯します。左折、右折が終ったら中央に戻してください。

❷ライトスイッチ



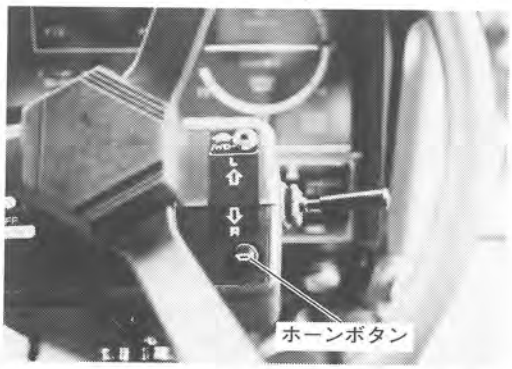


1段引くと駐車灯が点灯します。2段目では、前照灯上向・車幅灯・尾灯・メータランプ番号灯が点灯します。3段目では、前照灯下向・車幅灯・番号灯・尾灯・メータランプが点灯します。

【取扱いの注意】

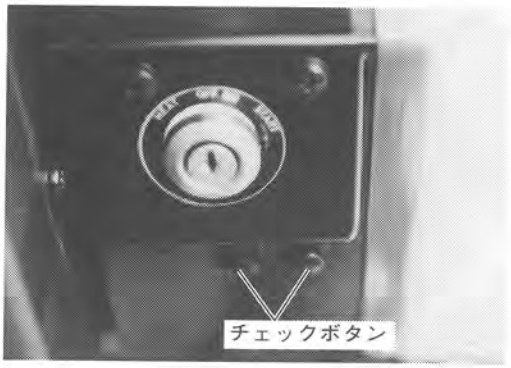
- **道路走行中、対向車のあるときは前照灯を下向きにしてください。**
  そうしないと対向車の運転妨害になります。

③ホーンボタン



ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

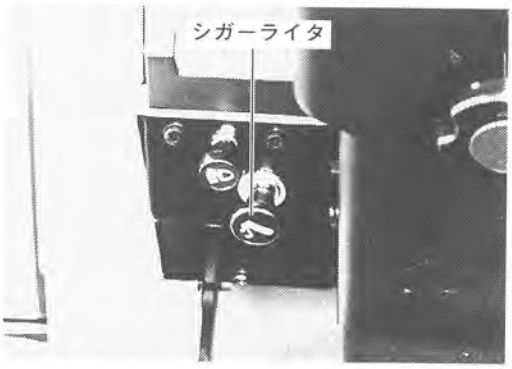
④チェックボタン モニタランプ球切れチェック



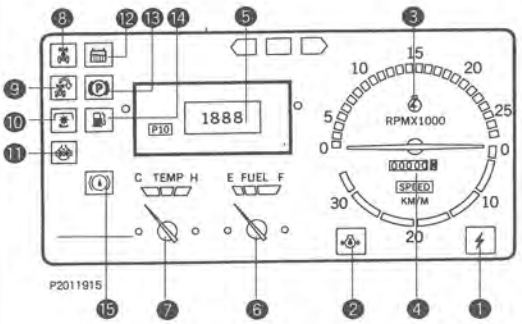
1.各モニタランプはキースイッチ「ON」にしてチェックボタン2個を押して点灯するかをチェックします。駐車ブレーキとハイローモニタは、実際レバーまたはスイッチを作動させて点灯するかを確認してください。

2.モニタランプだけで点検を済ませないで始業点検や定期点検時は冷却水量、バッテリ液量などを実際に確認してください。

⑤シガーライタ



押し込んでください。しばらくすると元の位置まで飛出しますから、引き抜いて使用してください。外部取出電源用としても利用できます。許容電流は15A/12Vまでです。



❶チャージパイロットランプ



メインスイッチを「ON」位置にするとランプが点灯し、エンジン始動後、エンジン回転が上がり充電し始めるとランプが消えます。ただし、エンジン回転が1000rpm以下では充電しません。充電するときは、1500rpm以上にしてください。

❷エンジン油圧パイロットランプ



メインスイッチを「ON」位置にすると点灯し、エンジンを始動するとランプは消えます。エンジン回転中に、油圧ランプが点灯するときは、潤滑油回路に異常が発生したからです。すぐエンジンを停止して不具合箇所の原因を調べてください。(115ページ参照)

❸エンジン回転計/スピードメータ

上側はエンジン回転数、下側は変速をトップにしたときの速度（km/h）を示します。



❹積算時間計



トラクターの使用時間を数字で示します。右端の白枠内の数字を6倍すると「分」単位の時間になります。

❺PTO回転計（デジタルメータ）（オプション）



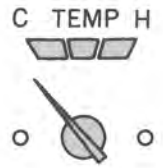
PTO軸の回転数が表示されます。アクセルレバーで、必要とするPTO回転数にして作業します。

❻燃料計



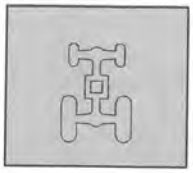
燃料の残量を指針で知らせます。針がE区域を示した場合は早めに燃料を補給してください。

❼水温計



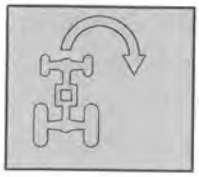
運転中の冷却水温を指針で示します。針が赤色区域位置を示した場合は、作業を中断してエンジンを点検してください。

⑧4WD（前輪駆動）ランプ



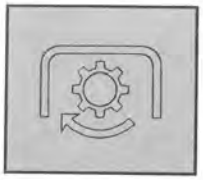
スイッチを4WDにすると点灯します。

⑨ダイヤクイックターン



副変速レバーが「**L-1,L-2,H-1**」位置でスイッチをダイヤクイックターンにするとランプが点灯し、ダイヤクイックターンが働きます。

⑩PTOランプ



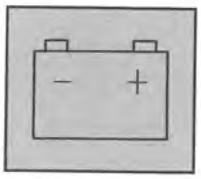
PTOクラッチ「**ON**」で点灯します。

⑪デフロックランプ



デフロックが入っているとき点灯します。道路走行や旋回するときは必ずランプが消灯していることを確認してください。

⑫バッテリランプ



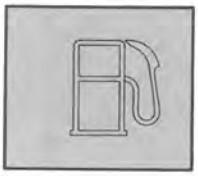
点灯したときはバッテリ液が不足しています。点検して補水してください。

⑬駐車ブレーキランプ



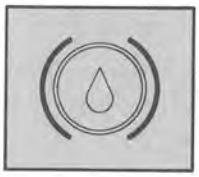
駐車ブレーキをロックすると点滅します。運転するときは必ずランプが消灯したのを確認してください。

⑭燃料残量ランプ



点灯したときは燃料が10ℓ以下です。早めに補給してください。

⑮ブレーキオイルランプ



点灯したときはブレーキリザーバタンク内のオイルが不足しています。運転を中止し、購入先またはサービス工場にご連絡ください。

オイル漏れのまま、オイルを補充して使用することは大変危険です。注意事項をよく読んでください。(98ページ参照)

その他

①ドライバーシートの調節

可倒式アームレスト付です。運転者の体格に合わせて前後、リクライニング（角度調節）および体重調節ができます。



- 前後調節レバー
  15mmずつ10段階、最大150mmの前後スライドができます。
- リクライニング調節レバー
  レバーを上側に引いて背もたれの角度を4段階に変えられます。
- 体重調節ノブ
  運転者の体重に適したクッションが得られます。50kg～130kg（10kgごと）の間で合わせます。シートに座ってノブを押し下げて合わせます。現状の目盛より軽い方に合わせるときはレバーを止まる位置まで下ろしますとロックが外れ表示板の50kgの位置まで戻ります。

②シートベルト

⚠警告

- **トラクターを運転するときは、必ずシートベルトを着用してください。**
  守らないと、転落、転倒事故のとき死亡または重傷のおそれがあります。

ドライバーシートを正しい運転姿勢位置にし、上体を起こしてすわります。腰骨にかかる位置にベルトがねじれないようタングプレートをバックルの中へ「**カチリ**」と音がするまで差し込みます。
外すときは、バックルのPRESSボタンを押します。



工具箱と物入れ

ドライバーシートの後方にあります。



❹チルトペダル

(ハンドルの前後角度調節)



ペダルを踏み込みますと、ハンドルの角度を前後5段階に変えることができます。最適な位置でセットしてください。ペダルを離せばロックされます。

❺テレスコープグリップ

(ハンドル上下調節)



グリップをゆるめてハンドルを60mmの範囲で上下に動かすことができます。最適な位置で、グリップを締めてセットしてください。

1.作業前の点検

⚠危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油はしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- 燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので、必ず点検してください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

⚠警告

- 点検整備は、交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で車止めをした上で行なってください。守らないと、機械が転倒するなど事故をおこすおそれがあります。
- 作業機の下へ入るときは、油圧ストップバルブをいっぱいに締め込んで油圧をストップさせてください。守らないと、何らかの原因で、作業機が急に下がったときに、傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- 点検・整備の修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行なってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。
- 点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

安全で快適な作業を行なうには、本機を使用する人が一日一回、作業前の点検を行なうようにしてください。異常箇所は直ちに整備し、作業終了時も異常がないかチェックしてください。点検は次の順序で行なってください。

❶前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、作業に支障がないか点検します。

❷トラクターのまわりを回ってみて

- 各部の変形・損傷・汚れ
- タイヤの空気圧、摩耗度合、損傷…113ページ



2010567

- 車体各部の損傷、ボルトのゆるみ
- ホイールのボルトのゆるみ
- 車輪取付ボルト、リムとホイルの組み替えボルトのゆるみ…113ページ

❸ボンネットを開けてみて

- 燃料の量と燃料もれ、燃料パイプの損傷…90・107ページ



2010569

- エンジンオイルの量と汚れ、油もれ…95ページ



2010568

- 冷却水の量と水もれ、ホースの損傷…101ページ



2010549

- バッテリ液の量…106ページ



2010570

- エアクリーナーの汚れ…104ページ



2010571

- 冷却ファンベルトの張りと損傷…110ページ



2010572

- ラジエータグリルやエンジンルーム内のホコリやゴミ…106ページ



I016521A

- 配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ…107ページ



2010562

❹運転席に座ってみて

- ブレーキの作動具合と遊び量…109ページ



2010564

- ハンドルの遊び量…110ページ



2010565

- クラッチペダルの作動具合と遊び量…109ページ



2010564

❺エンジンを始動してみて

- エンジン始動後の異音



2010566

- 排気ガスの色…113ページ



2010557

- ランプ・メータ類の作動…42・43ページ


2010558

❻作業機側へ回ってみて

- ドライブシャフトロックピンのPTO軸への挿入状態
- 各部のRピンの差し込み状態


2010563

詳しくは作業機の取扱説明書をご覧ください。

2. ならし運転（最初の50時間）について

新車は使用時間50時間までの取り扱いが大変重要です。
トラクターの寿命、性能に大きく影響します。この期間中は、次の点に注意して、正しく取り扱ってください。

①急なスタート、急ブレーキは慎んでください。
②必要以上のスピードや負荷をかけないでください。
③運転はエンジンが十分に暖まってから行なってください。
④悪路や傾斜地では、速度を落としてゆっくり走行してください。
⑤使い始めて最初の50時間目には、93ページの**「定期点検一覧表」**に従い各部の点検、オイルの交換などをしてください。

3. エンジンの始動・停止のしかた

⚠警告

- **エンジン始動時は、必ず運転席に座ってレバーの位置と周囲の安全を確認してください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。**
- **閉めきった室内ではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故をおこすおそれがあります。**

⚠注意

- **機械を使う前と後には、必ず点検・整備をしてください。特に、クラッチ・ブレーキ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備をしてください。守らないと、傷害事故をおこしたり、機械の故障をまねくおそれがあります。**
- **暖気運転中は駐車ブレーキをかけてください。守らないと、何らかの原因でトラクターが走りだし、事故をおこすおそれがあります。**

始動のしかた

⚠注意

- **ポジションコントロールレバーが「下降」位置で、ドラフトコントロールレバーが「深い」位置でないときはエンジンを始動しないでください。守らないと、作業機が急に上昇し、傷害事故をおこすおそれがあります。**

【取扱いの注意】

- **セルモータは、大電流を消費しますので、30秒以上の連続使用は絶対にしないでください。**
  (30秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って1分以上休止してから、⑥の操作を繰り返してください。)
- **エンジン回転中は、絶対にメインスイッチを「START」(スタート)位置にしないでください。**

①主変速レバー、シャトルレバー、PTO変速レバーを「**中立**」位置にし、PTOクラッチレバーを「**OFF,START**」にします。
②ポジションコントロールレバーを「**下降**」位置に、ドラフトコントロールレバーを「**深い**」にします。



P2011919

③アクセルレバーを「**最高回転**」位置にします。
④クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、メインスイッチを「**START**」(スタート)位置にします。
⑤エンジンが始動したら、すみやかにメインスイッチから手を離します。



P2011923

※安全スイッチの働きにより、PTOクラッチレバーを「**OFF,START**」にし、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとセルモータが回りませんので、エンジンの始動ができません。
⑥アクセルレバーでエンジン回転を1500回転ぐらいに下げ、約5分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

エンジン回転



停止のしかた

①アクセルレバーを「**低速回転**」位置にして、メインスイッチを「**OFF**」位置にするとエンジンが停止します。

4.作業機を上下させるには

ポジションコントロールレバーを前後（下降・上昇）に操作して作業機を上下させます。

【取扱いの注意】

- **ドラフトコントロールレバーは必ず前側の「深い」位置にしておいてください。**
- **ドラフトコントロールレバーでも、ほ場内で旋回するときポジションコントロールと同じように作業機を上げることができます。ただし、ドラフトコントロールの場合は作業機が最上昇位置まで上りますので注意してください。**
  （ポジションコントロールレバーで最初に作業機を最上昇位置まで徐々に上げて、作業機がキャブなどトラクターに接触しないことを確かめてからにしてください。）



P2011920

5. 作業機の降下速度の調節のしかた

⚠警告

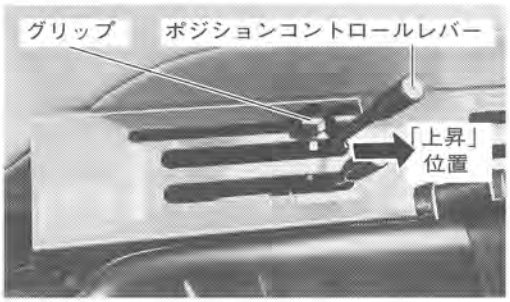
- **作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。守らないと、何らかの原因で作業機が下がったときに、傷害事故をおこすおそれがあります。**

作業機の降下速度を調節する場合は、油圧ストップ・フローコントロールバルブを「左」方向へ回すと作業機は速く降り、逆に「右」方向へ回すと作業機の降下速度は遅くなります。「右」方向へいっぱいまで回すと油圧がストップされ、作業機は下がりません。



【取扱いの注意】

- **路上走行するときは、油圧ストップ・フローコントロールバルブは開いたままで、ポジションコントロールレバーを「上昇」位置にして、下限位置規制グリップでレバーロックをセットして走行してください。**



- **油圧をストップさせたまま、ポジションコントロールレバーを操作しないでください。守らないと油圧部品の破損を引き起こします。**

6. 発進・停止・駐車のしかた

⚠警告

- 発進するときは、周囲の人に合図して周囲の安全を確認した上で、急発進しないようにゆっくり発進してください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 移動走行時には、かならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎきし、急旋回したり、転倒したりするおそれがあります。
- トラクターからはなれるときには、平坦で安定した場所に置き、かならず駐車ブレーキをかけ、シャトルレバー・主変速レバーと副変速レバーを「中立」位置にし、作業機を接地させてエンジンを止め、車止めをしてください。守らないと、トラクターが動きだし、事故をおこすおそれがあります。

発進のしかた

①ブレーキペダルが連結金具で、左右連結されていることを確認します。
②アクセルレバーでエンジン回転を約1500回転ぐらいにします。
③ポジションコントロールレバーを「上昇」方向へ操作して、作業機を最上昇位置にします。
④PTOクラッチレバーを「OFF」にします。
⑤クラッチペダルを踏み込んで、副変速レバー・主変速レバーを希望の位置に確実に入れます。速度は122ページを参照してください。
⑥シャトルレバーを「F」位置または「R」位置に入れます。



P2011924



P2011921

⑦クラッチペダルをゆくっり離しますと、トラクターが動きはじめます。

【取扱いの注意】

- 走行中・作業中は、絶対にクラッチペダルの上に足を乗せないようにしてください。
- 主変速レバーは、走行中でもクラッチペダルを踏んで変速できます。
  副変速レバー、シャトルレバーは、必ず機体が停止してから操作してください。守らないと機械の破損、故障となります。

停止・駐車のしかた

①アクセルレバーを低速側に戻して、スピードを落とします。クラッチペダルとブレーキペダルを踏み込んで停止し、主変速レバー・副変速レバー・シャトルレバーおよびPTOクラッチレバーを「**OFF**」にしレバーを「**中立**」位置にします。

②駐車ブレーキをかけます。

③作業機を取り付けている場合は、ポジションコントロールレバーを「**下降**」位置へ操作して作業機を降ろします。



P2011925



P2011922

④メインスイッチを「**OFF**」位置にして、エンジンを停止します。

7. 道路走行のしかた

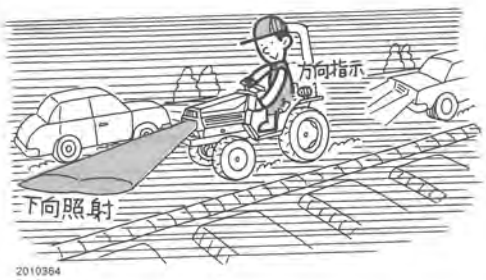
⚠警告

- **路上走行時やあぜ越え時には必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎきし、急旋回や転倒するおそれがあります。**
- **公道を走行するときは、道路交通法等関係法規を厳守してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**
- **このトラクターの乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**

⚠注意

- **公道走行するときは、ロータリーなどの作業機を取外してください。道路交通法違反です。また、事故をおこすおそれがあります。**

- PTO変速レバーを「**中立**」位置にして、必ず左右のブレーキペダルを連結してください。
- 走行スピードはフートアクセルペダルで調節してください。
- 進路変更するときは、フラッシャスイッチによって進行方向を他の車に知らせなければなりません。
- 進路変更後はスイッチを必ず中央に戻してください。
- バックミラーで後続車に注意し、追越しの妨害にならないようにしてください。
- 狭い農道や傾斜地、路肩に草が生い茂っている所は、路肩に十分注意して、スピードを落して走行してください。
- 夜間走行時はライトを点灯してください。



2010364

8. 坂道での運転のしかた

⚠警告

- **あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道では、変速をしないでください。**
- **坂道ではシャトルレバー・主変速レバー・副変速レバーを「中立」位置にしないでください。**
- **坂道では駐車しないでください。守らないと、トラクターが坂をすべり落ちて、事故をおこすおそれがあります。**

- 坂道では、スピードに十分注意して、ゆっくりと走行し、急な下り坂ではエンジンブレーキを活用してください。
- 坂の途中ではクラッチペダルを踏まないでください。トラクターがすべり落ちて大変危険です。
- 上り坂で発進する場合は、遅い変速位置に入れ、エンジン回転を落してゆっくり発進してください。急発進すると、前輪がはね上がり大変危険です。
- 変速は坂を登りつめてから、希望する変速位置に入れ直してください。坂の途中で停車する場合は、駐車ブレーキでロックし、シャトルレバー、主変速レバーを「中立」位置にして停車してください。



2010366

9.ほ場への出入りのしかた

⚠警告

- **必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎきし、転倒するおそれがあります。**
- **ほ場への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときは、十分強度のあるあゆみ板を使用し、作業機を下げ重心を低くしてください。**
- **急な傾斜を登る場合は、後進で、降りる場合は前進で行なってください。**

ほ場への出入りは、あぜに対して、直角にゆっくりと出入りしてください。登り始めは、作業機を低くして重心を下げ、トラクターの後輪があぜに上がると同時に作業機を上げてください。



2010365

10.作業に適した速度の選びかた

主変速レバーと副変速レバー、クリープレバー及び、シャトルレバーの組合せにより、前進32段・後進32段の速度が選べます。ハイローシフト（S）仕様付はさらに低速度が増し、前進64段、後進64段の速度が選べます。下表を参考にして、作業に合った速度を選んでください。



P2011926

作業速度・段の選びかた

変速段数	ハイロー	クリープ	副変速	主変速	作業
		入			超砕土耕耘、トレンチャ
1	低速/高速	切	1 (L-1)	1	砕土耕耘、細土耕耘
2				2	
3				3	一般耕耘
4				4	
5			2 (L-2)	1	
6				2	
7				3	プラウ
8				4	ローダ
9			3 (H-1)	1	施肥、播種
10				2	
11				3	防除
12				4	モア
13			4 (H-2)	1	トレーラ
14				2	
15				3	移動
16				4	

12. ほ場での旋回のしかた

⚠警告

- **必ず、デフロックを切って旋回してください。守らないと、思うように旋回ができずに事故をおこすおそれがあります。**

旋回するときは、エンジンの回転を落とし、ゆっくりなめらかに旋回してください。

①作業機を上げます。

②左右ブレーキペダルを連結している連結金具を外します。

③ハンドルを切ると同時に、旋回しようとする側のブレーキペダルを踏み込むと小回りができます。



2010367

※デフロックについては、61ページの「**デフロックの使いかた**」を参照してください。

ダイヤクイックターンの使いかた

ダイヤクイックターンは畑、水田などのロータリー作業には役立ちますが、使用法を誤ると転倒などの危険や、故障の原因にもなります。



⚠警告

- **スイッチをダイヤクイックターンの状態で路上走行や傾斜地での作業をしないでください。**
- **ほ場から出る前に必ず、スイッチを「2WD」または「4WD」にしてください。**

守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。

【取扱いの注意】

- **フロントローダや前輪に重荷重がかかる作業には使用しないでください。**
- **ダイヤクイックターンを「入」・「切」または、副変速レバーを高速側にするときは、前輪タイヤを直進状態にしてから行なってください。**

ダイヤクイックターンを使うとスムーズに小回りができ、**「旋回跡が荒れない」「旋回径が小さい」、「旋回時間が短い」**などの特長を生かせます。

〈使いかた〉
副変速レバーが「L-1,L-2,H-1」のときにスイッチを「ダイヤクイックターン」位置にするとダイヤクイックターンが働きます。スイッチを「2WD」または「4WD」位置に回すとダイヤクイックターンは働かない状態になります。

【取扱いの注意】

- **安全を確保するために、次のような機構が組み込まれています。**

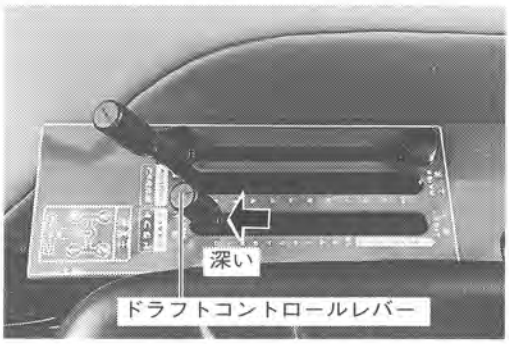
1.ダイヤクイックターンの状態で、副変速レバーを「H-2」に入れるとダイヤクイックターンが作動しません。
2.副変速レバーが「H-2」の状態でダイヤクイックターンにしても、ダイヤクイックターンは働きません。

12.一般の作業機を使う場合の作業位置設定のしかた

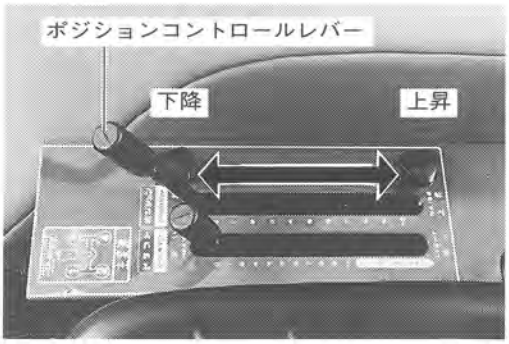
ポジションコントロールの使いかた

JAC仕様は、85ページの「JAC仕様について」を参照してください。

作業機の高さを任意の位置に保持する機能です。ロータリー以外の一般作業機での作業に使用します。
作業位置の決定は、次の要領で行なってください。
①ドラフトコントロールレバーを「深い」の位置にします。(一番前側にする)



②作業機の上下は、ポジションコントロールレバーで行ないます。



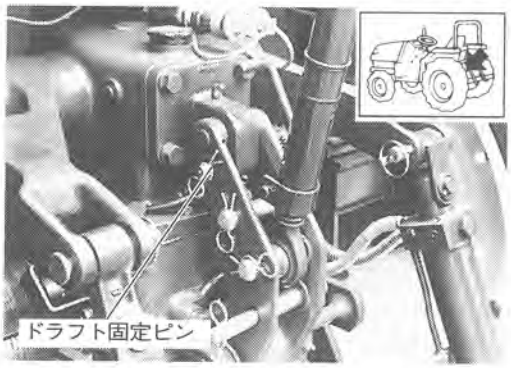
③作業機の下限位置(または上限位置)を設定したいときは、希望する位置でポジションコントロールレバーが止まるようにストッパで固定します。

13.ドラフトコントロールの操作のしかた

プラウ、カルチベータなど3点リンクに装着した作業機でけん引作業をする場合に使用します。作業機にかかる抵抗が大きくなるとドラフト装置が作動して、作業機が持ち上げられ、抵抗が小さくなると元に戻ります。したがって、作業中のスリップを防ぎ、安定した作業ができます。

使用方法

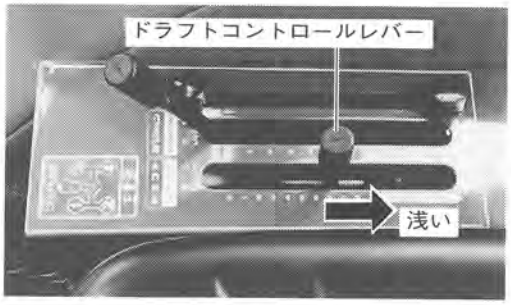
①トップリンクブラケットにあるドラフト固定ピンを抜きます。(ドラフトを使用しないときはピンで固定しておいてください。)



②ポジションコントロールレバーを「**下降**」位置にします。

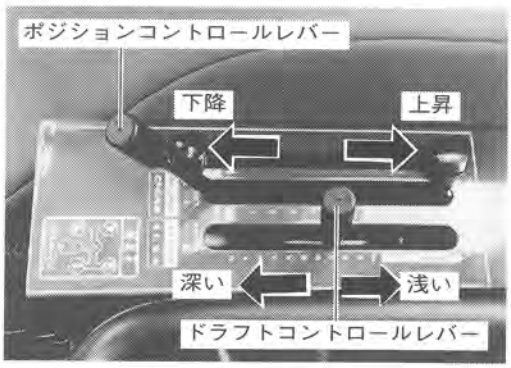
③ドラフトコントロールレバーをガイドの中央にします。

- 耕深を深くする場合（けん引力を大きくする）
  ドラフトコントロールレバーを前方向「**深い**」に動かします。
- 耕深を浅くする場合（けん引力を小さくする）
  ドラフトコントロールレバーを後方向「**浅い**」に動かしますと、小さいけん引抵抗で作業機が持ち上げられます。



ミックスコントロールについて

ドラフトコントロールとポジションコントロールを併用して使用する方法です。ポジションコントロールレバーを最下降位置より少し「**上昇**」側にします。この状態でドラフトコントロールレバーを「**深い**」の側にいっぱい動かしてもポジションコントロールレバーで規制され、それ以上深起しはできなくなります。ただし、最上昇位置はポジションコントロールでは規制できません。ドラフトコントロールレバーをいっぱい「**浅い**」にすると作業機は最上昇位置まで上がります。



【取扱いの注意】

- **作業機を上げる場合、ポジションコントロールレバーとドラフトコントロールレバーどちらでも上げることができます。ただし、ドラフトコントロールレバーの場合は上限規制がなく、常に最上昇位置まで上がります。最上昇位置まで作業を上げても、どこにも接触しないか最初に確認してください。**

14. ロータリー耕うんのしかた

①前輪タイヤ、後輪タイヤの輪距は、標準状態にしてください。

②作業条件により、車速およびPTO回転速度を決めて耕うんを始めます。

③耕うん方法は数種類ありますが、ほ場の条件によって適切な耕法を選んでください。一般的には、ロータリー耕うんは隣接耕が標準です。

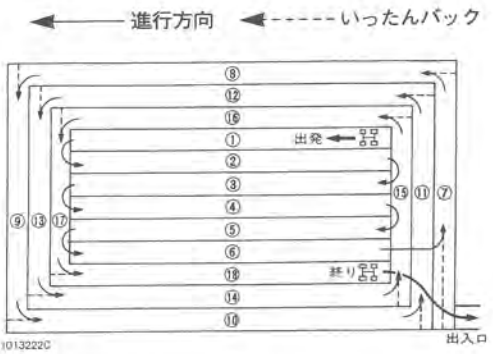
④いずれの耕法による場合でも、トラクターの旋回ができるだけの枕地と同じ幅を、ほ場の両側に残して内側から作業を始めます。(目安として耕作地の周囲を3行程弱残します)

⑤耕うん時は、前・後輪タイヤがすでに耕うんしたところに落ちないように、気をつけながら運転します。

⑥サイドドライブロータリーは、右サイドフレーム側があぜぎわによるようにして、耕うんすると残耕が少なくなります。

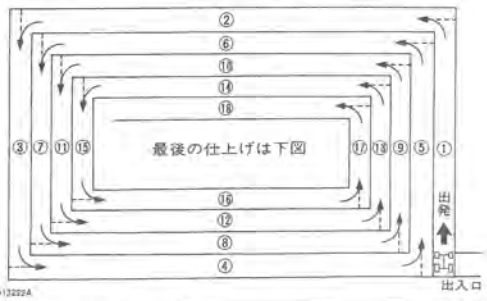
〈隣接耕うんの順序〉

- 一般的なロータリー耕うん方法です。
- 図のような順序をとるのは、一度耕うんした所を後輪タイヤで踏まないための、最善の方法です。
- したがって出発点は、トラクターが最後に外へ出る場所によって決まります。

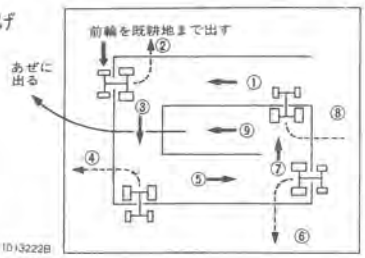


〈回り耕うんの順序〉

- 弱湿田または湿田地で、小回りのむずかしい場合に用いる方法です。
- 耕うん順序は外周部から仕上げていきます。
- トラクターが最後に出る場所は、あぜに近い所から出てください。

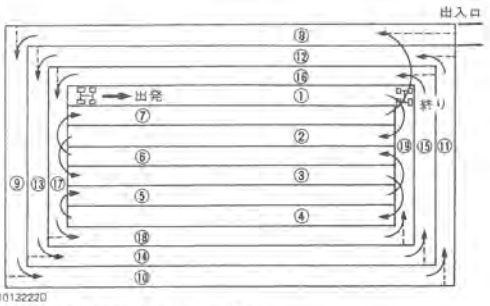


最後の仕上げ

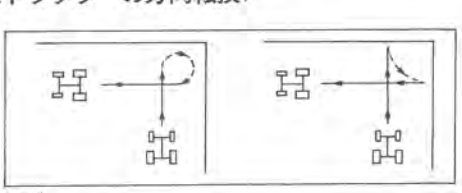


〈一うね置き耕うんの手順〉

一うね置き耕うんは、小回りのむずかしい場合に用いる方法です。その他は隣接耕うんと同じです。



〈トラクターの方向転換〉



15.デフロックの使いかた

⚠警告

- 必ずデフロックを切って旋回してください。守らないと、思うように旋回できずに事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- 路上走行中は、絶対にデフロックを使用しないでください。守らないと、走行が不安定になり事故をおこすおそれがあります。

デフロックペダルを踏むと、差動装置がロックされ、左右の後輪が同じ回転速度で駆動されます。ペダルから足を離すとロックが自動的に解除されます。
湿田地やぬかるみからの脱出など、片車輪がスリップして走行がしにくいときに使用すると効果があります。



1013911C

【取扱いの注意】

- デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてから行なってください。
- 抜けにくいときは、クラッチを切るか、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。

16.トラックへの積込み・積降ろしのしかた

⚠危険

- トラックへの積込み・積降ろしは、あゆみ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で行なってください。進路を変えたり停止するために、クラッチの操作を絶対にしないでください。守らないと、転落などの事故をおこすおそれがあります。

⚠警告

- トラックへの積込み・積降ろしは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。
- 使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップしないものを選び、あゆみ板がはずれないように、フックをトラックの荷台にしっかりかけてください
- トラックへの積込みは後進で行なってください。
- トラックにのせて移動するときは、強度の十分あるロープでトラックにトラクターを固定してください。

守らないと、トラクターが転落するなど、事故をおこすおそれがあります。

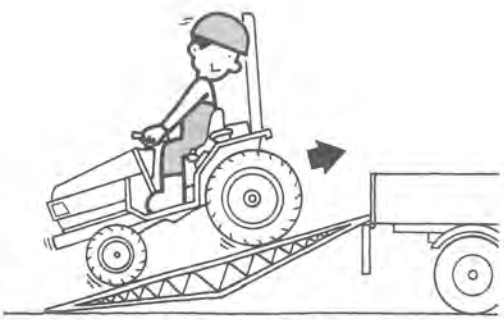
〈積込み〉

①十分な強度と長さのあゆみ板を使用します。
②ブレーキペダルは必ず連結してください。
③変速は低速位置で、シャトルレバーを「R」位置でエンジン回転を低速にして積込んでください。

④落輪しないように、ハンドルは慎重に操作してください。
⑤途中でエンジンがストップした場合は、一旦下まで降りてエンジンを再スタートしてください。
⑥積込みが終了したら、メインスイッチを「OFF」にして駐車ブレーキをかけ、ロープで本機を確実に固定してください。

〈積降し〉

①積込みと逆の手順で行なってください。



強度のあるあゆみ板

2010539

17.前輪輪距(トレッド)の調節

作業の種類・作物の条間に合わせ、トラクターの輪距を調節してください。また、傾斜地作業やけん引作業には、輪距を広げて使用してください。

組替え式の輪距調節

平坦で安定した場所にトラクターを駐車し、駐車ブレーキをかけ後輪に車止めをした後、ジャッキを使って車体を上げ、前輪を浮かせて取外してください。

道路走行するときは、144.5cm（標準）ですがタイヤの左右の交換と、ディスクとタイヤの締め替えにより右図のように8段階に変えられます。

標準トレッド以下の場合は切角ストッパボルトの調整が必要です。64ページを参照して調整してください。

下記のように確実に締め付けてください。

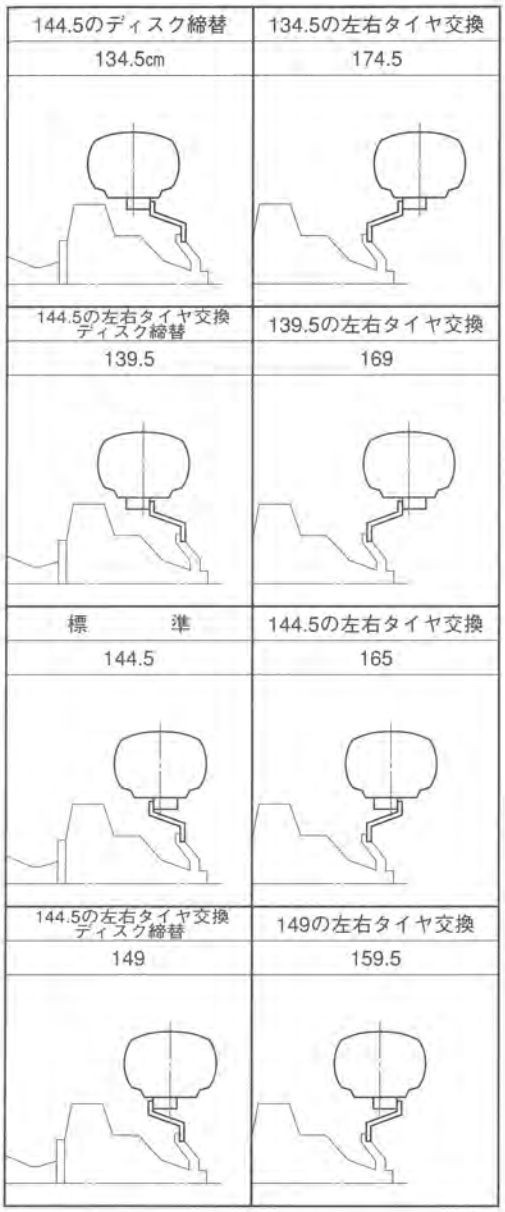
	締付トルク kgf-m
リム・ディスク	34～37
ディスク・前車軸	27～30

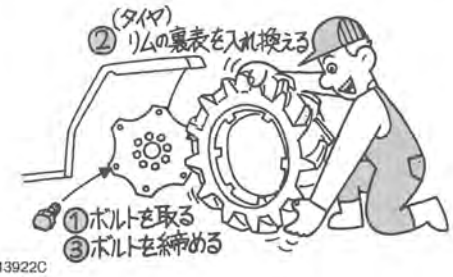
【取扱いの注意】

- **フロントローダを使用する場合は前輪輪距を標準にしてください。広げたままローダ作業をしてはいけません。広げたままでは損傷することがあります。特に狭めた状態での作業は安定性が悪くなり危険です。**



1013922A





前車軸スライドタイプ（Z仕様）

前輪輪距（トレッド）は、リム・ディスクの締め替えなしで60mmピッチ（片側30mm）間隔で5段階に調節ができます。工場出荷時は標準トレッド1445mmとなっています。道路走行時は必ず標準トレッドで走行してください。なお、リム・ディスクの締め替えも合わせると40段階の調節ができます。

〈トレッド調節方法〉

トレッドの調節は、平坦地の硬い場所（コンクリート上等）を選んでください。調節は、ジャッキアップし前輪を浮かせて行なう方法と、パワーステアリングの力を利用して行なう方法があります。

1.ジャッキアップの方法

①エンジンを停止します。

②前輪受けをジャッキアップして前輪を浮かせます。このとき前輪受けと車軸の間にスイング止めをしてください。

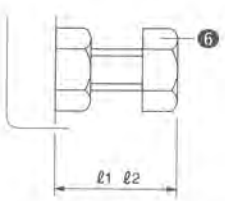
③タイロッド固定ボルト❹を外します。

④車軸固定ナット❶は緩め、❷は外してボルトを抜きます。

⑤伸縮調節ボルト❸をメガネレンチ等で回しインナケースを伸縮させます。インナケースに合わせマーク（30mm間隔）があるので、これを目やすにして伸縮させ❷ボルトを入れ❶❷ナットを締めます。

⑥タイロッドも車軸の位置に合わせ❹ボルトでセットしてください。

⑦切角ストッパボルト❻は標準トレッド以下では下記の寸法に調節してください。



ℓ_1：前輪9.5-24、ℓ_2前輪11.2-24

トレッド	1405	1405	1405	1405	1405	1405
ℓ_1	37	40	45	48	50	57
ℓ_2	44	47	52	52	57	64

⑧ジャッキを外し、調節した箇所の増締めをしてください。

❶❷車軸固定ボルト・ナット

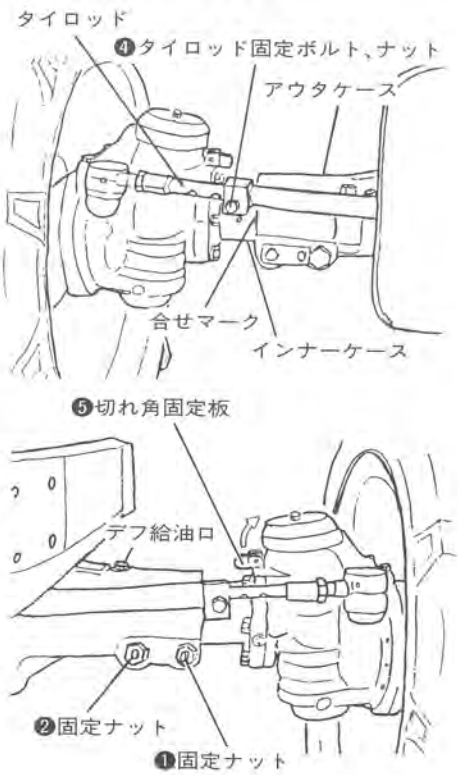
20 ± 2.0kgfm

❹タイロッド固定ボルト・ナット

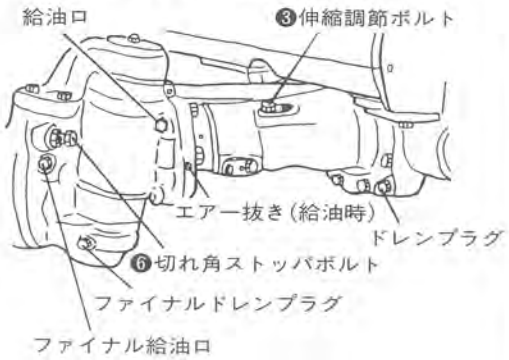
11.5 ± 1.2kgfm

⑨トーインの点検、調整をしてください。

トラクタ前方より見たとき



左前車輪（トラクター後方より見たとき）



〈パワーステアリングを利用の方法〉

①3点ヒッチにロータリー等の重い作業機を吊り、前輪荷重をできるだけ軽くして、左右片側ずつ行ないます。

②エンジンをアイドリング状態にし、タイヤを直進方向に合わせ、切れ角固定板❺を反転しキングピンが回転しないようにします。

（調節する側のみ回転を止めます）

③エンジンを停止します。

④車軸固定ナット❶は緩め、❷は外してボルトを抜きます。

⑤エンジンを始動し、アイドリング状態にてハンドルによりインナケースを伸縮させ、希望する位置でボルト❷を入れ❶❷ナットを締めます。

⑥タイロッド固定ボルト❹を外し、❺と反対にハンドルを切り、タイロッドの長さを調節しボルト❹を締めます。

⑦切れ角固定板❺を元の位置に反転します。

⑧反対側も①～⑦の順で調節します。

⑨切れ角ストッパボルト❻の調整、ボルト・ナットの増締め、トーインの点検、調整は前項と同様に調節してください。

⚠警告

- トレッド調節後は切れ角固定板❺を元の位置（下側）に反転してください。
  そうしないとハンドルが回らず事故の原因となります。

〈前輪のトレッド調節仕様寸法〉

- 車輪取付標準（工場出荷）で調節できる範囲は、240mm で60mm ピッチです。

1.	1325	1385	1445	1505	1565	mm

- 上記より狭いトレッドを希望する場合は、リムディスクの組替えで行ないます。

2.	1225	1285	1345	1405	1465	mm

- 標準時の車輪左右交換で調節できる範囲は、

3.	1530	1590	1650	1710	1770	mm

- 前記のディスク組替えのときの車輪左右交換で調節できる範囲は、

4.	1625	1685	1745	1805	1865	mm

【取扱いの注意】

- 道路走行時は必ず標準トレッド（1445mm）で走行してください。
- フロントローダ作業時も必ず標準トレッド（1445mm）で行なってください。そうしないと損傷することがあります。
- 各部のネジ緩みチェックは特に重要です。調節直後と 50 時間ごとのチェックは必ず実施してください。

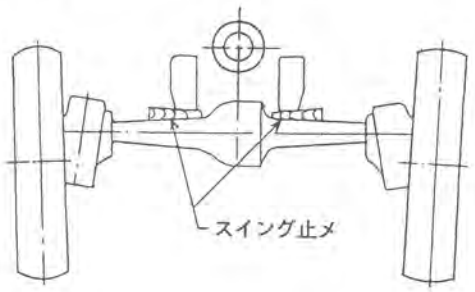
18.後輪輪距（トレッド）の調節

組替え式の輪距調節

道路走行するときは、144.5cm（標準）ですがタイヤの左右の交換と、ディスクとタイヤの締め替えにより右図のように8段階に変えられます。
(124cm は 12.4-36 タイヤのみです。太いタイヤはフェンダに当たります。)
リム、ディスクの締付トルクは34～37kgf-m となっていますので、十分注意してください。

⚠警告

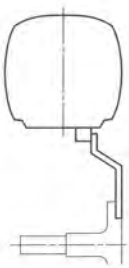
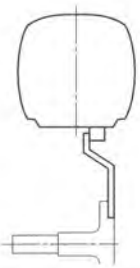
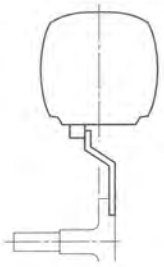
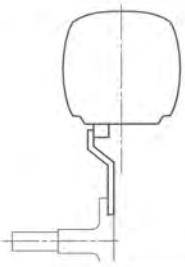
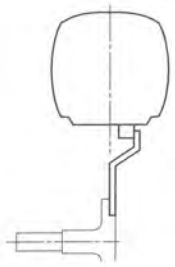
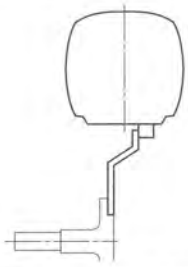
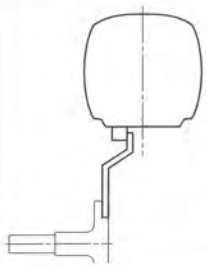
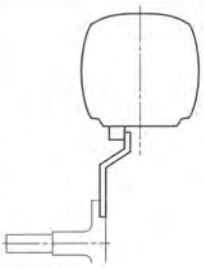
- 後輪を外すときは前輪車軸の間にスイング止めを挿入してください。
  そうしないと後輪を外したとき、トラクターが傾き、場合によっては転倒して傷害事故をおこすことがあります。



P2011912

下記のように確実に締め付けてください。

	締付トルク kgf-m
リム・ディスク	34～37
ディスク・後車軸	27～30

144.5の左右タイヤ交換 ディスク締替	144.5の左右タイヤ交換 ディスク締替
124cm	134
	
標　　準	144.5のディスク締替
144.5	154
	
154の左右タイヤ交換	144.5の左右タイヤ交換
165	175
	
134の左右タイヤ交換	124の左右タイヤ交換
185	195
	

ズームトレッドタイプ（Z仕様）

〈後輪輪距の調節〉

●操作方法（ほ場の中で操作してください）

1.最初に❶取出切替レバー❷左右切替レバー❸ロックレバー　を下の表の位置にセットしておきます。

（mm）

変更前の輪距	変更後の輪距	❶取出切替レバー位置	❷左右切替レバー位置	❸ロックレバーの位置	❹油圧レバーの操作	備　考
1220	1330	トレッド	左	中間（1330）	「広い」	1330にする（油圧ロック）
1330	1440	トレッド	左	中間（1330）	「広い」	自動的に1440でロックされる
1330	1220	トレッド	左	中間（1330）	「狭い」	自動的に1220でロックされる
1440	1330	トレッド	左	中間（1330）	「狭い」	自動的に1330でロックされる（「広い」側は油圧ロック）

2.（ほ場の中で）運転席でエンジンをかけ、低速で徐行します。

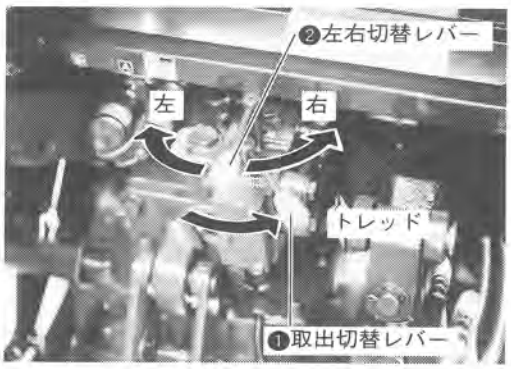
3.徐行しながら、❹油圧レバーを上表のように操作します。（「広い」または「狭い」側にレバーを押します）以上は左側の操作です。

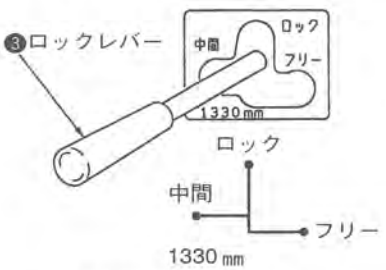
「注意」徐行しないで、トラクターを定位置のまま❹油圧レバーを操作すると車軸に大きな力が働き破損することがあります。

4.❷左右切替レバーを右にして、徐行しながら❹油圧レバーを前項の3と同じ側に押します。

【取扱いの注意】

- **輪距が1220,1330,1440になるとロックレバーは、ロック位置になり車軸がロックされます。ただし、輪距を広げて1330にする場合は、油圧ロックのみになります。**
- **操作は片側ずつしますが、左右両方操作して表の変更後の輪距になります。**
- **1220,1330,1440以外の輪距にする場合は、❸ロックレバーを「フリー」にしてから❹油圧レバーで操作してください。この場合は油圧ロックになりますので、作業の合間に輪距が狂っていないか点検してください。**





左（右）後車軸の後側

P2011934



【取扱いの注意】

- 道路走行のときは、輪距を必ず1440㎜とし、ロックレバーの位置がロックになっていることを確認してください。

19. 油圧外部の取り出しかた

⚠注意

- 油圧取出口のプラグを外したり、配管の取付け、取外しを行なうときは、かならずエンジンを停止してください。守らないと、高圧オイルにより傷害事故を起こすおそれがあります。

トラクター側のバルブを操作する場合

①単動・複動兼用のアタッチメントバルブが取付けてあります。

・セット圧　200kg/㎠

・油流量　46ℓ/分

②油圧取出口（A,B）はトラクター後部にあり、サイズはR（PT）1/2です。作業機と配管します。

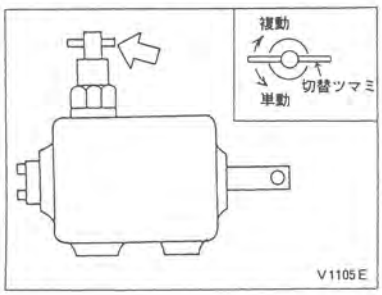
単動の場合は取出口Aを使用します。



③単動・複動の切替えはアタッチメントバルブ上部のツマミを回します。

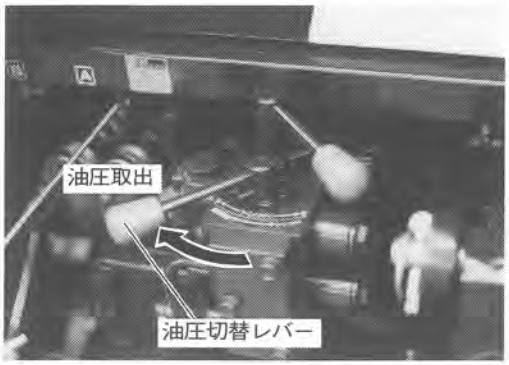
単動：ツマミを右へいっぱいまわす

複動：ツマミを左へいっぱいまわす



④油圧切替レバーを油圧取出にします。

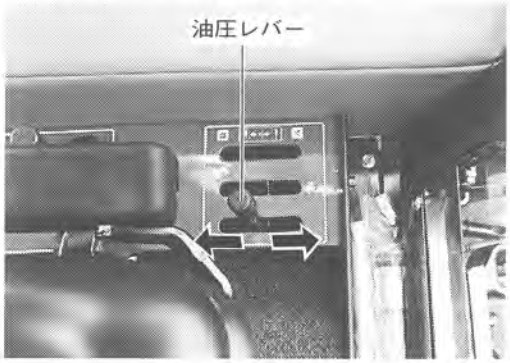
ズームトレッド（Z）仕様のみ



⑤油圧レバーで操作します。

前方へ倒す：作業機が下がる

後方へ倒す：作業機が上がる



油圧モータなど油を循環させて使用する場合はロックピンでレバーを固定することができます。



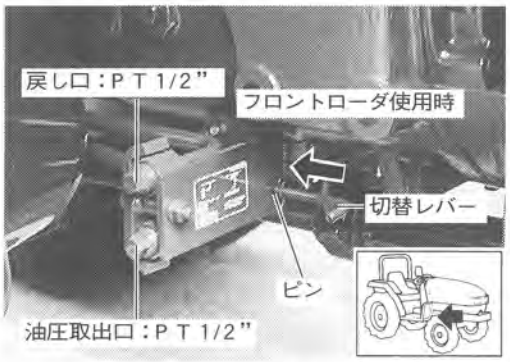
「A」ポートより取出し「B」ポートに戻します。複動、単動どちらの切替えでも同じです。油圧レバー指示板上の「A」「B」と取出口の「A」「B」を合わせておきます。

【取扱いの注意】

- **油圧取出口の配管を外した場合は必ず元の中立にもどしておいてください。（ロックレバーを解除する）そうしないとリリーフ状態となりポンプが破損します。**

作業機側のバルブで操作する場合

フロントローダなどのように作業機にコントロールバルブの付いているものは、外部取出レバーとは関係なく油圧を取出すことができます。このような作業機を使用する場合は、それぞれの作業機に専用のコントロールバルブが必要となりますので、購入先またはサービス工場にご相談ください。



切替バルブとなっていますので、フロントローダ使用時などは、ピンを抜き、レバーを押し込んでください。

【取扱いの注意】

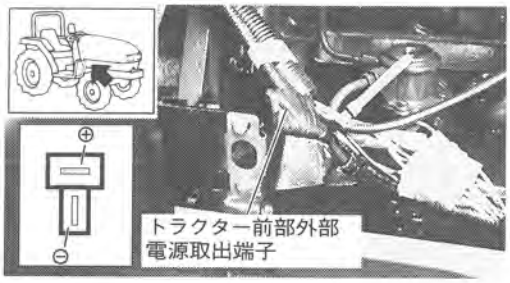
- **フロントローダなどを外して、取出口と戻し口の油の流通が遮断されたときは、レバーを引き出しピンで止めてください。もしこれを怠ると油圧ポンプから圧送される油の出口がなく、油圧ポンプが破損しますので十分注意してください。**

20.外部電源取出端子について

①一般作業機への外部電源取出しに使用します。

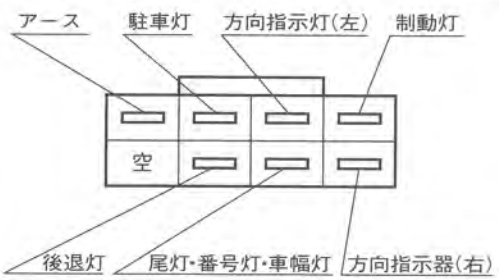


②主にフロントローダの外部電源取出しに使用します。



③トレーラのブレーキランプ、フラッシャランプ等の電源として使用します。
トレーラ専用の7極カプラKITは特別装備品です。





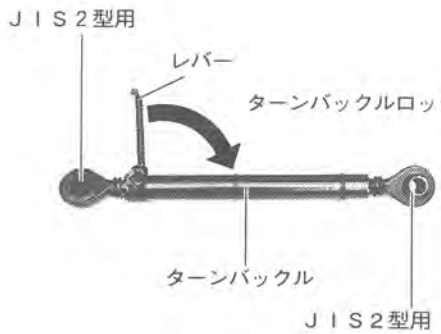
【取扱いの注意】

- **①,②の電源は最大12V20A、③は12V10Aとなっています。**
  過負荷電流で使用しますとヒューズが切れます。

21.3点リンクについて

このトラクターの3点ヒッチは、JIS2型です。（ロアリンク後端ボールは、JIS2型です。JIS1型用には、別売りのカラーを挿入して使用してください。）

トップリンク



トップリンクは、レバーを直角にしてから、ターンバックルを回して伸縮させ、作業機の前後の傾きを調整します。
トップリンクのトラクター側と作業機側を反転して1、2型の使いわけをしてください。

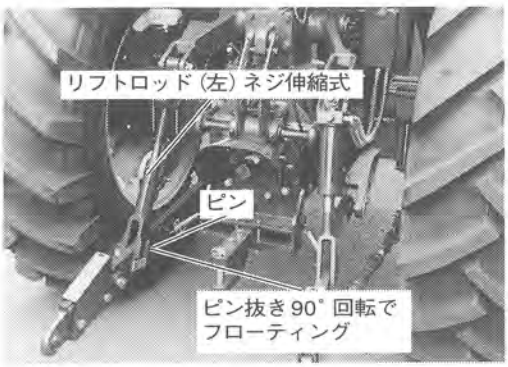


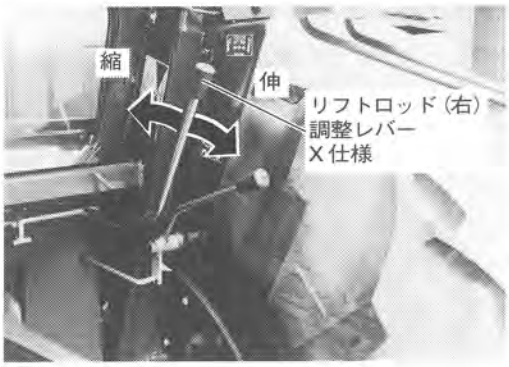
リフトロッド

〈リフトロッド左〉

リフトロッド左はネジ式で、上部のピンを抜いて長さを調整します。

このリフトロッドはフローティング機構付ですので、耕地が平坦でない場所で、ロータリーなど砕土作業等を行なうとき、耕地に合わせて作業機をそわせることができます。リフトロッドとロアリンク取付部のピンとプレートを90度回転して取付けます。リフトロッドの長穴分だけトラクターに対し3点ヒッチが自由に傾きます。





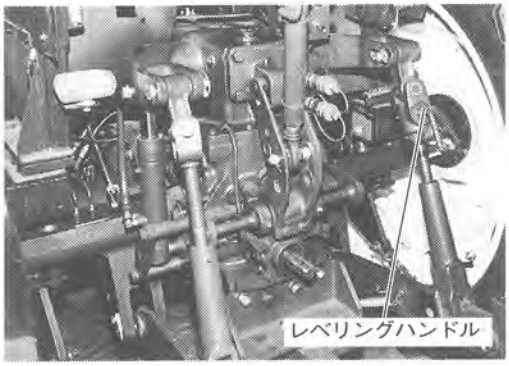
〈リフトロッド右〉

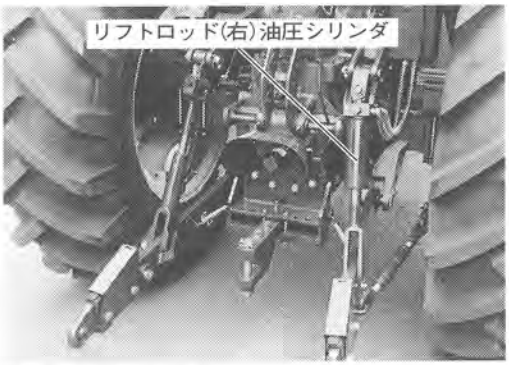
①ベベル（ネジ）調整式

作業機の左右の傾きは、レベリングハンドルを回して調整します。

②油圧調整式（X仕様）

作業機の左右の傾きは、油圧シリンダを伸縮させます。調整はリフトロッド（右）調整レバーで行ないます。





【取扱いの注意】

- **作業機によっては、リフトロッドが短いと3点ヒッチ最上昇位置で、本機と接触し、破損することもありますので、作業機をセットしてから、3点ヒッチを徐々に上げて、接触をチェックしてください。リフトロッドを伸ばせば、接触を防止できます。**

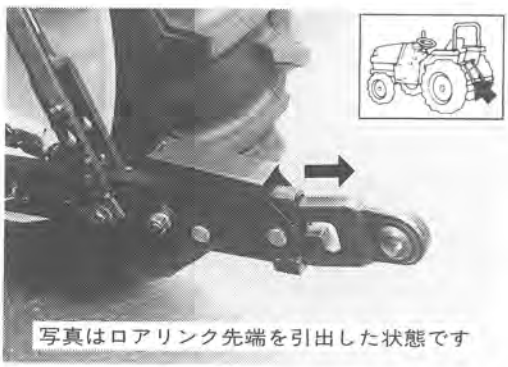
ロアリンク

ロアリンクの前の穴を使用すると作業機の上下可動範囲は大きくなりますが、持上重量は小さくなります。後の穴を利用すると可動範囲は小さくなりますが、持上重量は大きくなります。

ロアリンクはスライド式（スライドヒッチ）で、先端が自由に動き作業機が容易に装着できます。

ストッパを手で押し込み、ロアリンク先端を引き出し自由に動くようにしてから作業機を装着します。

作業機を取付けた後、トラクターを少し後進させると先端部は自動的に固定されます。



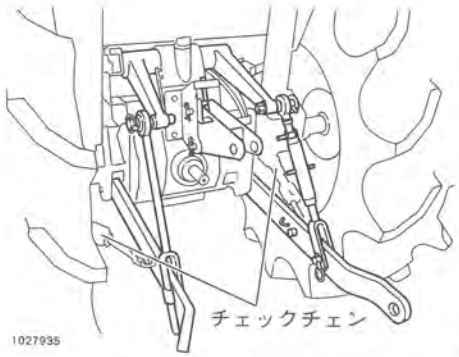
写真はロアリンク先端を引出した状態です

チェックチェン

ターンバックルで次のように調整してください。

①プラウ、サブソイラなどの作業機は、作業機が左右に5～6cm動く程度に調整してください。ただし、作業機が横ぶれしてタイヤに当たらないように注意してください。

②ロータリー、ハロー、モアなどの作業機は、作業機が左右に振れない程度に調整してください。



作業機装着の順序

次の順序で作業機を取付けてください。

①ロアリンクのストッパを手で押し込み、ロアリンク先端を左右共、後にスライドさせます。

②トラクターと作業機の中心を合わせます。

③トラクターを後進させ、作業機ピン中心から5～10㎜ほどロアリンクのジョイント中心を後に移動させます。

④左側のロアリンクを最初に取付けます。

⑤右側のロアリンクをリフトロッドのレベリングハンドルで調整しながら取付けます。

⑥トップリンクを取付けます。

⑦トラクターを少し後進させ、ロアリンク先端を固定させます。

⑧チェックチェーンの張りを調整します。

⑨ユニバーサルジョイントを取付けます。

22.スイングドローバについて

フレームの幅で左右に振ることができますので作業機によって使い分けてください。



【取扱いの注意】

- けん引するときは、必ずスイングドローバかリンケージドローバでけん引してください。
- トップリンクブラケットなどトラクターの後車軸より高い位置からは絶対にけん引してはいけません。トラクターが転倒する場合があり、非常に危険です。
  なお、リンケージドローバは特別装備品です。

23.作業機の取り扱いについての注意事項

⚠警告

- トラクターを移動して作業機を着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。
  守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 作業機の着脱は、平坦で安定した場所で、行なってください。夜間は、適切な照明をしてください。
- 重い作業機を装着した場合には、フロントにバランスウエイトをつけて、バランスを保ってください。
- 作業機を調整する場合は、トラクターの駐車ブレーキをかけ、また、エンジンを停止し、かつ、PTO 変速レバーが「中立」位置にあることを確認したうえで行なってください。
- けん引作業をするときは、必ずけん引ヒッチを使用し、それ以外で引っ張らないようにしてください。
- けん引作業、傾斜地での作業などは、輪距（左右のタイヤの間の幅）を広くして使用してください。
- 作業機によっては、かなりの長さになりますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。
- バランスウエイト代りに人や物を乗せないでください。作業機に合った純正のバランスウエイトを使用してください。
- フロントローダー作業時は、後方に作業機をつけるなどして前後バランスを保ってください。

● 装着する作業機の取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。
守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

● PTO 軸を使用しないときは、PTO 軸の安全カバーをかならず取付けてください。守らないと、巻き込まれたりして、ケガを負うおそれがあります。
● 作業機指定の PTO 回転速度を厳守してください。守らないと、作業機がこわれ、事故をおこすおそれがあります。

24.パワーステアリングについて

⚠警告

● エンジン運転中は、ハンドル操作が大変軽くなっていますので、道路走行など慎重に行なってください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

1.パワーステアリングはエンジンが回転しているときだけ作動します。
2.エンジン停止時はハンドルの遊びは大きくなりますが、異常ではありません。逆にハンドルの遊びはエンジンを回転させて測ります。
3.ハンドルをいっぱい切ると安全弁が働いて信号音（リリーフ音）がでますが、このままの状態で使用しないでください。
4.冬期は暖機運転を十分行なってください。オイルが暖まるとパワーステアリングの装置がスムーズに作動します。

【取扱いの注意】

● 走行中にエンジンが停止したときは、ハンドルのパワー装置が作動しなくなります。同時にハンドル操作が重くなりますが、かじ取りはできます。
● パワーステアリングはハンドル操作が軽くなりますが、タイヤの異常摩耗を防止するため次の点に注意してください。

1.「すえ切り」をしない（停止したままハンドルを切らないでください）
2.フロントローダなど前部に作業機を装着していると前輪に大きな力がかかりますので、トラクターの後方にロータリーなどの作業機を付けてください。

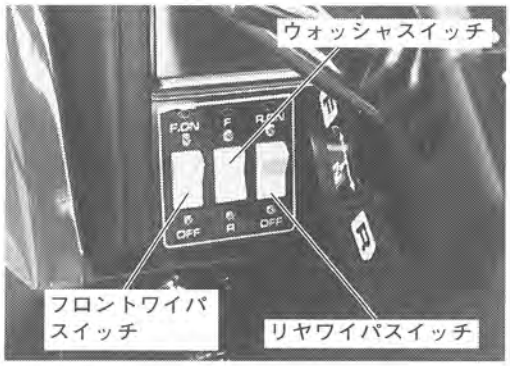
キャビンの取扱いについて

この項ではキャビンの各装置の取扱い、注意事項及び簡単な保守・点検について述べてあります。より快適な運転ができますようご活用ください。

1.各スイッチと操作

ワイパ/ウォッシャスイッチ

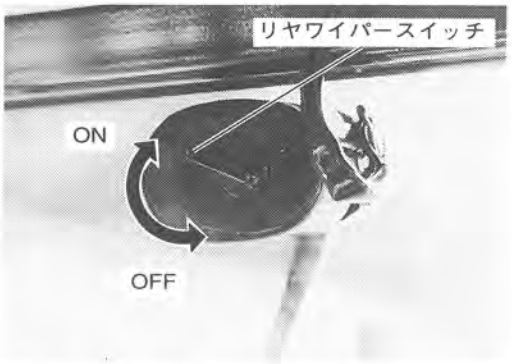
フロント及びリヤのワイパスイッチ、フロント・リヤ兼用のウォッシャスイッチはダッシュボード左側にあります。



- フロントワイパ及びリヤワイパスイッチ上部を押し込むと作動します。
- ウォッシャスイッチ
  上下のシーソー形スイッチで、押している間だけ水が出ます。上側（F）を押すとフロント側に下側（R）を押すとリヤ側にウォッシャ液が噴出します。

【取扱いの注意】

- **ワイパの空拭きはガラスを傷めます。ウォッシャ液を噴出させてから使用してください。**
- **リヤワイパのモータのところにもスイッチがあります。通常このスイッチは「ON」にしておいてください。**

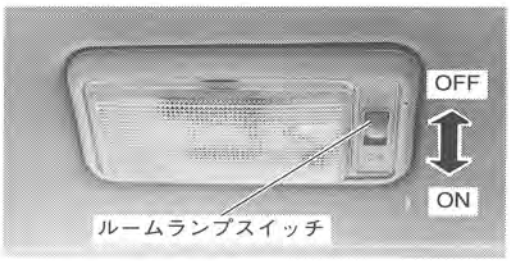


ルームランプ

キースイッチに関係なく常に点灯できます。

「ON」常時点灯

「OFF」常時消灯

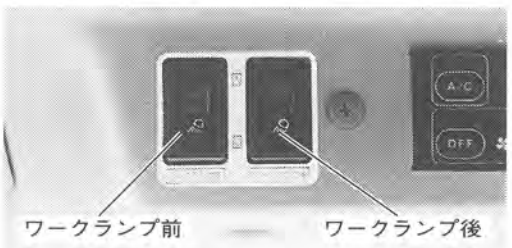


作業灯スイッチ

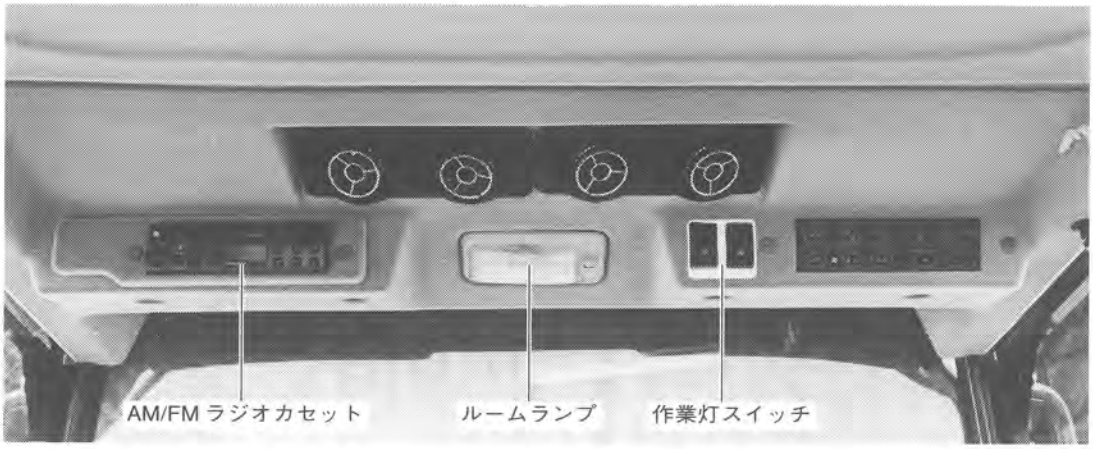
このキャビンには作業灯が前側、後側にそれぞれ2個ずつあります。

「前」のスイッチを**「入」**にするとスイッチのランプが点灯し前側の作業灯が点灯します。

「後」のスイッチを**「入」**にするとスイッチのランプが点灯し後側の作業灯が点灯します。

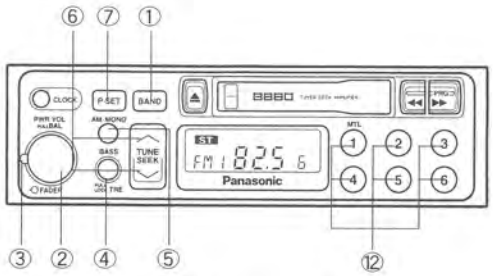


2.キャビンインナルーフのスイッチ



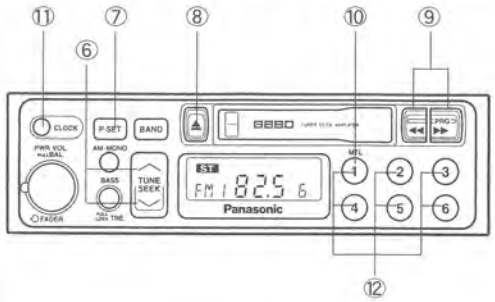
時計、ラジオ、テープデッキのどれかを使用するときはトラクタのメインスイッチをONにしてデッキの電源を入れてください。
時計、ラジオ、テープデッキの詳しい使用方法については、付属のCQ-B880D/DAの取扱説明書をご覧ください。
(ここでは使用するスイッチについて簡単に列記してあります)

ラジオ



①AM・FM切替え ……BAND
②音量 ……VOL
③左右音量バランス ……PULL BAL
④音質 ……BASS-TRE
⑤ステレオ・モノ切替え …AM·MONO
⑥選局 ……TUNE SEEK
⑦⑫プリセット選曲メモリ P·SET
(TUNE SEEK)

カセットデッキ（ステレオ）

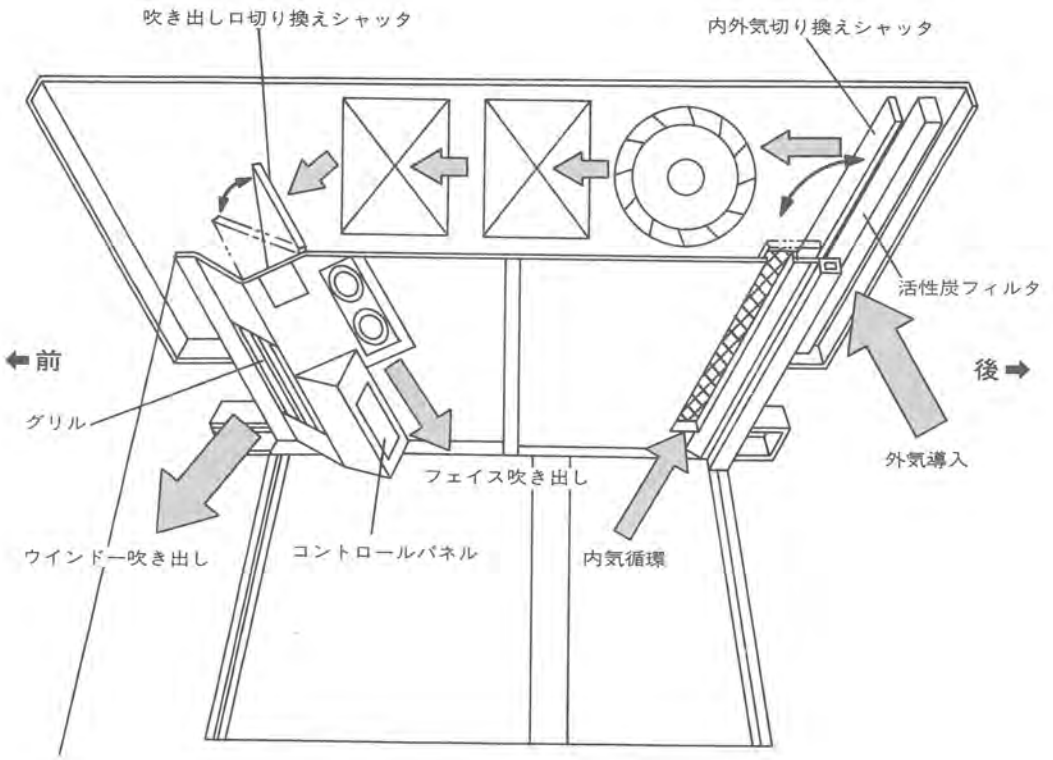


⑧テープの取出し ▲（イジェクト）
⑨巻戻し、早送り ◀◀、▶▶
⑨演奏面の切替え ◀◀と▶▶
⑩メタルテープ切替え ……MTL

時計

⑪時刻表示 ……CLOCK
⑥時刻合せ ……CLOCK
TUNE SEEK（∨∧）

3.エアコンの取扱い（コントロールパネル）

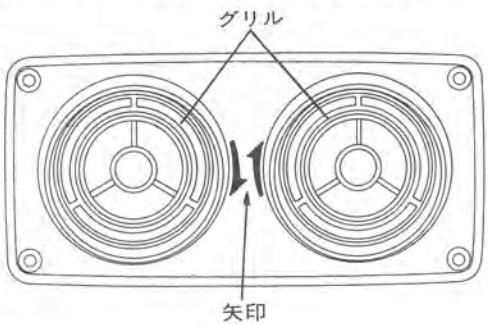


温風、冷風の空気の流れは上図のとおりです。
外気導入、内気循環、温風、冷風の切替えはコントロールパネルで行ないます。

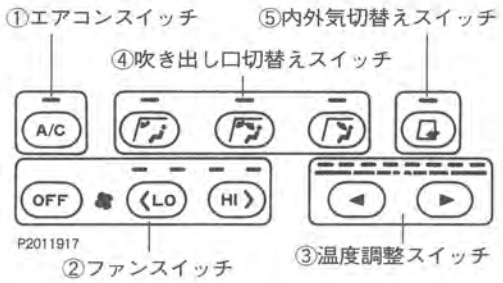
【取扱いの注意】

- **外気導入口には絶対に圧力水をかけないでください。**

〈クーラー吹出し口の風量調節しかた〉
吹出し口のグリルを矢印の方向（右回転）に回転すると風量が多くなり、反回転（左回転）にすると風量が少なくなります。



[エアコンのスイッチ類]

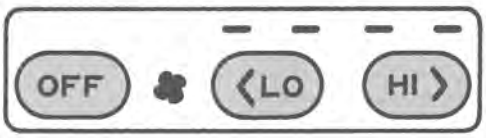


①エアコンスイッチ



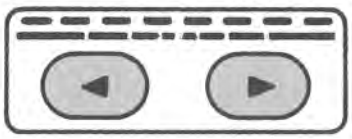
[A/C] を押すとランプが点灯し、エアコンが「ON」になります。
「OFF」を押すとランプが消灯し、エアコンが「OFF」になります。

②ファンスイッチ



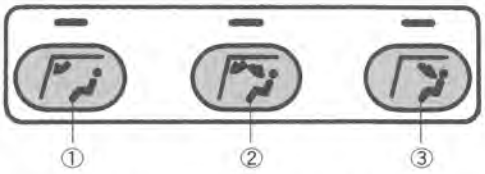
エアコンの「ON」・「OFF」と風量のコントロールができます。風量は4段階に調整できます。

③温度調整スイッチ



青い矢印［◀］または赤い矢印［▶］のスイッチを押して温水流量を調節し、吹出空気の温度調節を行ないます。温度は8段階に調整できます。

④吹き出し口切替えスイッチ



冷暖房時の冷風・温風の吹き出し口の切替えをします。
③のスイッチを押すと、フェイス用グリルから風が吹き出します。冷房、換気時に使用します。
①のスイッチを押すと、ウインドー用グリルから風が吹き出します。暖房時、フロントガラスの曇り止めに使用します。
②のスイッチを押すとフェイス用グリルとウインドウ用グリルの両方から風が吹き出します。

⑤内外気切替えスイッチ



冷暖房時の空気吸込口の切替えをします。スイッチを押してランプが点灯しますと、車外の空気を吸込みます。(外気導入)
もう一度スイッチを押してランプが消灯すると、車室内の空気を吸込みます。
(内気循環)

【取扱いの注意】

- **内気循環での長時間の使用は室内空気の汚れや窓ガラスのくもりの原因となります。外気導入と併用してお使いください。**

［エアコンの使用方法］

冷房（冷房、除湿）

夏季の冷房、除湿に使用します。

エアコンスイッチ　　「ON」

吹出す風の量はファンスイッチで調整、温度は温度調整スイッチで調整します。

暖房（暖房、換気）

寒い季節の暖房、換気に使用します。

エアコンスイッチ　　「OFF」

吹出す風の量はファンスイッチで調整、温度は温度調整スイッチで調整します。

デフロスタ

フロントガラスが曇ったときに使用します。

ファンスイッチ　　「HI ＞」

吹出口切替えスイッチ　スイッチ①

内外気切替えスイッチ　「ON」（外気導入）

この時エアコンスイッチを「ON」にすると除湿しますので湿度が高いときの曇り防止ができます。

換気

外気を導入したいときに使用します。

エアコンスイッチ　　「OFF」

内外気切替えスイッチ　「ON」

ファンスイッチで吹き出す風量を調節します。

【取扱いの注意】

- **内規循環で長時間使用するときは時々外気導入にし、新鮮な空気を入れてください。**
- **消毒作業等では外気導入にしてください。キャブ内に内圧がかかり汚れた外気が入りにくくなります。**

4.ドア、ウインドー

ドアの開けかた

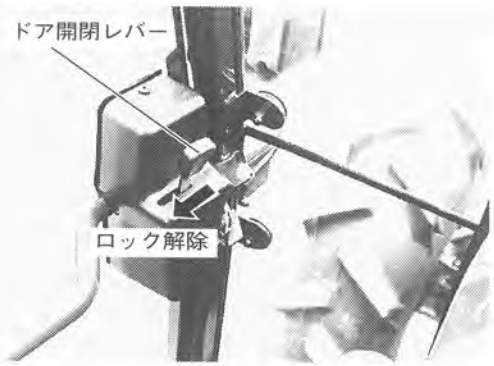
●車外から

プッシュボタンを押してドア取手を引いて開けます。少し開くとダンパーの作用によって自動的に開きます。

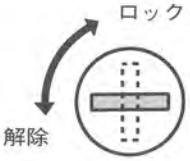


●車内から

レバーを引いて、ドアを押し開けます。少し押し出すと、ダンパーの作用によって自動的に開きます。



ドアロックと解除

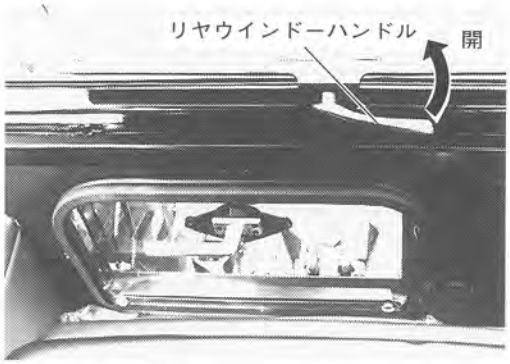


（車外で）キーを差込み90°右へ回すとロックします。キーを水平の方に回すと解除します。

（注）車内でのドアロックはできません。

リヤウインドー

リヤウインドーはハッチ式（跳ね上げ式）です。





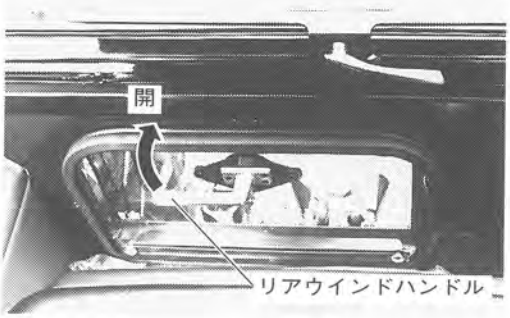
ハンドル部に手をかけ、ロックを解除し、押し出してください。少し押し出すとダンパーの作用によって自動的に開きます。閉めるときは、ハンドル部を引いて閉め、下側に回してロックします。

【取扱いの注意】

●リヤウインドーを開けるときは後部の安全を確認してください。

リヤウインドウ（下側）

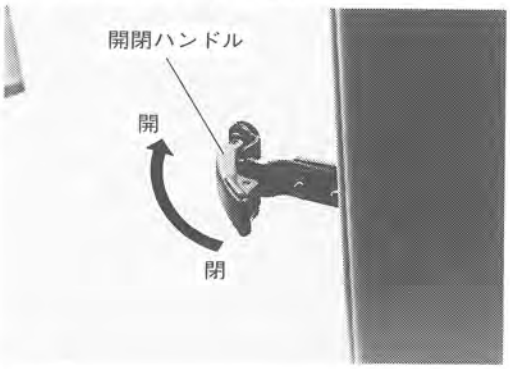
後右下側に内開きのウインドーがあります。ハンドルを上側に回して開きます。



サイドウィンドー（左、右）

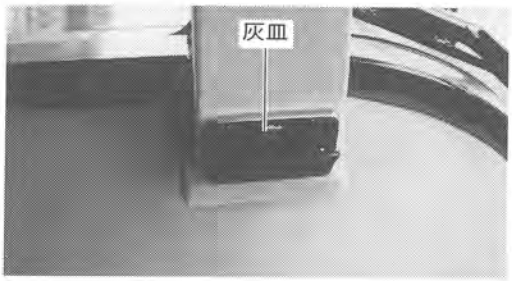
前側が開きます。

- 開けるときはレバーをいっぱい押し出します。
- 閉めるときはレバーを引いてください。



灰皿

キャビン左側のサイドウインドの下にあります。



5.キャブの簡単な保守・点検・調整

ウォッシャタンク

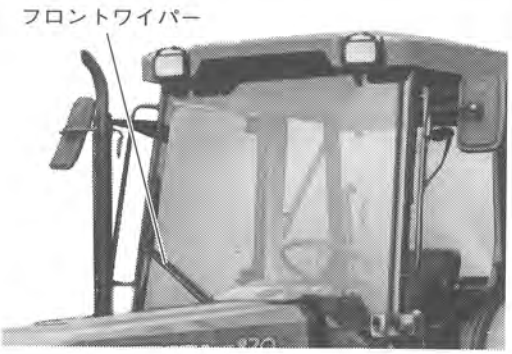


市販のウォッシャ液を補充してください。

【取扱いの注意】

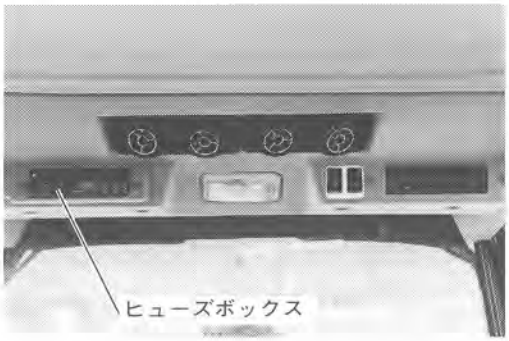
- **ウォッシャタンクに液がなく、ノズルから液が噴出しない状態でのウォッシャ作動はモータの故障の原因となります。**
- **冬期は凍結に注意してください。気温によって、ウォッシャ液の温度を調整して使用してください。**

フロントワイパ

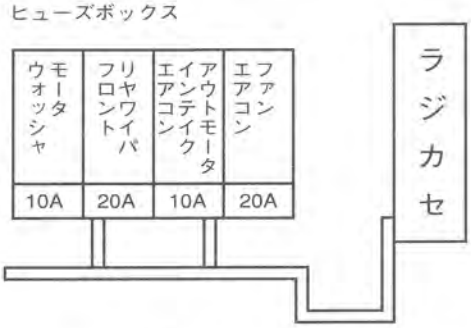


冬期トラクターを使用する場合、ワイパ内に雪などが入って凍結する場合があります。この場合には湯をかけるなどして雪を溶かしてからワイパーを使用してください。

ヒューズの交換



ヒューズボックス



ヒューズの場所とサイズ、回路は上図のようになっています。
ビスを外し、カセットデッキを外しますとヒューズボックスの蓋があります。蓋を外して点検してください。ヒューズが切れている場合は原因を調べて必ず指定容量のヒューズと交換してください。

エアコン関係

エアコンは季節に関係なく２週間に１度はエンジンを始動し、短時間（約５分間）でもエアコンスイッチを「**ON**」にして回してください。コンプレッサの寿命が延びます。
エアコンをいつでも安心して使用いただくために、運転前には次の要領で点検してください。不具合がありましたら、購入先またはサービス工場にご連絡ください。

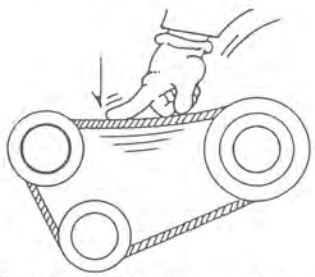
①ラジエタ、コンデンサ用ネットの点検

ラジエタネットを取りはずし、泥やゴミを水で洗い落してください。コンデンサに付着した泥やゴミもやわらかいブラシを使用して水で洗い落してください。



②Ｖベルトの張り点検について

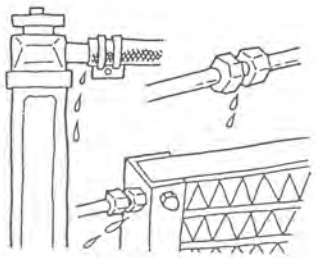
Ｖベルトの張りがゆるいと、ベルトのスリップ、および振れにより、Ｖベルトの寿命を著しく縮めますので、手で押え、ゆるみがないか確認してください。



10kg位の力で押し，6〜7mmたわむと正常

③配管接続部の点検について

エアコン配管の各部接続部を目視にて確認し、油のにじみ、ゴミ、ホコリの付着具合を点検してください。

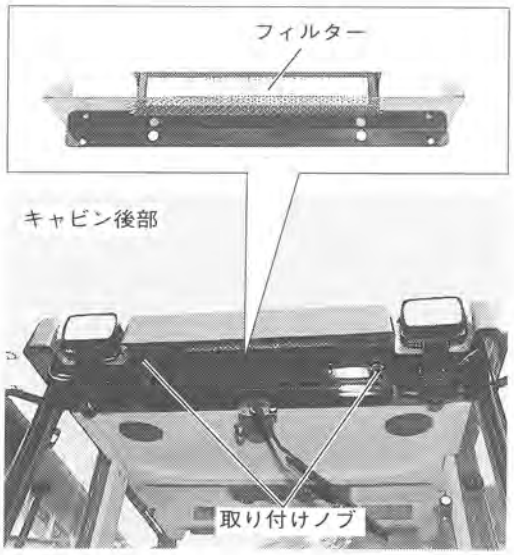


④外気導入口用フィルタの汚れ

フィルタが汚れて目づまりすると、外気導入時の吹き出し風量が少なくなりますので、キャビン後部の取り付けノブ2ヶ所を外して、フィルター部を取り外し、圧縮エアで汚れを落としてください。汚れがひどい場合は水洗いしてください。

【取扱いの注意】

- **フィルタの取付方向に注意してください。矢印を前側にしてセットしてください。逆にしますとフィルタが短時間で目づまりします。**



⑤エアコンの冷媒量の点検

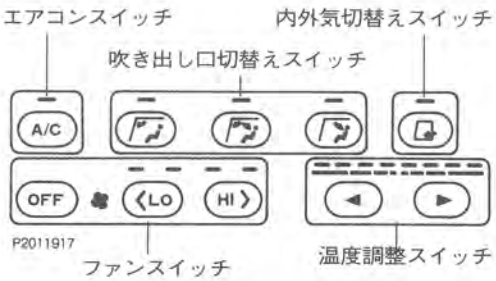
冷媒量をレシーバドライヤのサイトグラス（点検窓）から冷媒の気泡の流れを点検することで判断ができます。



1）エンジンの回転数を1600rpm以上にする。

2）スイッチを次のようにします。

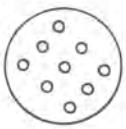
- エアコンスイッチ A/C → ON
- ファンスイッチ ——→ HIの強
- 温度調整スイッチ ——→ ◀(左)
- 吹出し切替えスイッチ → （フェイス）
- 内外気切替えスイッチ → 外気（ランプ点灯）



洗　車

- エアコンの外気導入口には圧力水をかけないでください。
- ドアガラス、サイドウィンドウガラス、リアウィンドウガラス（上・下）トリム部には直接圧力水をかけないでください。

6.冷媒量チェック表

エアコンの状態	異常なし	異常あり		
高・低圧パイプの温度	高圧パイプは熱く、低圧パイプは冷たい温度差がはっきりある。 コンプレッサ吐出側 温度　70℃ コンプレッサ吸入側 温度　5℃	高圧パイプはあたたかく、低圧パイプはやや冷たい。温度差はあまりない。	高圧パイプ、低圧パイプにほとんど温度差が感じられない。	高圧パイプは熱く、低圧パイプはやや温かいが温度差はある。
サイトグラスの状態	ほとんど透明、泡の流れが見えてもエンジン回転を上げたり下げたりすると透明になる。 ※1 	いつも気泡の流れるのが見える。透明または白泡のときもある。 	霧のようなものが流れているのがわずかに見える。 	ファンを最大で回し、窓を全開にしアイドリングで回しても気泡が見えない。 ※2 
パイプ接続部の状態	異常なし。	油が汚れている所がある。	油の汚れがはなはだしい所がある。	異常なし。
このエアコンの状態は	冷媒量も不足なく異常はない。	どこか少し漏れがあるかも知れない。	冷媒がほとんど漏れてなくなってしまったようである。	冷媒が過充填になっている。

※1　外気温度が低い時には、媒媒充填量が適正でも気泡が見えることがありますので、ご注意ください。
※2　冷媒がゼロ（無）の場合があるので、高・低圧パイプの温度差（無）を確認のこと…全々冷えない状態にある。
※3　使用冷媒はHFC134aです。
※4　冷媒充填量は1000ｇが規定量です。

JAC 仕様について（J 仕様のみ）

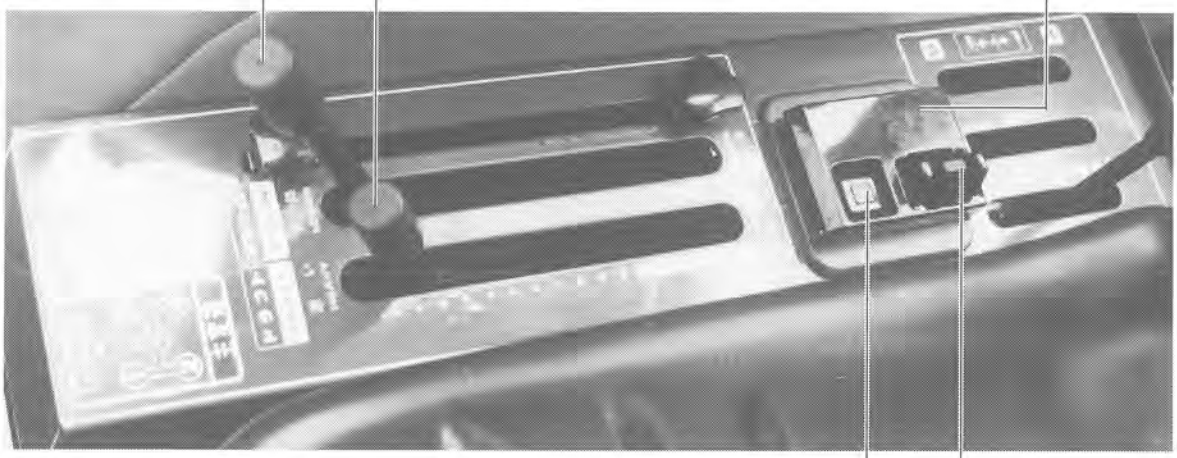
1. 各部のなまえとはたらき

通常作業に必要なもの

ポジションコントロールレバー
58 ページポジションコントロールの使い方をご覧ください。

JAC
操作ボックス

ドラフトコントロールレバー
59 ページドラフトコントロールの使い方をご覧ください。



傾き自動スイッチ
ランプが点灯しているときは傾き自動が働いています。

- **「傾き」自動で使用する場合**
傾き自動スイッチが点灯しているとき傾き設定ダイヤルを操作して、作業機を任意の角度に設定すれば、トラクタの傾きにかかわらず、作業機を地面と一定の角度に保つことができます。

- **「傾き」手動で使用する場合**
傾き自動スイッチが消灯しているとき、手動レバーを操作して、作業機を任意の角度に設定すればトラクタに対して一定の角度に保つことができます。
設定操作中に、作業機がトラクタに対して平行位置を通過する場合は、平行位置でいったん停止します。

【取扱いの注意】
作業機を最上位置にしても設定された角度を保ちます。

手動レバー
- 「傾き手動」で使用する場合
トラクタに対する作業機の角度を任意に設定できます。
- 「傾き自動」で使用する場合
傾き手動レバーを動かしているときのみ作業機の角度が変わります。
手を放すと傾き設定ダイヤルで設定された角度になります。

特定の作業に使うもの

作業条件を設定する必要のある場合は、カバーを開けて調節してください。



傾き設定ダイヤル

「傾き自動」のときに、地面に対する作業機の角度を設定することができます。

※「傾き自動」のときは、作業機を最上昇位置にすると傾き設定ダイヤルが働きません。

微調整スクリュー

「傾き自動」のときに、作業機の水平の微調節を行ないます。

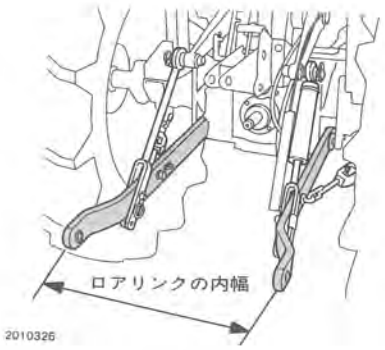
【取扱いの注意】

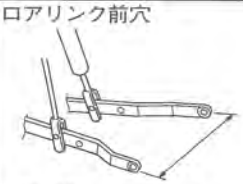
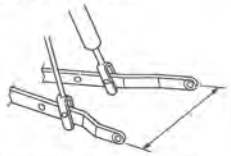
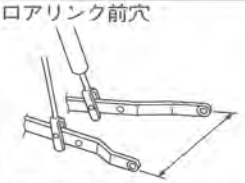
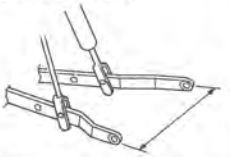
- 工場出荷時に、水平調整を行なってありますので、調整がくるった場合を除いて触らないでください。

3P 切換スイッチ

作業機を付け替えたときは、その作業機によって定まる 3 点リンクの取付状態（ロアリンクの内幅）に応じて下表より選択し、その位置に 3P 切換スイッチを切り換えてください。

※作業機の取り付けは、70 ページの「3 点リンクについて」および作業機の取扱説明書に従って行なってください。



	ロアリンク前穴	ロアリンク後穴	ロアリンク前穴	ロアリンク後穴
	 P2011929 内幅 825 mm	 P2011930 内幅 825 mm	 P2011929 内幅 683 mm	 P2011930 内幅 683 mm
3P 切換スイッチ位置	1	2	3	4
作業機	標準 3 点用作業機 ● プラウ	標準 3 点用作業機 ● 標準ロータリー ● ハロー	標準 3 点用作業機 （ロアリンクピン内向）	標準 3 点用作業機 （ロアリンクピン内向）

2. 基本的な使いかた

路上走行のとき

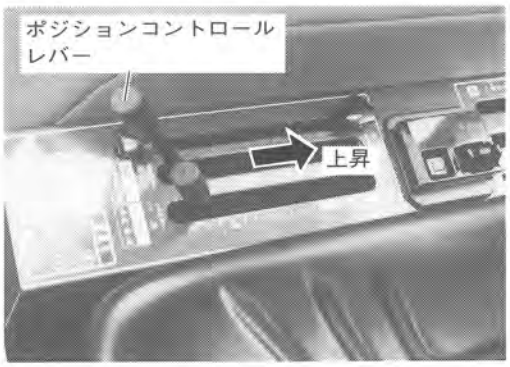
路上走行するときは、作業機が自然に下降したり、傾いたりしないように、次の処置をしてください。

JAC 操作ボックスの傾き自動スイッチが点灯している場合は、傾き自動スイッチを押して消灯状態（手動）にしてください。



P2011931

ポジションレバーを最「上昇」位置にして作業機を上げてください。



【取扱いの注意】

- **油圧ストップバルブは開いたままで、ポジションコントロールレバーを上げ位置にして、レバーロックをセットして走行してください。**

守らないと作業機が下がり、事故をひき起こすことがあります。

ロータリー作業

JAC 操作ボックスの傾き、自動スイッチが消灯しているときは傾き、自動スイッチを押してランプを点灯させてください。



P2011932

ドラフトコントロールレバーで耕深を設定した後、ポジションコントロールレバーでロータリを下ろしてください。



実際の耕深を見ながら、希望の耕深でないときは、ドラフトコントロールレバーで耕深を調節してください。

3.センサ異常時の表示について

センサに異常が発生した場合は、JAC 操作ボックスの傾き自動スイッチが点滅します。この場合は、正常作業が行えなくなりますので、販売店までご連絡ください。



P2011931

4. 使用後の手入れ

使用後洗車する場合（特に高圧洗車）は、コントロールボックス・電磁バルブ・センサ類および電装品への直接放水はさけてください。



1013921B

トラクター使用後は、必ずキースイッチを「OFF」にしてから抜いて保管してください。



作業後の手入れについて

正しい手入れを
行なってください。

1. 作業後の手入れ

⚠危険

- シートをかける場合は、エンジンを停止し、エンジンやマフラが十分冷えたことを確認してからかけてください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

その日の内にトラクターを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各グリスアップおよび注油を行なってください。

⚠注意

- 点検・整備の修理をするときは、かならずエンジンを停止してください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行なってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。

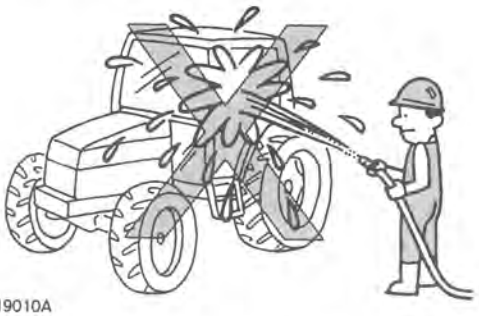
【取扱いの注意】

- 電装品にはできるだけ水をかけないようにしてください。故障の原因となります。



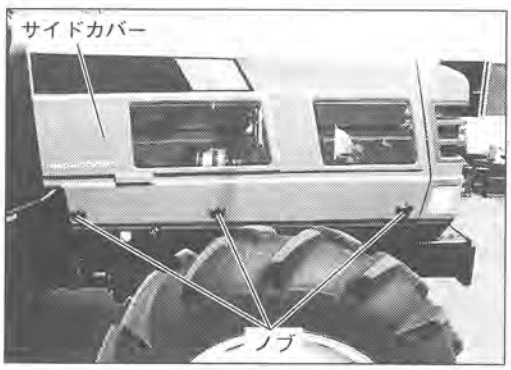
2010371

- キャビン仕様の洗車の注意
  使用後洗車する場合、高圧洗浄機を使用してキャビンへの直接放水をすると、キャビン内へ水が漏れる場合がありますのでさけてください。



1019010A

2. ボンネット・サイドカバーの開閉のしかた



①サイドカバー前、中、後のノブを下方向に回転するとロックが外れます。

②サイドカバー全体を上に持ち上げると外れます。

③取り付けは、ノブを後向きの水平にして強く押し込むとロックされます。
取付け、取外しの際は、前と中、または後と中を同時操作すると取り付けやすくなります。

3. 燃料の点検・給油のしかた

⚠危険

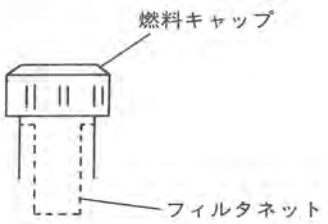
- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に給油はしないでください。
  守らないと、火災をおこすおそれがあります。

メインスイッチを「ON」位置にして、燃料燃料モニタランプが点灯したら、燃料キャップを外して給油口より補給してください。



【取扱いの注意】

- 給油するときは、ゴミが入らないようフィルタネットを外さないでください。フィルタネットにゴミがつまったときはゴミを取り除いてください。



4. 長期間使用しない場合の手入れ

⚠警告

- 格納する場合は、バッテリを取外し、キーを抜き取り保管してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- 格納する場合は、クラッチペダルをロックしてください。守らないと、クラッチが切れなくなり事故をおこすおそれがあります。

トラクターを長期間使用しない場合は、次の要領で整備し、格納してください。

①乾燥した風通しの良い所で、ウエイトなどは取り外し、作業機も取り外すか、降した状態にして、下には板を敷いてください。



2010370

②油圧シリンダ防錆のため、リフトアームを最上昇位置にしておいてください。

③外部の錆やすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。

④燃料タンクに燃料を満タンにしてください。空にしておきますと水滴ができ、サビの原因になります。

⑤バッテリを完全充電し、なるべく本機から取り外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。また、本機に取り付けたまま保管するときは、必ずアース側（⊖側）を外してください。

⑥冷却水を抜くか不凍液を入れてください。

⑦エアクリーナ・マフラー・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないよう、ポリエチレンなどの袋で密閉してください。

⑧クラッチは、クラッチのこう着を防止するため、クラッチを踏み込んだ状態でクラッチペダルロックをかけてください。





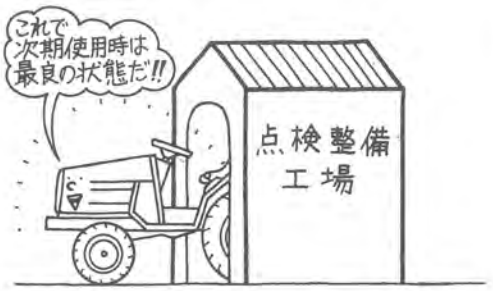
⑨前・後輪タイヤとも、正規の空気圧にしてください。

⑩キースイッチを抜きとり、トラクター以外の場所に保管してください。

【取扱いの注意】

- **バッテリは、使わなくても自然放電します。1ヵ月に1度は充電器で完全充電してください。(106ページ参照)**

長期間使用されない間に、保守整備契約制度による、点検整備をお受けになりますと、次期使用時に最良の状態でご使用いただけます。



2010372

定期の点検・調整について

⚠警告

- 点検・整備は、交通の危険がなく、トラクターが倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、タイヤに車止めをして行なってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- １年ごとに定期点検・整備を受け、各部の保守をしてください。特にブレーキホース、燃料パイプやパワーステアリングホースは２年ごとに交換してください。守らないと、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。
- 点検・整備・修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。
- 点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。
  守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

定期点検や整備は、農閑期に行ない農繁期には機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、１年ごとに販売店・整備工場で定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。特にブレーキホース、燃料パイプや、パワーステアリングホース、ラジエータホースなどのゴムホース類や電気配線は２年ごとに交換するにようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

1.定期点検一覧表

実施項目 ＼ アワメータ表示時間	50時間目	100時間目	150時間目	200時間目	250時間目	300時間目	350時間目	400時間目	450時間目	500時間目	550時間目	600時間目	参照ページ
エンジン潤滑油交換	○	○		○		○		○		○		○	95
ミッションオイル点検(交換)	交換	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	96
フロントアクスルオイルの点検(交換)	○	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	96
パワーステアリングオイル点検・交換	○	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	98
ブレーキオイルの点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	98
エンジンオイルエレメント交換	交換					交換						交換	99
ラインフィルタ(ミッションオイルエレメント)交換	交換					交換						交換	99
エアクリーナエレメント点検(交換)	○	○	○	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	105
防塵網のゴミつまりの掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	104
冷却ファン・ラジエータのゴミつまりの掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	104・106
冷却水の点検(交換)	始業時ごとに点検(1年毎に交換)												101
クラッチ・ブレーキペダルの遊びの点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	109
ラジエータ内部の掃除	冷却水交換時												101
燃料コシ器の洗浄およびエレメントの交換		○		○		交換		○		○		洗浄	101
バッテリ液量点検	始業時ごとに点検												106
バッテリ液比重点検および補充電		○		○		○		○		○		○	106
燃料パイプおよび結合部の点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	107
パワーステアリングのゴムホースの点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	107
ラジエータホースの点検・交換	始業時ごとに点検(2年毎に交換)												107
燃料パイプ・電気配線の交換	始業時ごとに点検(2年毎に交換)												107
電気配線の点検　※1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	107
各部グリースアップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	108
ステアリング各部締付点検		○		○		○		○		○		○	
重要ボルトナットの点検(増締)	○	○		○		○		○		○		○	
冷却ファンベルトの点検	○	○		○		○		○		○		○	110
コンプレッサ駆動用Vベルト	○	○		○		○		○		○		○	
エアコン配管の点検	○	○				○				○			83
エンジンのブリーザパイプの点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
エンジンクランクケースの洗浄						○						○	
吸排気弁すき間の点検												○	
燃料噴射弁の点検												○	
発電機、始動電動機の点検	○	○				○				○			
油圧装置の点検	○	○				○				○			
タイヤの点検	始業時ごとに点検												

※1 50時間ごとに点検を基本としますが、使用時間が満たない場合は1年ごとに行なってください。
※2 交換の必要なものは、使用時間に達しなくても2年ごとに交換してください。
※3 パワーステアリングの高圧ホースは2年ごとに交換してください。

2.オイル・グリース・不凍液一覧表

燃　　料	ディーゼル軽油JIS2号または特3号軽油を使用してください。		
エンジンオイル (新SAE、CC級) (JIS K2216 2種 DG または DM)	純　正　油	マルチSTOUオイル(10W-30)	その他一流メーカーのオイルでAPIサービス分類CD級オイルを使用してください。
	全　　農	クミアイエンジンオイル(ディーゼル用)	
	三菱石油	ダイヤモンドHDS-3 ダイヤモンドファームユニバーサルオイル	
ミッションオイル 油圧兼用	純　正　油	マルチGBオイル	(80W)
	純　正　油	マルチSTOUオイル	(10W-30)
	全　　農	クミアイトラクターオイル	(80W)
	三菱石油	ダイヤモンドファームギヤオイルB	(80W)
	三菱石油	ダイヤモンドファームユニバーサルオイル	(10W-30)
	日本石油	アントイルB	(80W)
	昭和シェル石油	ギヤオイルHTS-56スーパー	(80W)
グリス (マルチパーパスタイプ)			300時間毎に交換してください。
不凍液 (JIS K2234 2種 パーマネントタイプ)			工場出荷時は−15℃を基準としております。
パワーステアリングオイル	シェルテラス32（シェル） 油圧作動油…ISO VG32～46		
ブレーキオイル	シェルテラス32（シェル） 油圧作動油…ISO VG32～46　　注）鉱物油		

注)気温−10℃以下のとき、燃料は特3号軽油を使用してください。

3.給油・給水一覧表

型　　式	MT820／920
燃　　料	120ℓ
冷却水　ラジエータ	16ℓ
エンジンオイル	12ℓ
ミッションオイル	58ℓ
フロントアクスル	8ℓ
パワーステアリングオイル	1ℓ
ブレーキオイル	0.2ℓ

4. 各部オイルの点検・交換のしかた

⚠危険

- エンジン回転中や、エンジンが熱いときは絶対に注油しないでください。守らないと、火災やヤケドを起こすおそれがあります。

⚠注意

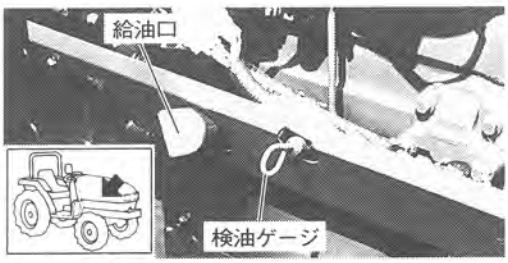
- エンジン停止直後のオイル交換はしないでください。守らないと、ヤケドをするおそれがあります。

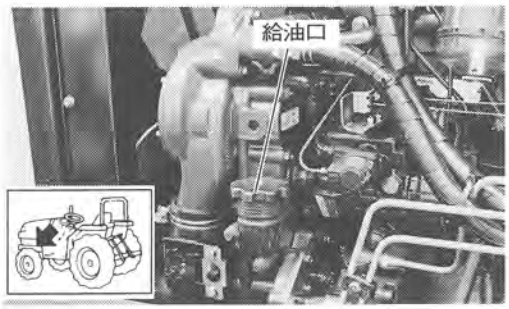
エンジンオイル

点検

エンジン部右側横の検油ゲージを抜いて、先端をきれいにふいて差し込み、再び抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、左右いずれかの給油口より検油ゲージ規定量まで入れてください。







【取扱いの注意】

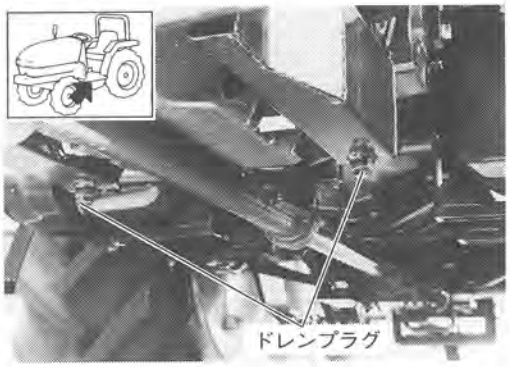
- オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。

交換

エンジン下部のドレンプラグから排油してください。給油はエンジンの給油口からしてください。

エンジンオイルは、定期的に交換すると同時に、気温・使用状況に合わせてエンジンオイルを使いわけることが大切です。

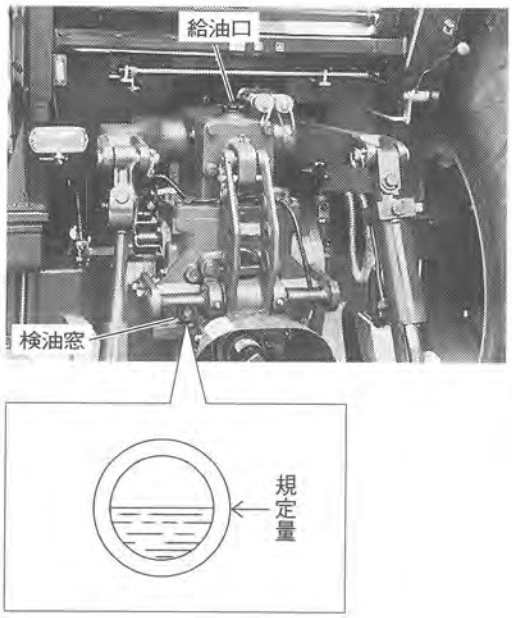
詳しくは、お買い上げいただいた販売店、JA、ガソリンスタンド、お近くの当社支店までご相談ください。



ミッションオイル

点検

トラクタ後部の検油窓で調べます。円の中央が規定の量です。不足しているときは、給油口より規定量まで入れてください。



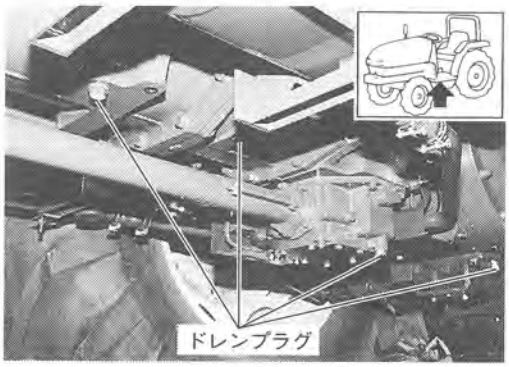
交換

ミッションケース下側（3箇所）、4輪駆動取出ケースの計4箇所のドレンプラグから排油してください。

オイルを抜くときは、ミッションが暖かい内に抜くときれいに抜けます。給油は油圧ケース上部の給油口から入れてください。

※ミッションオイルは、油圧オイルのオイルと併用しています。

※ミッションオイルは、必ず指定オイルを使用してください。

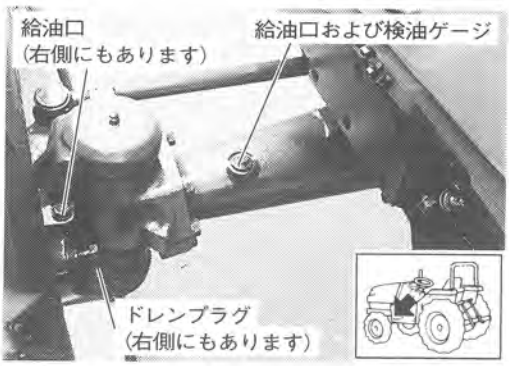


フロントアクスルオイル

点検

フロントアクスル右上部の給油口のふたを外してゲージの先端をきれいにふき、ねじ込まない状態で差し込み、再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口よりゲージの規定量まで入れてください。

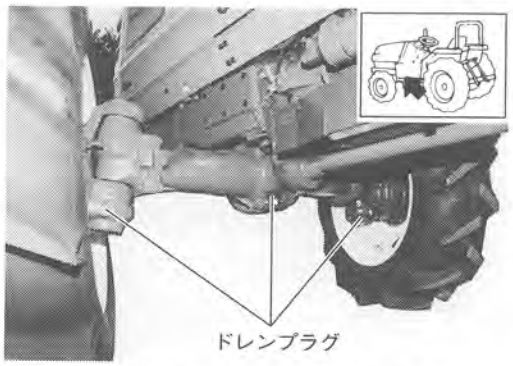




交換

フロントアクスル中央部とフロントアクスル下部の左右ドレンプラグ3箇所から排油してください。

給油はフロントアクスル右上部および、左右の給油口、計3箇所の給油口から行なってください。



※フロントアクスルオイルは、必ず指定オイルを使用してください。

フロントアクスルオイル-Z仕様

交換

(1) エア抜きネジを抜きます。

(2) 給油口Bに0.5 ℓ給油します。

(3) 給油口Aに1 ℓ給油します。

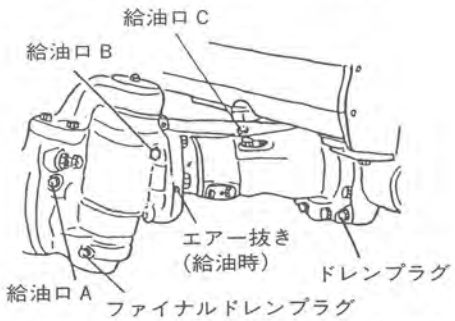
(1)～(3)は右側も同様に給油します。

(4) エア抜きネジを取付けます。

(5) 給油口Cに3 ℓ給油します。

この場合、左側のみの給油で結構ですが、右側のネジを外しておくと容易に給油できます。(合計6 ℓ)

左前車輪(トラクタ後方より見たとき)



V1076A



パワーステアリングオイル

点検

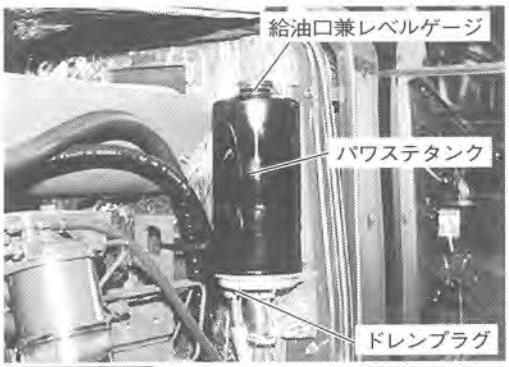
検油ゲージ（兼給油栓）の上限と下限の間にオイルがあれば正常です。不足していれば追加してください。（上限より多く入れないでください。油漏れがします。）

交換

①タンクの下側にあるドレンプラグを外し、古いオイルを排出します。

②完全にオイルが排出したら、ドレンプラグを締めます。

③新しい油圧作動油（シェルテラス32 P94参照）をタンク内ゲージ面まで入れます。





ブレーキオイル（リザーブタンク）

点検

使用前に必ず点検し、リザーブタンクの上限と下限の間にオイルがあれば正常です。不足していれば必ず指定のシェルテラス32を追加してください。

交換

オイル交換は2年ごと車検時に行ないます。



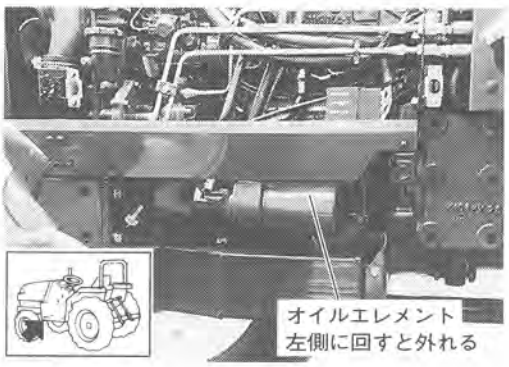
【取扱いの注意】

- このトラクタに使用しているブレーキオイルは鉱物油（シェルテラス32）です。植物油系とは成分が違います。
- 一般にブレーキオイルとして車に使用されているものは植物油系のものが多いので、絶対に使用しないでください。植物油系のオイルを使用すると、ブレーキ系のゴム関係品が膨張し、作動不能や、ブレーキロックをおこし、非常に危険です。
- ブレーキオイルの減りが著しいときは、ブレーキ系統に漏れのある場合があります。早めに購入先またはサービス工場にご連絡ください。
- 補給時、タンク内にゴミが入らないよう十分注意してください。ゴミが入ると、ブレーキが突然効かなくなる場合があり、危険です。

5. 各部エレメントの交換のしかた

エンジンオイルエレメント

300時間または、エンジンオイルを2～3回交換ごとにエレメントを取り替えてください。



交換

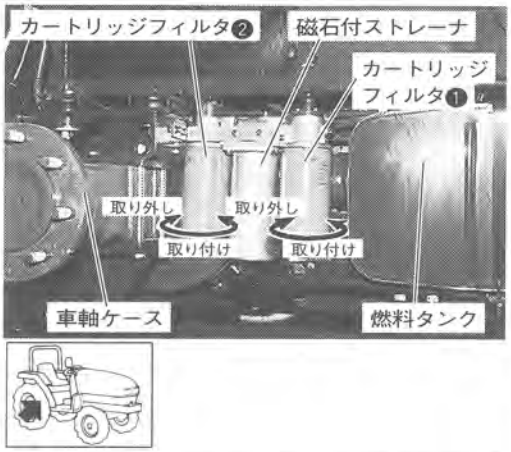
①2つのドレンプラグを外してエンジンオイルを排出します。(要領P95参照)
②フィルタを外します。
③新しいフィルタのOリング部にオイルを薄く塗り、手で確実に締め付けます。
④ドレンプラグを取り付けて、新しいエンジンオイルを規定量入れます。
⑤エンジンを始動し、約5分間アイドリング運転をします。
⑥エンジンを停止して、レベルゲージでオイル量を点検し、不足していれば補給します。

【取扱いの注意】

- **最大出力で長時間運転した場合は、短時間でフィルタを交換する必要があります。このような過酷な条件のもとでは150時間でフィルタを交換してください。**

油圧オイルフィルタ、ストレーナ

このトラクタには、カートリッジのオイルフィルタと磁石つきストレーナの2種類(3個)(仕様により2個)の油圧オイルフィルタが右ステップ下側に取り付けてあります。



カートリッジオイルフィルタの交換

❶のフィルタは最初の50時間目、以後は300時間ごとに新品と交換してください。
❷のフィルタはオイル流量が前側の約半分です。最初の50時間目、以後は600時間ごとに新品と交換してください。

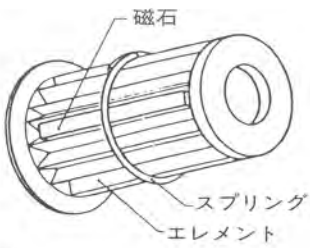
(1) フィルタを取り外します。
(2) 新しいフィルタのOリング部にオイルを薄く塗り、手でフィルタを確実に締付けます。
(3) エンジンを始動し、作業機の昇降が正常か確認します。
❶、❷フィルタは、PTOクラッチ、ハイローミッションクラッチ、4輪駆動クラッチに使われる作動油のフィルタです。これらの作動が正常か確認します。
(4) エンジンを停止し、レベルゲージでオイル量を点検し、不足していれば補給します。

磁石付きストレーナの洗浄

【取り扱いの注意】

- **ストレーナの洗浄は300時間ごとに購入先またはサービス工場へ依頼されることをお勧めします。**
- **ストレーナの取り外し、取り付け、洗浄するときは歪ませたり、金網を傷めたりしないように注意してください。**

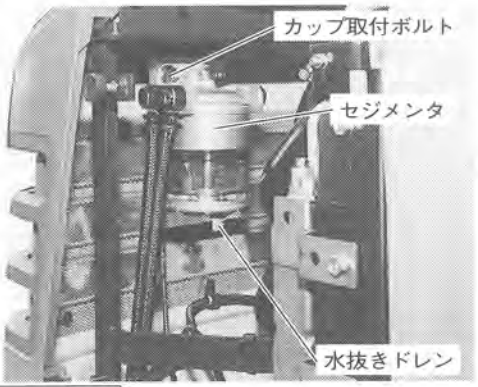
①ギヤオイルを排出します。
②ストレーナ底蓋をゆるめ取外し、エレメントを取り外します。底蓋を外すとストレーナ内の油が多少残っており、こぼれますので注意してください。
③エレメント外周には6本の磁石がスプリングで固定されています。スプリングおよび磁石を取り外し、付いているゴミをやわらかい布で拭きとります。エレメントは灯油か軽油ですすぎ洗いをします。
④底蓋を取り付けてギヤオイルを規定量入れます。
⑤後は前項のカートリッジオイルフィルタの交換③、④と同様です。



P2011909

セジメンタの水抜きと手入れ

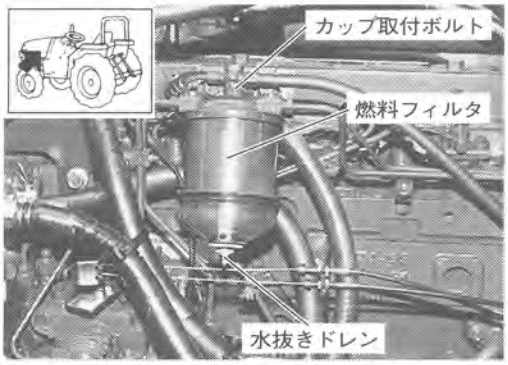
セジメンタはフロントマスク後部にあります。フィルタ内に水がたまったら、フィルタ下部の水抜きドレンを抜き、水を除去してください。バッテリの上部にありますので、ビニール袋等により、水や燃料がバッテリーにかからないようにしてください。
ゴミや水がたまっているときは、フィルタ上部のボルトをゆるめ、フィルタカップを分解して軽油でよく洗ってから組み付けます。
組付け後は空気抜きをしてください。空気抜きの方法はP103ページの空気抜きのしかたと同じです。





燃料フィルタの水抜きと手入れ

エンジン左側にあります。
フィルタ内に水がたまったら、フィルタ下部の水抜きドレンを抜き、水を除去してください。スタータの上部にありますのでビニール袋等によりスタータに水と燃料がかからないようにしてください。
600時間ごとにフィルタ上部のエレメントの交換とカップの清掃をしてください。
フィルタ上部のボルトをゆるめ、フィルタとカップを分解して、カップは軽油でよく洗い、新しいエレメントを組付けます。組付け後は空気抜きをしてください。



空気抜きのポイント

セジメンタや燃料フィルタを分解した場合に手動ポンプであおっても、燃料がスムーズに流れこまないことがあります。このようなときは手動ポンプにエアーが入っていますのでキースイッチを「ON」にして、フィルタ内の内圧を抜いて、手動ポンプをあおってください。

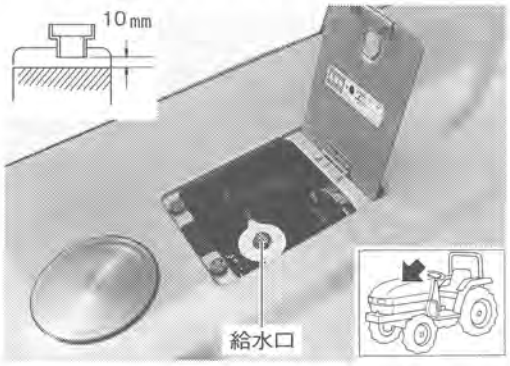
6. 冷却水の点検・交換のしかた

⚠危険

- **ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後に開けないでください。エンジンが停止してエンジンが冷えてから開けてください。守らないと、熱湯が吹き出し、ヤケドを負うおそれがあります。**

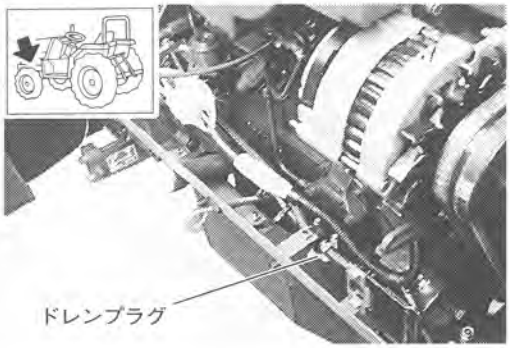
点検

ラジエータキャップを開けて、冷却水の液面が給水口下端より10㎜以内にあれば正常です。
不足しているときは、タンクの給水口より不凍液を補給してください。



交換

①ラジエータキャップを外し、ドレンプラグをゆるめて、ラジエータ内の水を全て抜きます。



②水道水で、ゴミや錆が出なくなるまでラジエータ内部を洗います。

※ラジエータ洗浄剤を混合した水を入れ、15分以上エンジンを空回転させてから、水を抜き取ると、ラジエータ内はいっそうきれいになります。

③ドレンプラグを取り付け、不凍液を必要量入れてから、清水をあふれるまで入れます。

④ラジエータキャップを取り付け、エンジンを始動して、不凍液と清水をよく混合します。

〈不凍液の取り扱いについて〉

トラクタを購入されたときは不凍液が入っており、−35℃まで凍結しません。冷却水交換のとき水道水など真水だけを使用すると冬期間に凍ってラジエータ、シリンダブロック等を破損させるおそれがあります。その場合は冬（気温0℃以下）になる前に、冷却水を排出するか、不凍液を入れてください。

不凍液はロングライフタイプを使用し、水道水と混合します。

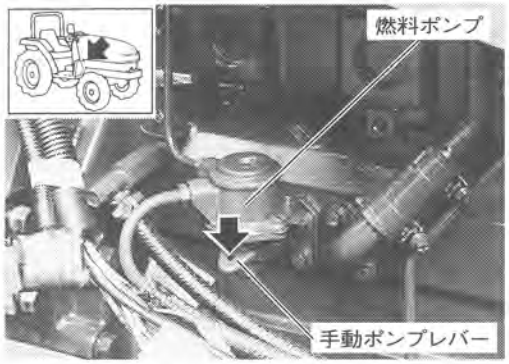
混合率はメーカにより異なりますのでメーカの注意書に従ってください。

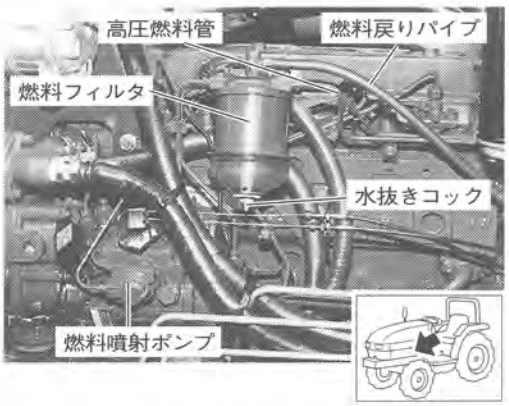
【取扱いの注意】

- **不凍液には防錆剤が入っています。種類の異なる不凍液や防錆剤は混入しないでください。混入しますとスラッジが発生して、エンジン各部に悪影響を与えます。**
- **不凍液の有効期間は2年です。それを過ぎると防錆効果が次第に低くなりますので早めに交換してください。**
- **冷却水として水道水（真水）を使用してもかまいませんが、冬期は凍結防止のため不凍液を使用してください。また、海水は入れないでください。**
- **凍結の恐れのない地域や季節においてエンジン水温が上昇して、オーバーヒート気味になる場合は不凍液を排出して普通のきれいな水に入れ替えて使用してください。**

7. 燃料の空気（エア）抜きのしかた

自動空気（エア）抜きとなっていますが、燃料切れを起こし、エンジンが停止したとき、または、点検整備で燃料フィルタ、燃料配管を外し、エンジンが始動しないときは空気抜きをしてください。





空気抜きは次のようにしてください。

①燃料タンクに燃料を満たします。

②エンジン右側にある燃料ポンプの手動ポンプレバーをあおり、エンジン左側にある燃料フィルタに燃料を満たします。確認は燃料戻しパイプを抜くか、頭部のボルトをゆるめ、気泡が完全になくなり、燃料だけが噴出するかでわかります。

（手動ポンプをあおり続けますと、燃料はフィルタ頭部より、燃料戻しパイプを通じタンクに戻るようになっています。）

③高圧燃料管とノズルの接合ナットをゆるめます。

④アクセルレバーをいっぱい手前に引きます。

⑤スタータを回してエンジンを10～15秒間空転させると、高圧燃料管の空気が抜けます。

⑥高圧燃料管とノズルの接合ナットを締め付けます。

⑦エンジンを始動します。始動したらすぐ低速回転にし、回転が安定すれば空気抜きは完了です。

通常①～②まで行ない、スタータを20～30秒回転させますと、エンジンは始動します。20～30秒スタートを回転させても始動しない場合は①～⑥を再度行ないます。スタータは30秒以上は回転させないでください。
エンジン周囲にこぼれた燃料はよく拭き取ってください。（燃料をこぼさないようビニール袋等を利用されることをおすすめします。）

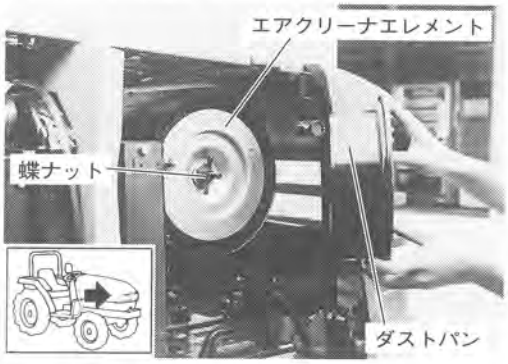
【取扱いの注意】

- **燃料噴射ポンプは、燃料によって、潤滑されていますので、注油や定期点検の必要はありません。**

8.ラジエータスクリーンとエアクリーナエレメントの掃除・交換のしかた

エアクリーナの清掃

エアクリーナエレメントは100時間ごとに清掃してください。1年または6回清掃ごとに新品と交換してください。



①蝶ナットを緩め、ダストパンを外します。
②湿り気のあるやわらかい布でダストパンおよびシールを清掃します。
③蝶ナットを緩めエレメントを本体から取出し、素手で軽くエレメント外側をたたき、ヒダに溜まったホコリを取除きます。

【取扱いの注意】

- **エレメントを固いものにぶつけたりすると、凹凸ができたり、機械を損傷させるおそれがあります。**

④エレメントの内側から弱い圧縮空気（2.0kg/㎠）を吹きつけてホコリを払います。

【取扱いの注意】

- **エレメントが破損しないように注意してください。直接圧縮空気をエレメントの上下に吹きつけるときは噴射ノズルとエレメントの距離を適切に保ってください。**

⑤乾いた布でエレメントのファンと内側を拭います。

⑥懐中電灯をエレメントの内側に入れてエレメントの紙あるいは紙の接合部に漏れがないか確認します。もし漏れる穴があるときは新品のエレメントと交換します。

⑦エアクリーナを組立てます。

エアクリーナエレメントの洗浄

①洗浄はススや油気を取り除くのに必要です。エレメントを中性洗剤の入っている温水に入れてすすぎ洗いします。

【取扱いの注意】

- **洗うのに手の入れられないような熱湯を使用しないでください。(40℃以下)熱い湯を使用するとエレメントが損傷します。エレメントを決して軽油（燃料）やガソリンまたはその溶液で洗浄してはなりません。またエレメントをオイルの中に浸してはいけません。**

②清水でエレメントをすすぎ洗いをします。次にエレメントから水分を振り払い、自然乾燥させます。

【取扱いの注意】

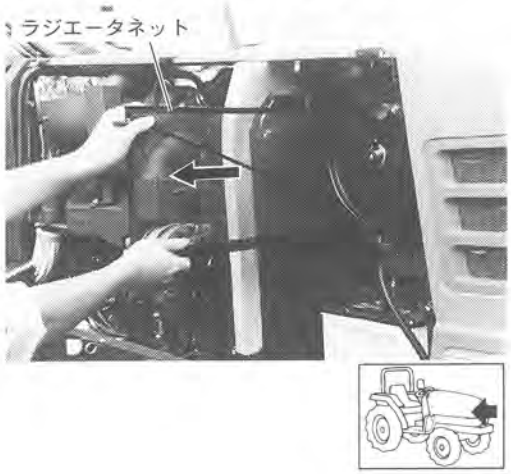
- **圧縮空気でエレメントを乾かしてはいけません。もしそうすればエレメントは損傷します。また、湿ったエレメントを取付けるとトラクタのエンジンが始動しなくなりますので、湿ったエレメントを取付けないでください。**

③エレメントを乾燥させた後、懐中電灯をエレメントの内側に入れて、損傷していないか点検します。もし、エレメントはきれいで、光が見えたとしても、ダメになってはいません。
電灯の眩しい光が見えるときはエレメントが損傷していることを示していますので、新しいエレメントと交換してください。

ラジエータネットの清掃

ラジエータネットを外して、手で軽く振ってゴミを落してください。ワラ灰、枯草のあるほ場での作業、あるいは夜間作業をした場合はラジエータネットに草、実、虫が付着し、目詰まりすることがあります。オーバーヒートの原因になりますので。ネットを外して清掃してください。

ネットを外す時は上側を先に、取付ける時は下側から取付けてください。



9. バッテリの点検のしかた

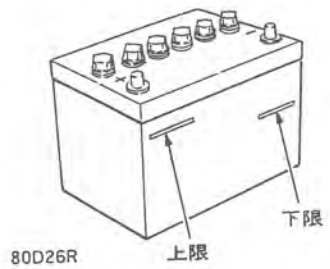
⚠危険

- バッテリの点検時・充電時、火気厳禁です。守らないと、引火爆発し、ヤケドを負うおそれがあります。
- バッテリ液を身体や服につけないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。守らないと、服が破れたり、ヤケドを負うおそれがあります。

⚠注意

- バッテリの取付けは十側を先に取付け、取外すときは一側から取外してください。守らないと、ショートしてヤケドを負うおそれがあります。

バッテリの上限と下限のラインの間に液があるか調べます。不足している槽があれば蒸留水を上限のラインまで補給してください。



【取扱いの注意】

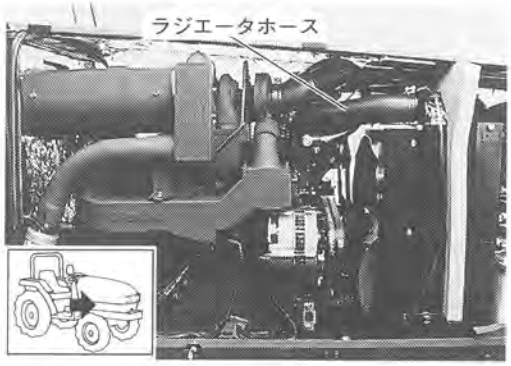
- バッテリ各槽に、液を入れすぎると、充電時にバッテリ液が吹き出し、トラクターの金属部を腐蝕させます。
- 急速充電は避けてください。
- バッテリを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した容量のバッテリを使用してください。

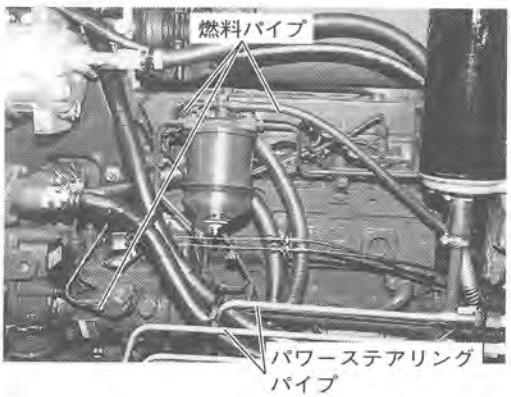
10.パイプ類の点検について

⚠危険

- **燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますのでかならず点検してください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。**

燃料パイプ、ブレーキホース、パワーステアリングホース、ラジエータホースなど傷んで燃料もれ、油もれ、水もれがないか、また、締付バンドがゆるんでないかも調べてください。傷んでいなくても2年ごとに交換してください。





【取扱いの注意】

- **燃料パイプを交換したときは、空気（エア）抜きをしてください。(103ページ参照)**

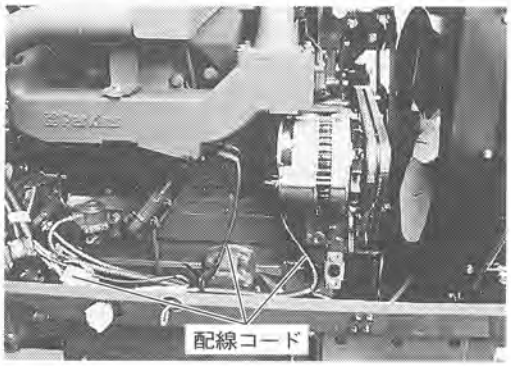
11.電気配線の点検について

⚠警告

- **配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。**
- **バッテリや配線に付着しているワラクズやゴミは、作業前、作業後にきれいに取り除いてください。守らないと、ショートして火災をおこすおそれがあります。**

エンジンサイドカバーを外し、電気配線コードが他の部品に接触して被覆のはがれや傷、または、接続部のゆるみがないかを調べてください。傷んでいる場合は、お買い上げいただいた販売店または農協で修理してください。

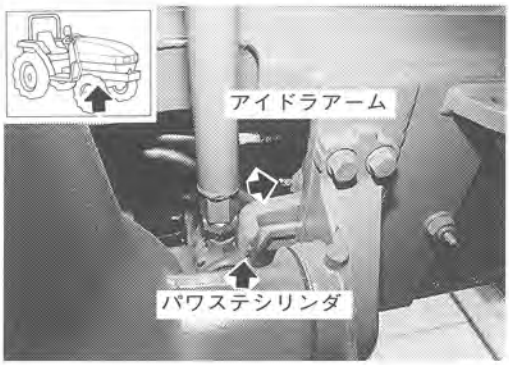
傷んでいなくても使用時間50時間ごと、または1年ごとに定期点検を受けてください。

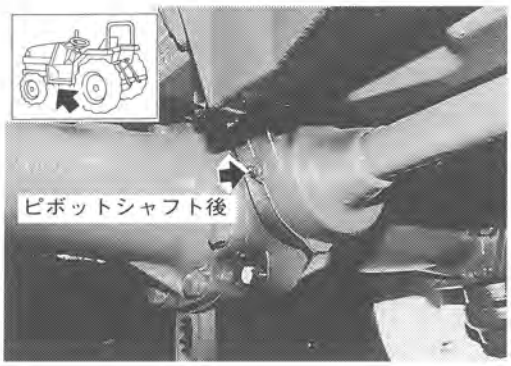


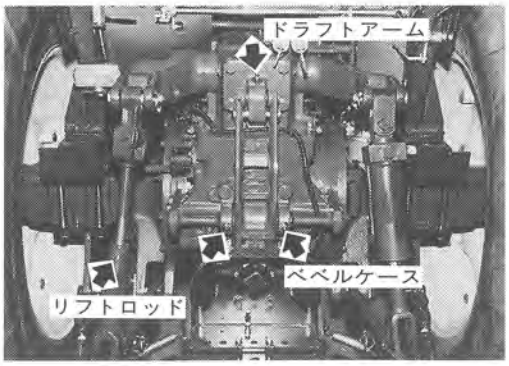
12.グリスアップ(注入)について

ピボットシャフト前後のブッシュ、パワステの支点、アイドラアーム支点、タイロッド、ドラフトアーム、リフトロッドねじ部、等50時間ごとにグリースアップしてください。

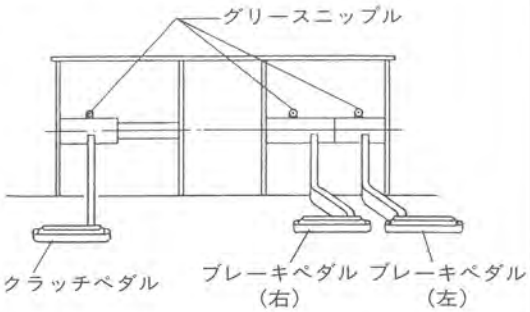






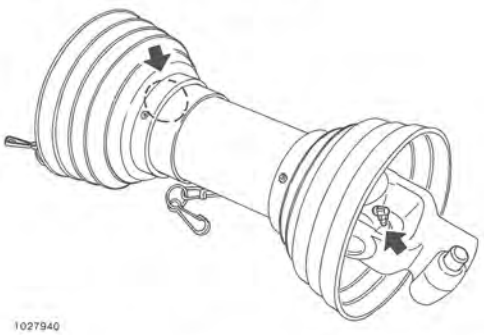


クラッチ、ブレーキのペダル軸は分解等した時にグリースアップしてください。



【取扱いの注意】

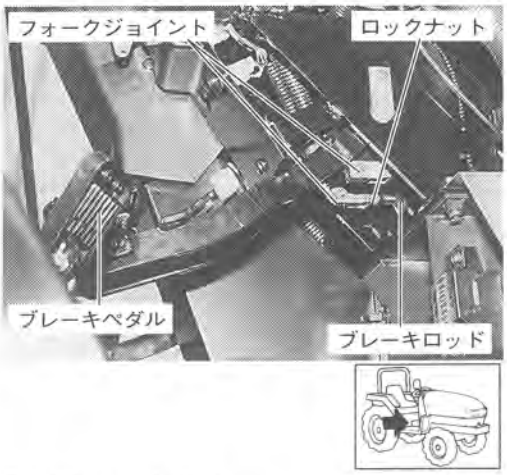
- **PTO軸に作業機のジョイントを付けている場合はグリースアップを確実に実施してください。そうしないとジョイントが抜けなくなったり、PTO軸を破損することがあります。**



- **泥水、潮風、降水がトラクターにかかった後は水洗いして必ずグリースアップしておいてください。**

13.ブレーキの点検・調整について

ブレーキペダルの遊びは工場で5～10㎜に調整されています。分解等しないかぎり調整の必要はありません。自動調整式です。

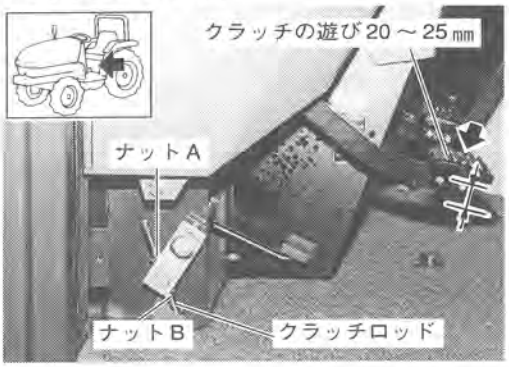


【取扱いの注意】

- ブレーキロッドはブレーキペダルを踏まない状態でガタがあることが大切です。ガタがないときは、マスタシリンダ内の圧力が抜けず、走行中にブレーキオイルが膨張したときブレーキがロックすることになり危険です。左右のブレーキのストロークは、左右別々に踏んだときは、多少の差がでます。左右同時に踏んだときはこのトラクタに装備されている〔イコライザバルブ〕が働き、左右のブレーキが同時に効くようになっています。調整はサービス工場で行なってください。
- ペダルをいっぱい踏み込んだときの踏みごたえがやわらかく感じるときは、ブレーキ液の漏れ、空気の混入等のおそれがありますので、購入先またはサービス工場で点検を受けてください。

14.クラッチペダル及びセイフティスイッチの点検・調整

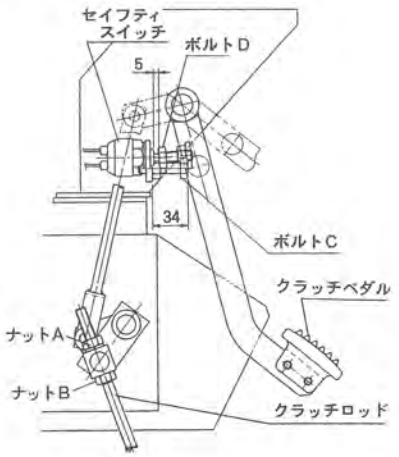
クラッチの寿命を長くする上で、クラッチペダルの遊びを適正に保つことは非常に大切なことです。



①ダッシュボード左下のカバーを取外します。

②クラッチロッドのナット〔A〕をゆるめ、ペダルの遊びが20～25㎜にします。ナット〔B〕を締めつけます。

③クラッチ「切」の状態を超えて約10㎜ペダルを踏込んだとき、ボルトCがペダルのストッパになるように調整し、ロックナットで固定します。（このとき図のようにボルトCの頭～ロックナットの先端は約34㎜になります。）

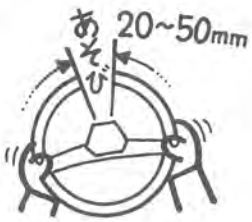


④クラッチペダルをいっぱいに踏込んだときボルトDの頭とスイッチに5㎜の余裕があるように調整し、ロックナットで固定します。

15.ハンドルの点検・調整について

⚠警告

- ハンドルに著しいガタや遊びがないように、点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。ハンドルを軽く左右に動かしたときの遊び量が20～50mmの範囲にあるか調べてください。遊び量が適正でないとハンドルが重くなったり、直進性が悪くなります。遊び量が適正でないときは、お買い上げいただいた販売店、農協で整備してください。



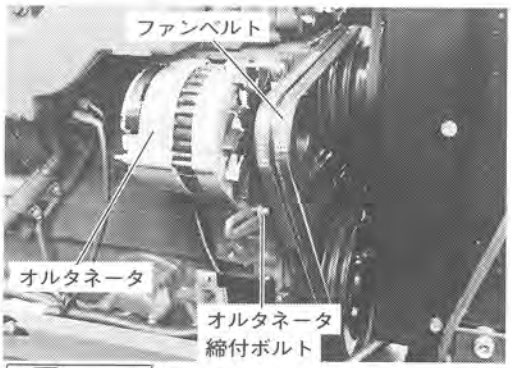
P2011927

16.ファンベルトの点検・調整について

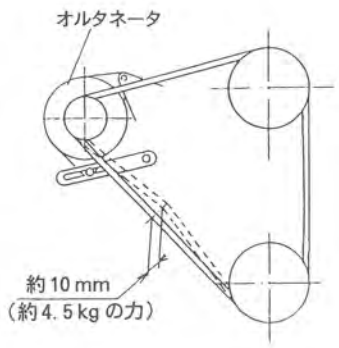
⚠注意

- エンジンが十分冷えた状態で行なってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。

右側のボンネットサイドカバーを開け、ファンベルトの中間を指で押え（4～5kgの力）、ベルトのたわみが約10㎜あるか、ベルトが損傷していないか調べてください。たわみが適正でないときはオルタネータ締付ボルトをゆるめ、オイルネータを移動させて張りを調節します。また、オイルネータをいっぱいに動かしてもベルトがスリップするようでしたら、新しいベルトと交換してください。なお、新しいベルトは、交換後50時間目に必ず点検してください。





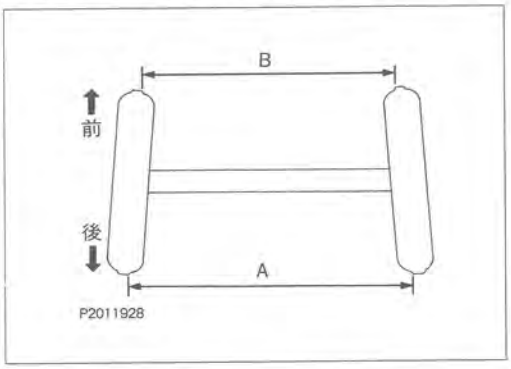


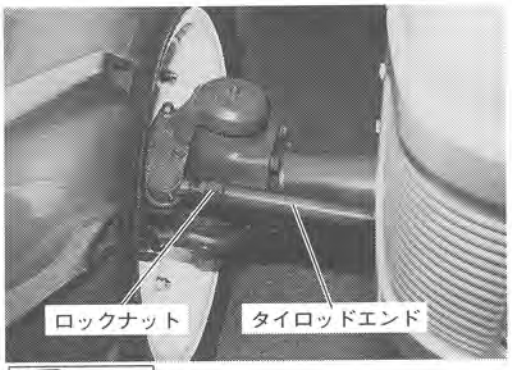
【取扱いの注意】

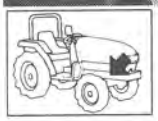
- ベルトの張りが弱いとオーバーヒート、バッテリ上がりの原因となり、強すぎるとVベルトに悪影響を与えます。
  Vベルトは2本掛けですので、必ず2本同時に交換してください。部品コード番号はP2614B658です。

17. トーインの点検・調整について

トーインの調整が悪いと、ハンドルを取られたり異常に振れることがあります。調整は前輪のA寸法とB寸法を測定し、A－Bが0～5㎜であるか調べてください。
規定寸法でない場合は、左右のタイロッドエンドのロックナットをゆるめ、ネジ長さを調節します。トーインが0～5㎜になったらロックナットで固定してください。



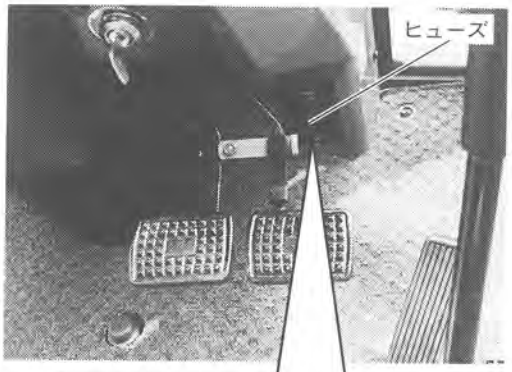




18. ヒューズ・ヒュージブルリンクの点検・交換について

ヒューズの交換

ダッシュボード右下のカバーをビス2本緩めて外すとヒューズボックスの蓋があり、蓋を外すとヒューズがあります。ヒューズが切れている場合は原因を調べて必ず規定のヒューズと交換してください。蓋の裏側に予備ヒューズがあります。

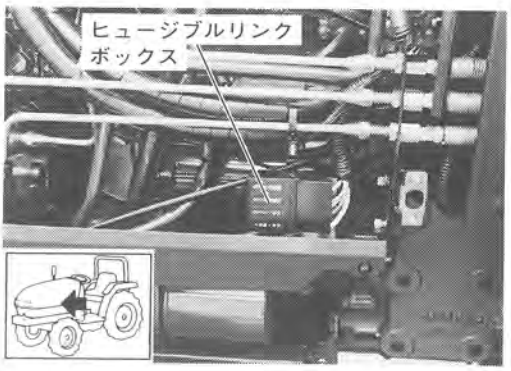


上側

指定容量以外のヒューズは使用しないでください			
	電磁バルブ	10	
	オルタネータ メータ	10	
	作業灯	20	
	ローダ電源	20	
	リバースランプ	10	
	フラシャー ブレーキ	10	
	シガライタ	15	
	ホーン	10	
	ライト	15	
	キー STOP PTO	15	

下側

ヒュージブルリンクの交換



ヒュージブルリンクは、エンジン左側スタータ付近の黒いボックスの中にあります。ヒュージブルリンクはショート（短絡）した場合に切れ、他の配線焼損から保護するものです。切れた場合は、原因を調べて修理したのち、必ず純正部品の新しいヒュージブルリンクと交換してください。

【取扱いの注意】

- **ヒューズあるいはヒュージブルリンクが切れたときは非常の場合以外は絶対に針金などの代用品を使用してはいけません。**
  もし、針金などを使用すると配線や電装品を損傷するばかりでなく、火災事故になることがあります。

19. タイヤの点検について

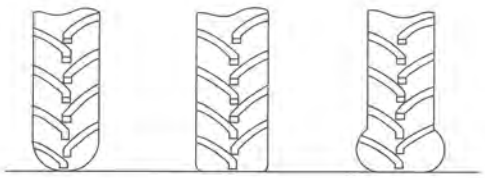
タイヤの点検

前・後進の空気圧を標準空気圧に調整してください。また、タイヤに亀裂などがないか確認してください。

フロントローダなど前輪に重荷重がかかる場合は、タイヤ側面に表示されている範囲で空気圧を上げて作業してください。

タイヤ空気圧

		空気圧（kg/c ㎡）
標　準	前　輪	2.0
	後　輪	1.0



ホイールと車軸の取付ボルトの点検

各車輪の取付ボルトのゆるみを確認してください。ゆるみがあるときは「車輪の締付けについて」に従い増締めしてください。

リムとホイールのナットの点検

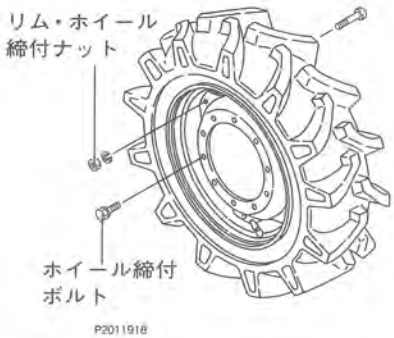
リムとホイールの固定・ナットに合マークがあります。点検は、合マークがズレていないか確認してください。

合マークがズレていましたら、締付トルク34～37kgmで増締めしてください。

輪距調節を行ない、リムとホイールの組み替えを行なった場合は、再度締付トルク34～37kgmでナットを締付け、新しくマジック等で合マークを入れてください。

車輪の締付けについて

- **ホイールと車軸の締付トルク**
  27～30kg-m
- **リム・ホイールの締付トルク**
  34～37kg-m



20. 排気ガスの色について

エンジン始動時は、少し黒色の排気ガスがでますが、通常は無色です。

黒色…燃料が濃すぎるための不完全燃焼。

白色…エンジンオイルが燃焼しています。ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることもあります。

黒色、白色の排気ガスが負荷をかけなくても出るときは、販売店、または農協で整備してください。

不調診断

※もし機械の調子が悪い時は、表を参考にし、必ずエンジンを止めてから診断してください。

1.エンジン関係

状　況	点検箇所	処　置
キースイッチを回してもスタータが回らない。	クラッチペダルを踏み込んでいますか。	クラッチペダルを完全に踏み込んでから、メインスイッチを「START」に回してください。
	PTOクラッチレバーは「OFF」（エンジンスタート）になっていますか。	「OFF」の位置にしてから、メインスイッチを「START」位置に回してください。
	バッテリ液は規定量入ってますか。または放電してはいませんか。	バッテリ液を規定量補給し、満充電してください。（106ページ参照）
	バッテリ端子部のゆるみ外れ、腐蝕していませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けて、グリスを塗布し防錆してください。
	メインヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。
	キースイッチが故障していませんか。	サービス工場で修理、または交換してください。
	セルモータが故障していませんか。	サービス工場で修理、または交換してください。
スタータは回るがエンジンが始動しない。	燃料タンクに燃料が入っていますか。	満タンに給油し、エア抜きをしてください。
	燃料にエアが混入していませんか。	燃料のエア抜きを行なってください。
エンジンが不規則に回転する。	燃料系統にエア混入していませんか。	エア抜きをしてください。
	燃料に水が混入していませんか。	水を抜き、新しい軽油と交換してください。
	噴射ノズルが詰まっていませんか。	修理、または交換してください。
	燃料フィルタが目詰りしていませんか。	洗浄、または交換してください。

状　況	点検箇所	処　置
エンジンが過熱する（オーバーヒート）	冷却水が不足していませんか。	冷却水を補給してください。
	ファンベルトはゆるんでいませんか、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。
	ラジエータフィンが目詰りしていませんか。	清掃してください。
	エンジンオイルが不足していませんか。	オイルを補給してください。（95ページ参照）
	過負荷運転をしていませんか。	負荷を軽くしてください。
エンジンの力が出ない。	エアクリーナが目詰りしていませんか。	エアクリーナを点検してください。
	ノズルが焼付きついていませんか。	サービス工場で修理をしてください。
	圧縮力が不足していませんか。	
	バルブクリアランスの調整は適正ですか。	
	噴射時期が悪くありませんか。	
運転中にエンジン油圧ランプが点灯した	エンジンオイル量が少なくなっていませんか。	オイルを規定量まで補給してください。（95ページ参照）
	エンジンオイルの粘度が低くありませんか。	適正粘度のオイルと交換してください。
	プレッシャスイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。
	オイルポンプが故障していませんか。	サービス工場で修理をしてください。
運転中にチャージランプが点灯した	レギュレターが故障していませんか。	サービス工場で修理をしてください。
	ファンベルトのゆるみ、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。

2.クラッチ・ブレーキ関係

状　況	点検箇所	処　置
クラッチがすべる、または切れない。	ペダルの遊び量は適正ですか。	ペダルの遊び量を調整してください。（109ページ参照）
ブレーキのききが悪い、または片ぎきする。	ブレーキの遊び量は適正ですか。 ライニングが磨耗していませんか。	エア抜きをして遊びを適正にする。（109ページ参照） ライニングを交換してください。
ブレーキペダルの戻りが悪い。	ブレーキ戻しスプリングが破損していませんか。	スプリングを交換してください。

3.油圧関係

状　況	点検箇所	処　置
作業機が上がらない	油圧ストップ、フローコントロールバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップ、フローコントロールバルブを「開」にしてください。
	ミッションオイルが不足していませんか。	規定量まで補給してください。
	吸入パイプ系統からエアの吸い込みがありませんか。	フィルタケースや取付部などを増し締めし、パイプに亀裂が発生していたり、Oリングが破損していれば交換してください。
	オイルフィルタが目詰りしていませんか。	清掃または交換してください。
	油圧ポンプが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。
	コントロールバルブがゴミをかんでいませんか。またはOリングは破損していませんか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。
作業機が下がらない	油圧ストップ、フローコントロールバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップ、フローコントロールバルブを「開」にしてください。
	コントロールバルブがゴミをかんでいませんか。	サービス工場で修理してください。

4.電装関係

状　況	点検箇所	処　置
ヘッドランプが点灯しない	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	ソケットから配線が外れていませんか。	点検セットしてください。
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。
フラッシャーランプが点灯しない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	フラッシャーユニットが故障していませんか。	フラッシャーユニットを交換してください。
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。
ランプ類が点灯しない	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	配線の接触が悪くありませんか。	点検し確実に接続してください。
	スイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。
	アースの状態が悪くありません。	アース線を確実に車体に締めつけてください。
	バッテリが放電していませんか。	充電してください。
ホーンが鳴らない	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	ホーンスイッチの接触が悪くありませんか。	ホーンスイッチを確認してください。

用語解説

あ行

安全スイッチ
PTOクラッチをOFFにして、クラッチを踏まないと、エンジンがかからないようにするためのスイッチ

安全キャブ
トラクター転倒時、作業者を保護するための国の検査に合格したキャブ

インデペンデントPTO
走行関係とは無関係のPTO軸の変速装置

か行

クリープ
超低速の作業速度

グランドPTO
トラクターの後輪速度に比例して回転するPTO装置（普通のPTO軸速度はエンジンの回転に比例する）

耕深
耕うんする深さ

さ行

3点リンク
トラクターに作業機を装着する為の3点で支持を行なうリンク

サーモ：ヒータ
寒冷時、エンジンの始動性を良くするための補助装置

JAC
作業機の左右の傾きや耕深をコンピュータにより全自動で行なう装置

ジェネレータ
エンジンからの動力で電気を発生させる装置

軸距（ホイールベース）
前車軸と後車軸の距離

スーパーヒッチ
トラクターに乗ったままワンタッチで作業機を装置できるヒッチ

た行

チェックチェーン
トラクターに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェーン

チルトペダル
運転者に合せてハンドルの前後角度を調節するためのペダル

テレスコープ
運転者に合せてハンドルの上下位置を調節する装置

トップリンク
作業機を装着する3点のリンクの内、作業機の上部をつり下げているリンク

ドライブシャフト
トラクターの動力を作業機へ伝達するための軸

は行

ハイ・ローシフト
作業中重負荷でエンジン回転が低下したときギヤを低速回転に切替え負荷を乗り切る装置

ヒュージブルリンク
電気配線に規定以上の電流が流れた場合に、電気系統の保護をする部品

PTO（パワー テイク オフ）
作業機の動力を取り出すための軸

PTOクラッチ
走行とは無関係にエンジンの動力をPTO軸に取出す装置

や行

揚力
トラクターが作業機を上昇させるための力

ら行

リフトアーム
トラクターの作業機を上げるためのアース

リフトロッド
リフトアームとロアリンクを連結しているロッド

リリーフ弁
油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁

輪距（トレッド）
左右のタイヤ中心間の距離

ロアリンク
作業機を装着する3点のリンクの内、作業機の下部をつり下げているリンクで左右1本ずつある

仕様

項目			形式 MT820	備考
重量	車両重量(kg)		3200	3P付
	荷重(kg)	前輪	1270	
		後輪	1930	
	附荷重量(kg)	バンパ	30kg×10ケ	オプション
		後輪	35kg×12ケ	オプション
機関出力 (PS/rpm)			82/2200	
形状			ホイールトラクタ	
車種			大型特殊自動車	
性能	走行速度 km/h (m/sec)	前進	122ページ参照	
		後進		
機体寸法	全長(mm)		4060	~ロワーリンク
	全幅(標準性能)(mm)		1800	後輪タイヤ
	全高(mm)		2650	
	軸距(mm)		2250	
	輪距	前輪(mm)	1350~1750	
		後輪(mm)	1240~1950	
	最低地上高(mm)		415	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

項目			形式 MT820	備考
機関	銘柄型式		パーキンスPA4Bターボ付	
	種類		ディーゼル	
	冷却方式		水冷ラジエタ	
	シリンダ数		4	
	内径×行程(mm)		100×127	
	総排気量(cc)		3989	
	燃料系統	噴射ポンプ	分配形	
		噴射弁形式	ホール形	
		燃料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量(ℓ)		120	
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式	
		潤滑油量(ℓ)	12	
	冷却水量(ℓ)		16	
	電気系統	充電発電機(V-A)	12-55	
		始動電動機(V-KW)	12-3	
		蓄電池(V-Ah)	12-170	
動力伝動部	主クラッチ		乾式単板	
	変速機潤滑油量(ℓ)		58	
	差動装置形式		傘歯車式(デフロック付)	
	終減速機形式		平歯車	
走行装置	車輪	前輪	9.5-24-6PR	
		後輪	13.9-36-6PR	
	かじ取装置		全油圧パワーステアリング	
	足ブレーキ		油圧式湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		ハンドブレーキ	
運転装置	計器類および照明装置		前照灯、方向指示灯、車幅灯、番号灯、尾灯、制動灯、駐車灯、後退灯、作業灯、室内灯、レフレクタ、警告灯(駐車ブレーキ、バッテリ液、ブレーキオイル、燃料、デフロック、PTO、エンジンオイル、チャージ、作業灯、前輪駆動、ハイローシフト、方向指示、クイックターン)運転時間計、速度計、時計、水温計、燃料計、エンジン回転計、PTO回転計、前後ワイパ、ホーン、シガライタ、モニタランプチェックボタン	
動力取出軸	回転方向		右回り(軸に向かって)	
	軸寸法(mm)		35(JIS軸)	
	軸回転速度(rpm)	正転	647,819	
		逆転	-	
	その他駆動部		グランドPTO	
	けん引装置形式		スイングドローバ	
作業昇降装置	装着装置の種類規格		3点リンクJIS 2形	
	標準ロータリ耕幅(mm)			
	油圧制御方式		ポジション・ドラフト	
安全キャブ			CF920	

項目			形式 MT920	備考
重量	車両重量(kg)		3250	3P付
	荷重(kg)	前輪	1310	
		後輪	1940	
	附荷重量(kg)	バンパ	30kg×10ケ	オプション
		後輪	35kg×12ケ	オプション
機関出力 (PS/rpm)			92/2200	
形状			ホイールトラクタ	
車種			大型特殊自動車	
性能	走行速度 km/h (m/sec)	前進	122ページ参照	
		後進		
機体寸法	全長(mm)		4060	~ロワーリンク
	全幅(標準性能)(mm)		1810	後輪タイヤ
	全高(mm)		2685	
	軸距(mm)		2250	
	輪距	前輪(mm)	1350~1750	
		後輪(mm)	1240~1950	
	最低地上高(mm)		425	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

項目			形式 MT920	備考
機関	銘柄型式		パーキンスPA4Bターボ付	
	種類		ディーゼル	
	冷却方式		水冷ラジエタ	
	シリンダ数		4	
	内径×行程(mm)		100×127	
	総排気量(cc)		3989	
	燃料系統	噴射ポンプ	分配形	
		噴射弁形式	ホール形	
		燃料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量(ℓ)		120	
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式	
		潤滑油量(ℓ)	12	
	冷却水量(ℓ)		16	
	電気系統	充電発電機(V-A)	12-55	
		始動発電機(V-KW)	12-3	
		蓄電池(V-Ah)	12-170	
動力伝動部	主クラッチ		乾式単板	
	変速機潤滑油量(ℓ)		58	
	差動装置形式		傘歯車式(デフロック付)	
	終減速機形式		平歯車	
走行装置	車輪	前輪	11.2-24-6PR	
		後輪	13.6-38-6PR	
	かじ取装置		全油圧パワーステアリング	
	足ブレーキ		油圧式湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		ハンドブレーキ	
運転装置	計器類および照明装置		前照灯、方向指示灯、車幅灯、番号灯、尾灯、制動灯、駐車灯、後退灯、作業灯、室内灯、レフレクタ、警告灯(駐車ブレーキ、バッテリ液、ブレーキオイル、燃料、デフロック、PTO、エンジンオイル、チャージ、作業灯、前輪駆動、ハイローシフト、方向指示、クイックターン)運転時間計、速度計、時計、水温計、燃料計、エンジン回転計、PTO回転計、前後ワイパ、ホーン、シガライタ、モニタランプチェックボタン	
動力取出軸	回転方向		右回り(軸に向かって)	
	軸寸法(mm)		35(JIS軸)	
	軸回転速度(rpm)	正転	647、819	
		逆転		
	その他駆動部		グランドPTO	
	けん引装置形式		スイングドローバ	
作業昇降装置	装着装置の種類規格		3点リンク JIS 2形	
	標準ロータリ耕幅(mm)			
	油圧制御方式		ポジション・ドラフト	
安全キャブ			CF920	

作業速度

単位 km/h(m/sec)

速度段	クリープ	副変速	主変速	標準(ハイロースピード高速)		ハイロースピード低速	
				前　進	後　進	前　進	後　進
1	入	1 (L-1)	1	0.27(0.08)	0.27(0.08)	0.21(0.06)	0.21(0.06)
2			2	0.33(0.09)	0.32(0.09)	0.25(0.07)	0.25(0.07)
3			3	0.40(0.11)	0.39(0.11)	0.31(0.09)	0.30(0.08)
4			4	0.45(0.13)	0.44(0.12)	0.35(0.10)	0.34(0.09)
5		2 (L-2)	1	0.54(0.15)	0.53(0.15)	0.42(0.12)	0.41(0.11)
6			2	0.65(0.18)	0.64(0.18)	0.50(0.14)	0.49(0.12)
7			3	0.80(0.22)	0.78(0.22)	0.62(0.17)	0.61(0.17)
8			4	0.90(0.25)	0.88(0.24)	0.69(0.19)	0.68(0.19)
9		3 (H-1)	1	1.11(0.31)	1.09(0.30)	0.86(0.24)	0.84(0.23)
10			2	1.33(0.37)	1.30(0.36)	1.03(0.29)	1.01(0.28)
11			3	0.64(0.46)	1.60(0.44)	1.27(0.35)	1.24(0.34)
12			4	1.84(0.51)	1.79(0.50)	1.42(0.39)	1.39(0.39)
13		4 (H-2)	1	2.22(0.62)	2.17(0.60)	1.72(0.48)	1.68(0.47)
14			2	2.66(0.74)	2.60(0.72)	2.06(0.57)	2.01(0.56)
15			3	3.28(0.91)	3.20(0.89)	2.54(0.71)	2.48(0.69)
16			4	3.67(1.02)	3.59(1.00)	2.84(0.79)	2.78(0.77)
17	切	1 (L-1)	1	2.24(0.62)	2.19(0.60)	1.74(0.48)	1.70(0.47)
18			2	2.69(0.75)	3.63(1.01)	2.08(0.58)	2.03(0.56)
19			3	3.31(0.92)	3.23(0.90)	2.56(0.71)	2.50(0.69)
20			4	3.71(1.03)	3.63(1.01)	2.87(0.80)	2.81(0.78)
21		2 (L-2)	1	4.49(1.25)	4.38(1.22)	3.47(0.96)	3.39(0.94)
22			2	5.38(1.49)	5.26(1.46)	4.16(1.16)	4.07(1.13)
23			3	6.62(1.84)	6.47(1.80)	5.12(1.42)	5.01(1.39)
24			4	7.42(2.06)	7.25(2.01)	5.74(1.59)	5.61(1.56)
25		3 (H-1)	1	9.18(2.55)	8.97(2.49)	7.11(1.98)	6.95(1.93)
26			2	11.01(3.06)	10.76(2.99)	8.52(2.37)	8.33(2.31)
27			3	13.55(3.76)	13.24(3.68)	10.49(2.91)	10.25(2.85)
28			4	15.19(4.22)	14.83(4.12)	11.76(3.27)	11.49(3.19)
29		4 (H-2)	1	18.37(5.10)	17.95(4.99)	14.22(3.95)	13.89(3.86)
30			2	22.02(6.12)	21.52(5.98)	17.05(4.74)	16.66(4.63)
31			3	27.09(7.53)	26.48(7.36)	20.97(5.83)	20.49(5.69)
32			4	30.37(8.44)	29.68(8.24)	23.51(6.53)	22.98(6.38)
最高速度				33.41(9.28)			

速度はエンジン定格回転(2200rpm)、タイヤサイズは後輪13.6-38のときを示します。

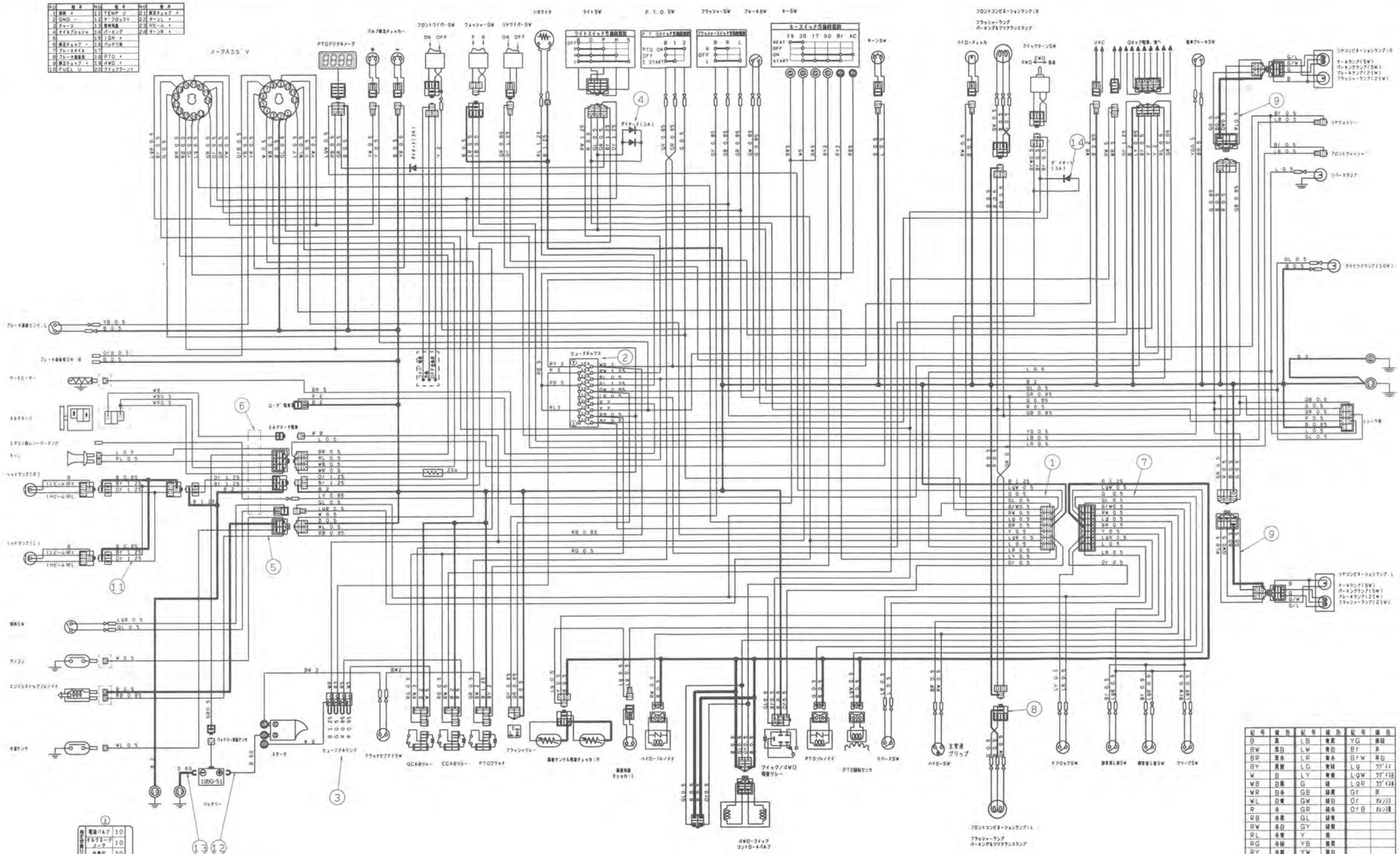
標準付属品

品　　名	個　　数
ツールバック	1
差換えドライバー（⊕・⊖）	1
ス　パ　ナ 8×10	1
ス　パ　ナ 11×13	1
ス　パ　ナ 12×14	1
ス　パ　ナ 17×19	1
プライヤー	1
オフセットレンチ 12×14	1
オフセットレンチ 17×19	1
オフセットレンチ 22×24	1
ボックススパナ	1
バー	1
オイルフィルタレンチ	1
取扱説明書	1
保　証　書	1
定期点検整備表	1
安全のポイント	1

オプション

品　目　名	1台当りの使用個数	仕様または型式
Vウェイトフレーム	1セット	前部ウェイト用フレーム
Vゼンブウェイト（B）	1〜10セット	前部ウェイト；フレームに取付 30kg×1セット
コウリンウェイト（A）	4セット	後輪ウェイト35kg×1枚1セット
コウリンウェイト（B）	4〜8セット	後輪ウェイト；（A）に追加用 35kg×1枚1セット
リンケージドローバ：Ⅱ	1個	JIS 2型
トレーラソケットAss'y	1セット	7極トレーラ用カップリング
サブバルブー2レンメ	1セット	単複切替2連目用
サブバルブー3レンメ	1セット	単複切替3連目用
サブバルブータンデテントツキ	1セット	単動下降デテント付（2連目用）
ユアツリフトロッドーS	1セット	油圧リフトシリンダ キャブ無し（メカ）用
ユアツトップリンク、 リフトロッドーS	1セット	油圧トップリンク、リフトロッドセット、 キャブ無し（メカ）用
ユアツトップリンクーS，Q	1セット	キャブ付（メカ）用 キャブ無（メカ）用、ユアツリフトロッドに追加分
エアクリーナKIT；ガイソウ	1セット	外装プレクリーナ
カラー	2個	ロワーリンクJIS1型に変換用
ホジョシリンダKIT	1セット	三点、アシストシリンダ

配線図



番号	部品名称	個数	備考
16			
15			
14	ダイオード	1	
13	バッテリーケーブル	1	(−)
12	バッテリーケーブル	1	(+) φ9(M8用)
11	ワイヤーハーネス	1	ヘッドランプ用
10			
9	ワイヤーハーネス	2	リヤコンビネーションランプ :R, L
8	ワイヤーハーネス	2	フロントコンビネーションランプ
7	ワイヤーハーネス	1	メインシャーシ
6	ワイヤーハーネス	1	エンジン :R
5	ワイヤーハーネス	1	エンジン :L
4	ダイオード	3	3A 600V
3C	ヒューズブルリンク	1	G 0.5
3B	ヒューズブルリンク	2	R 0.85
3A	ヒューズブルリンク	1	B 1.25
3	カバー	1	ヒューズブルリンク
2C	ヒューズ	3	20A
2B	ヒューズ	4	15A
2A	ヒューズ	7	10A
2	ヒューズカバー	1	
1	ワイヤーハーネス	1	メイン G

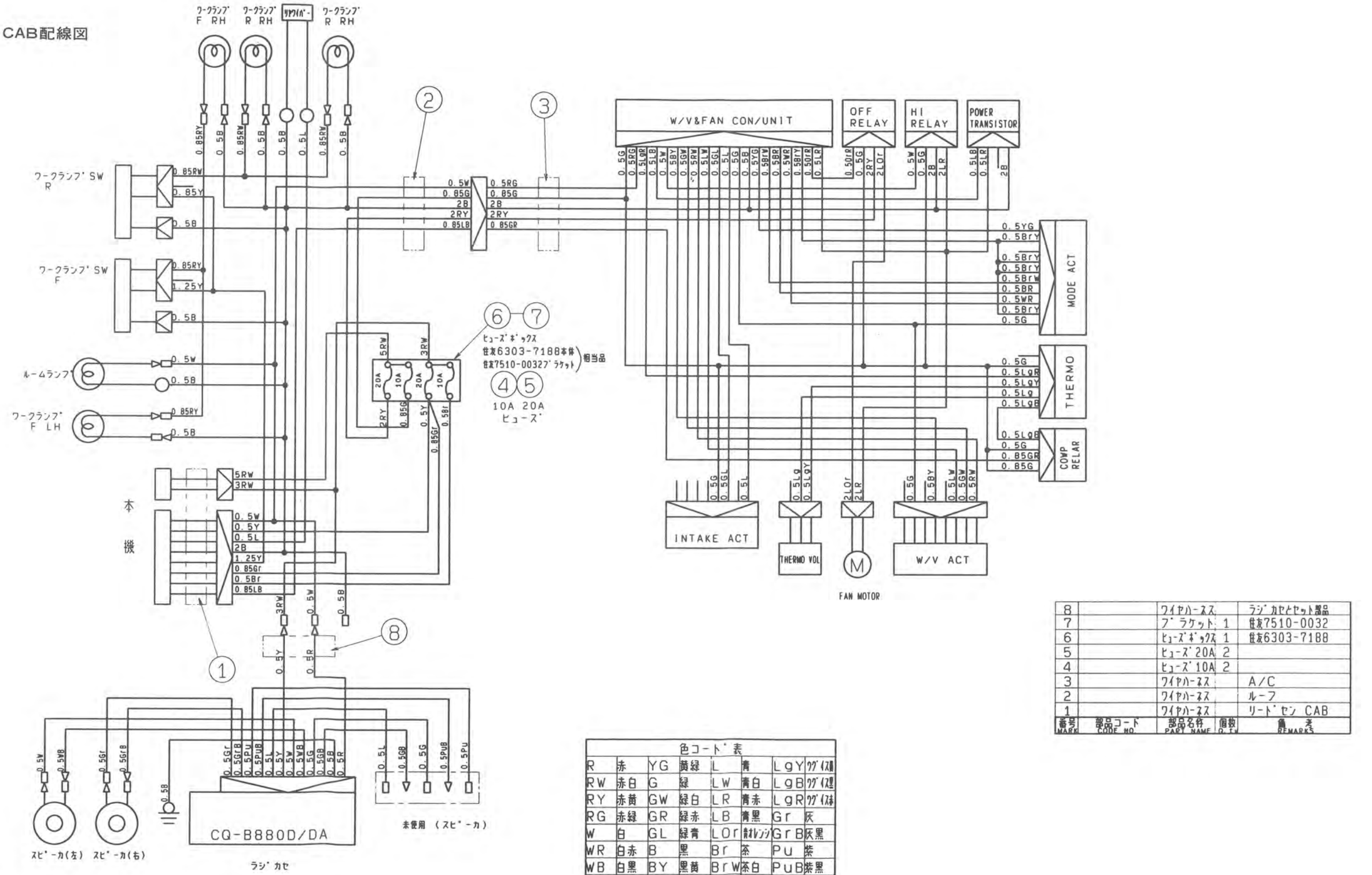
番号	部品名称	個数	備考

記号	線色	記号	線色	記号	線色
B	黒	LB	青黒	YG	黄緑
BW	黒白	LW	青白	Br	茶
BR	黒赤	LR	青赤	BrW	茶白
BY	黒黄	LG	青緑	Lg	ﾗｲﾄｸﾞﾘｰﾝ
W	白	LY	青黄	LgW	ﾗｲﾄｸﾞﾘｰﾝ白
WB	白黒	G	緑	LgR	ﾗｲﾄｸﾞﾘｰﾝ赤
WR	白赤	GB	緑黒	Gr	灰
WL	白青	GW	緑白	Or	ｵﾚﾝｼﾞ
R	赤	GR	緑赤	OrB	ｵﾚﾝｼﾞ黒
RB	赤黒	GL	緑青		
RW	赤白	GY	緑黄		
RL	赤青	Y	黄		
RG	赤緑	YB	黄黒		
RY	赤黄	YW	黄白		
L	青	YR	黄赤		

①	
電磁バルブ	10
オルタネータ メータ	10
作業灯	20
ロード電源	20
リバースランプ	10
クラッシャー ブレーキ	10
シガライタ	15
ホーン	10
ライト	15
キーSTOP PTO	15

ヒューズカバー開閉

CAB配線図

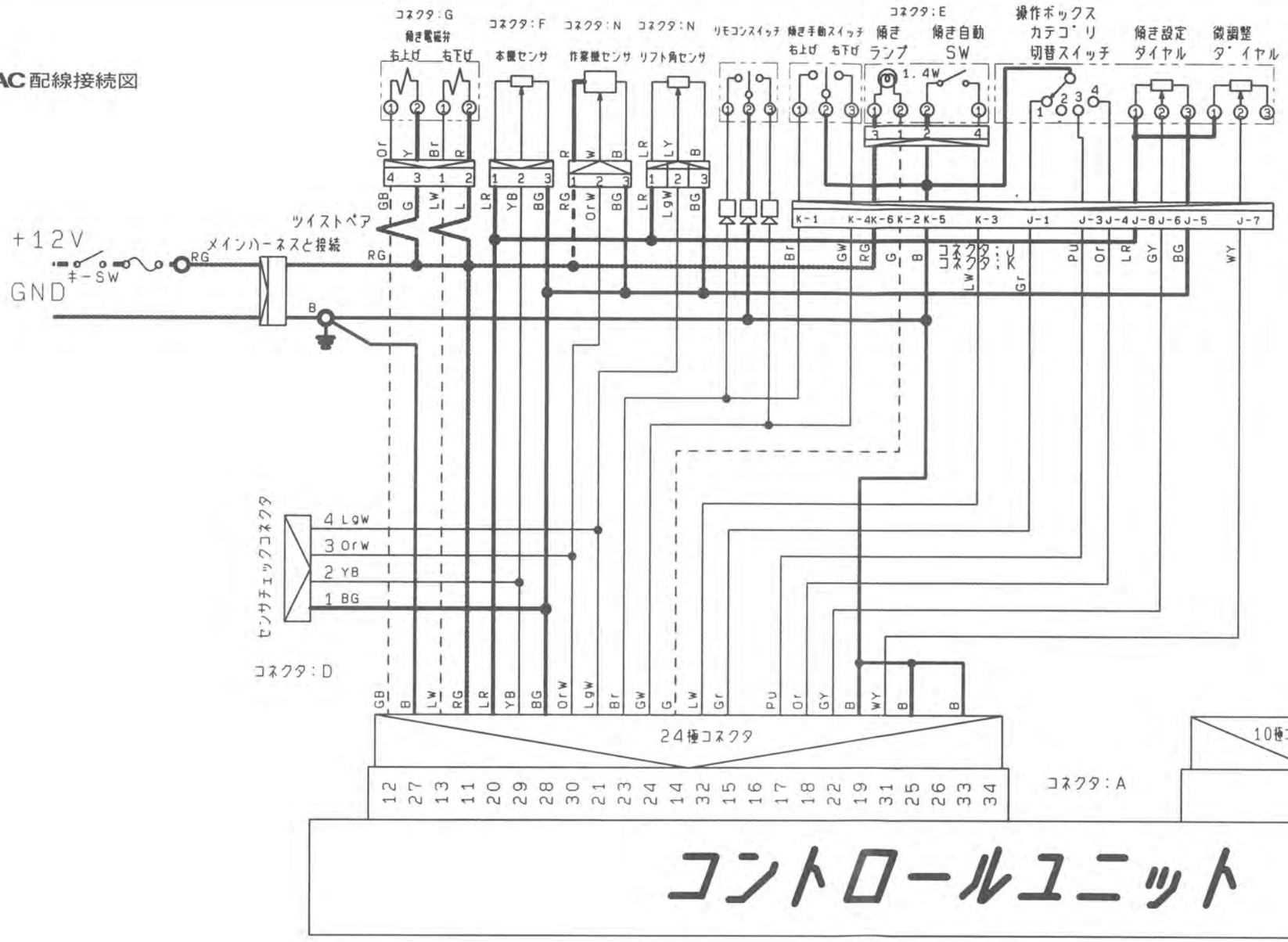


8		ワイヤハーネス		ラジカセとヤット部品
7		ブラケット	1	住友7510-0032
6		ヒューズボックス	1	住友6303-7188
5		ヒューズ 20A	2	
4		ヒューズ 10A	2	
3		ワイヤハーネス		A/C
2		ワイヤハーネス		ルーフ
1		ワイヤハーネス		リードセン CAB
番号 MARK	部品コード CODE NO.	部品名称 PART NAME	個数 Q'TY	備考 REMARKS

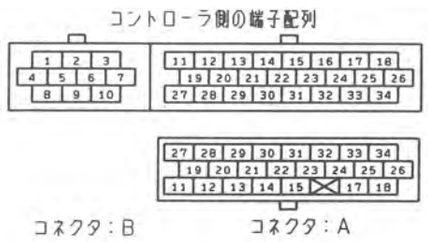
色コード表

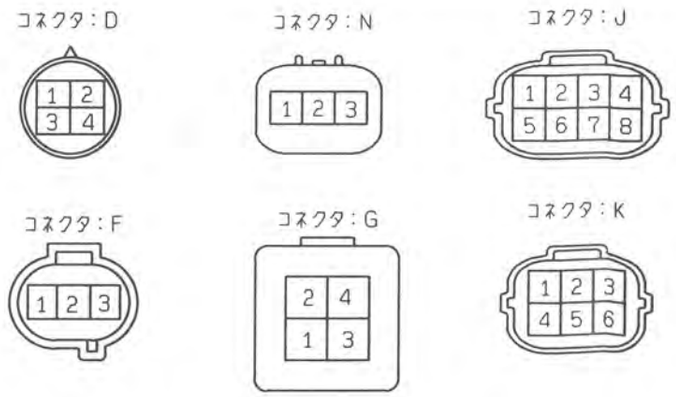
R	赤	YG	黄緑	L	青	LgY	ウグイス黄
RW	赤白	G	緑	LW	青白	LgB	ウグイス黒
RY	赤黄	GW	緑白	LR	青赤	LgR	ウグイス赤
RG	赤緑	GR	緑赤	LB	青黒	Gr	灰
W	白	GL	緑青	LOr	青オレンジ	GrB	灰黒
WR	白赤	B	黒	Br	茶	Pu	紫
WB	白黒	BY	黒黄	BrW	茶白	PuB	紫黒
Y	黄	BR	黒赤	Lg	ウグイス	OrR	オレンジ赤

JAC配線接続図



コントローラ側の端子配列





本図のコネクタ端子配列は
メインハーネスのコネクタを
嵌合する側から見たものである